

〔病態制御学講座〕

(1) 解剖学分野

1. 研究の概要

1) Wnt シグナル伝達系の機能と制御：

Wnt シグナル系は細胞の増殖、分化、癌化などに関わる重要なシグナルを伝えます。私たちは、Wnt シグナル系の調節に関与する因子 (APC, ICAT) や、関与の可能性のある因子 (DLG) の遺伝子改変マウスを解析することで、Wnt シグナル系の新しい機能とその制御機構を明らかにしようとしています。

2) APC 遺伝子の形態形成における役割：

APC 遺伝子は大腸がん抑制遺伝子として発見されましたが、腸だけでなく全身に広く分布しています。特に胎生期と生後を通じて、APC の脳での発現は非常に高いことがわかっています。しかし不思議なことに、APC 遺伝子の変異によって大腸がんは発生しますが、同一個体で脳腫瘍の発生は見られません。このことから、脳にある APC には、がん抑制とは別の重要な働きがあるのではないかと私たちは考えました。APC (分子量 300kDa) には分子内にいくつもの機能ドメインがありますが、APC が Wnt 系を抑制し癌化を抑制する機能には、APC 分子中央にある β カテニン結合部位が必須であることがわかっています。一方、APC の C 末端には、PSD-95, DLG, Microtubules, EB1 などが結合し、神経との関連性が濃厚です。現在私たちは、APC の C 末端特異的な生体機能を知るために APC1638T マウスを解析しています。APC1638T マウスは、1639 アミノ酸以降の C 末端側が欠損した変異 APC タンパク質を発現します。この変異 APC タンパク質には β カテニン結合部位が含まれるため、APC1638T マウスではがんは発生しません。行動学的、形態学的、生化学的、生理学的に多角的な解析を行った結果、APC1638T マウスには顕著な行動異常と、脳シナプスの構造的・機能的異常が認められました。さらに、消化管、網膜、甲状腺などでも形態異常が見つかり、APC が全身諸臓器・組織の形態形成に関与していることが明らかになってきています。

3) アルツハイマー病抵抗遺伝子の検索：

アルツハイマー病 (認知症、AD) は老人斑、神経原線維変化、広範な神経細胞の消失を主徴とする、最も罹患者の多い神経変性疾患です。AD の病因の核心である“アミロイド前駆体 (APP) の代謝異常”を標的とした抗 AD 薬の創出を目指し解析を行っています。

4) がん微小環境における細胞間コミュニケーションの解明

多くの細胞が分泌する生体膜由来の小胞 Extracellular Vesicles (EVs) は、細胞間情報伝達の新しいキャリアとして注目を浴びています。がん細胞はこの“飛び道具”を用いて周囲の細胞を教育し、自身にとって有益な細胞へとリプログラミングしていることが近年わかってきました。EVs に含まれる cargo (microRNA やタンパク質など) の機能を明らかにすることで、EVs を介したがん微小環境における細胞間コミュニケーションの解明、がん進展メカニズムの解明に取り組んでいます。

2. 名簿

教授：	千田隆夫	Takao Senda
准教授：	松田修二	Shuji Matsuda
助教：	小川名美	Nami Ogawa

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 千田隆夫, 小村一也. プラクティカル解剖実習 四肢・体幹・頭頸部—解剖の手順を写真と図で明示— 東京：丸善出版株式会社；2017年.

著書 (欧文)

- 1) Yamada N, Akao Y. Extracellular vesicles in cancer. In: Iglic A, Kulkarni C, Rappolt M, ed. Advances in biomembranes and lipid self-assembly. Cambridge: Academic Press; 2016:187-204.

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

- 1) Chen H, Senda T, Kubo K. The osteocyte plays multiple roles in bone remodeling and mineral

homeostasis. Med Mol Morphol. 2015;48:61-68.	CS	1.33
原著 (和文)		
なし		
原著 (欧文)		
1) Iizuka-Koga A, Senda T, Akiyama T, Shimomura A, Nomura R, Hasegawa Y, Yamamura K, Kogo H, Sawai N, Matsuzaki T. Requirement of DLG1 for cardiovascular development and tissue elongation during cochlear, enteric, and skeletal development: possible role in convergent extension. PLoS One. 2015;10:e0123965.	CS	3.11
2) Sakai K, Senda T, Hata R, Kuroda M, Hasegawa M, Kato M, Abe M, Kawaguchi K, Nakai S, Hiki Y, Yuzawa Y, Kitaguchi N. Patients that have undergone hemodialysis exhibit lower amyloid deposition in the brain: evidence supporting a therapeutic strategy for Alzheimer's disease by removal of blood amyloid. J Alzheimers Dis. 2016;51:997-1002.	CS	3.62
3) Tsujimura N, Yamada NO, Kuranaga Y, Kumazaki M, Shinohara H, Taniguchi K, Akao Y. A novel role of Dickkopf-related protein 3 in macropinocytosis in human bladder cancer T24 cells. Int J Mol Sci. 2016;17:1846	CS	3.73
4) Yamada NO. Extracellular vesicles in cancer: current status and challenges. Transl Cancer Res. 2016;5:S561-563.	CS	1.36
5) Wang T, Onouchi T, Yamada NO, Matsuda S, Senda T. A disturbance of intestinal epithelial cell population and kinetics in APC1638T mice. Med Mol Morphol. 2017;50:94-102.	CS	1.33
6) Yamada NO. Extracellular vesicles: Emerging mediators of intercellular communication and tumor angiogenesis. Ann Transl Med. 2017;5:59	CS	0.05

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：千田隆夫；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：APC蛋白質のC末端に由来する多彩な生理機能とその異常；平成27-29年度；4,810千円(1,560：1,430：1,820千円)
- 2) 研究代表者：松田修二；平成27年度岐阜大学医学系研究科研究科長・医学部長裁量経費による研究費の重点的配分；アルツハイマー病抵抗遺伝子BRI2に由来するペプチドを用いた、記憶分子複合体の探索；平成27年度；700千円
- 3) 研究代表者：松田修二；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：アルツハイマー病抵抗遺伝子BRI2に由来するペプチドを用いた記憶分子複合体の探索；平成28-30年度；4,680千円(1,040：1,820：1,820千円)
- 4) 研究代表者：山田名美；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：大腸癌分泌膜小胞による免疫寛容誘導メカニズムの解明；平成26-28年度；4,030千円(2,200：920：910千円)
- 5) 研究代表者：山田名美；学術研究助成基金助成金特別研究員奨励費：大腸癌におけるmiR-145のWnt/ β -cateninシグナル制御機構の解明；平成25-27年度；2,070千円(900：78：1,092千円)
- 6) 研究代表者：山田名美；大学活性化経費(一般研究支援)：細胞の代謝・分化・増殖におけるAPCタンパクC末端特異的機能の解明；平成28年度；750千円
- 7) 研究代表者：小川名美；大学活性化経費(一般研究支援)：大腸がんが分泌する細胞外小胞の宛先タンパクの探索；平成29年度；950千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

千田隆夫：

- 1) 日本解剖学会理事(～現在)
- 2) 日本臨床分子形態学会理事(～現在)

3) 日本臨床分子形態学会編集委員長(～現在)

2) 学会開催

千田隆夫：

1) 第 49 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

千田隆夫：

1) Medical Molecular Morphology ; Editor in Chief(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

千田隆夫：

1) 第 49 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜, 会長講演「APC が織りなす細胞内シグナルネットワークと研究者ネットワーク」演者)

2) 第 49 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜, 特別講演「世の中は「べき乗則」で動くー研究不正と大学間格差を例としてー」座長)

松田修二：

1) 第 49 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜, シンポジウム「神経難病の基礎と臨床」座長)

2) 第 49 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜, シンポジウム「神経難病の基礎と臨床」シンポジスト)

小川名美：

1) 第 49 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜, シンポジウム「マイクロ RNA の機能を読み解く」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

小川名美：

1) 岐阜医学奨励賞(平成 29 年度)

9. 社会活動

千田隆夫：

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成 28 年 12 月～現在)

松田修二：

岐阜県准看護師試験委員(平成 27 年～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

本学ではテュートリアル教育のために、基礎医学の各科目の習得期間が短い。2 年生になったばかりの学生たちは、たった 10 週間で膨大な解剖学 (マクロ、ミクロ、発生) を習得することになっているが、それは物理的に困難である。そこで教員の教育スキルと教材の工夫が必要になる。当分野では、各教員の自由裁量部分が大きい、常に「短時間で minimum requirement が習得できる」教育方法を模索している。昨年、本学の解剖実習の回数とスケジュールに完全に合致した解剖実習プロトコル書「プラクティカル解剖実習-四肢・体幹・頭頸部-」を世に出した。解剖実習の効率化に寄与するだろう。研究課題は 3 人の

教員それぞれが独自の研究課題に取り組んでいる。4人の大学院生には、千田が主導する課題に関係したテーマを与え、教員がマンツーマンで指導している。教員3人が皆、各自のテーマで研究費を獲得していることは、評価できる。

現状の問題点及びその対応策

現在、4名の大学院生と1名の研究生が在籍しているが、そのうち2名は社会人大学院生である。彼らの研究時間は著しく限られ、とても4年で学位には到達しないだろう。他の3名はすべて中国からの留学生である。全国的な問題であるが、今後、解剖学の教育者・研究者の先細りは避けられないだろう。医学部本館内の共同利用機器の更新は行わない、という学科の方針の影響を強く受けている。形態学を主たる研究手法とする当分野にとっては、医学科内に電子顕微鏡やレーザー蛍光顕微鏡がないことは、大変困る。消耗品は運営費と各自で獲得した研究費で買えるが、数千万円レベルの高額機器の整備は、学科の責任であろう。そのような劣悪な環境であっても、なんとか研究を進めて業績を出すことは、研究者の実力である。創意工夫を重ねて、国際競争力を高め、次のポストを獲得する逞しさを身につけて欲しい。

今後の展望

現在、4名の大学院生と1名の研究生が在籍しているが、そのうち2名は社会人大学院生である。彼らの研究時間は著しく限られ、とても4年で学位には到達しないだろう。他の3名はすべて中国からの留学生である。全国的な問題であるが、今後、解剖学の教育者・研究者の先細りは避けられないだろう。医学部本館内の共同利用機器の更新は行わない、という学科の方針の影響を強く受けている。形態学を主たる研究手法とする当分野にとっては、医学科内に電子顕微鏡やレーザー蛍光顕微鏡がないことは、大変困る。消耗品は運営費と各自で獲得した研究費で買えるが、数千万円レベルの高額機器の整備は、学科の責任であろう。そのような劣悪な環境であっても、なんとか研究を進めて業績を出すことは、研究者の実力である。創意工夫を重ねて、国際競争力を高め、次のポストを獲得する逞しさを身につけて欲しい。

(2) 分子病態学分野

1. 研究の概要

1) 抗体記憶の形成維持機構の解明

免疫記憶は、特異性免疫の最も重要な特徴であり、その人工的付与であるワクチン療法は感染症対策、さらには抗腫瘍免疫療法として期待されている。また、近年ヒト型抗体医薬による B リンパ球除去療法の SLE、慢性関節リウマチ、多発性硬化症等自己免疫疾患での有効例が示唆する様に、ある種の自己免疫病の病態にはスイッチ型の自己抗体産生が関わっており、慢性難治性の本態に記憶 B リンパ球の形成が関連している可能性がある。従って免疫記憶の生成と消退の分子機構を解明する事は、医学・医療の進歩に寄与する所大である。B リンパ球は末梢で抗原と出会い、T リンパ球からのヘルプを受け、胚中心を形成する。その際 B リンパ球に Activation induced cytidine deaminase(AID)が発現し、自らの抗体遺伝子を改変し、高親和性のスイッチ型抗体をコードした遺伝子へと作り変えてゆく。胚中心 B リンパ球のうち、一部が形質細胞に分化、更にその一部が骨髄の微小環境で長期生存形質細胞として長期にわたる血清抗体価の維持に貢献する。また、別の一部は休止状態で長期生存する記憶 B リンパ球となると考えられている。その運命決定の原理や、その長期生存の本態等、記憶 B リンパ球に関する基本的な事項は、未だ十分に明らかではない。我々は、抗体記憶の形成維持機構を分子レベルで進め、そこから免疫記憶制御の基礎を築く事を目指している。

2) AID 遺伝子(Aicda)発現調節の分子機構の解明

AID は活性化 B 細胞内で起こる抗体遺伝子の改変に必須の分子だが、その変異導入の標的には抗体遺伝子のみならずがん関連遺伝子を含む多様な遺伝子が含まれる。そのため AID は内因性的の変異源として一部の B リンパ腫の発生に関わると考えられている。また、AID の発現は、通常は活性化 B リンパ球に特異的とされているが、感染や炎症に伴う外的刺激に反応して B リンパ球以外の細胞でも発現することが知られており、AID がリンパ腫に限らず広く腫瘍の発生に関わっている可能性がある。また、AID は酵素としてメチル化シトシンを脱メチル化させる反応を触媒する活性を持っており、そのことから広く細胞のエピジェネティックな制御にも関わることが提唱されている。そこで、我々は Aicda 遺伝子の発現調節の分子機構を明らかにするために、遺伝子編集の技術などを用い、調節に関わる多数の転写因子群の役割を解析している。

2. 名簿

教授： 長岡 仁 Hitoshi Nagaoka
助教： 佐藤克哉 Katsuya Sato

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)
なし

総説 (和文)
なし

総説 (欧文)
なし

原著 (和文)
なし

原著 (欧文)

- 1) Sato K, Kimura M, Sugiyama K, Nishikawa M, Okano Y, Nagaoka H, Nagase T, Kitade Y, Ueda H. Four-and-a-Half LIM Domains 1 (FHL1) Protein Interacts with the Rho Guanine Nucleotide Exchange Factor PLEKHG2/FLJ00018 and Regulates Cell Morphogenesis. *J Biol Chem.* 2016;291:25227-25238. CS 4.17
- 2) Sugiyama K, Tago K, Matsushita S, Nishikawa M, Sato K, Muto Y, Nagase T, Ueda H. Heterotrimeric G protein Gas subunit attenuates PLEKHG2, a Rho family-specific guanine nucleotide exchange factor, by direct interaction. *Cellular Signalling.* 2017;32:115-123. CS 4.16
- 3) Ohashi T, Aoki M, Tomita H, Akazawa T, Sato K, Kuze B, Mizuta K, Hara A, Nagaoka H, Inoue N, Ito Y. M2-like macrophage polarization in high lactic acid-producing head and neck cancer. *Cancer Science.*

2017;108:1128-1134.

CS 4.14

- 4) Nishikawa M, Sato K, Nakano A, Yamakawa H, Nagase T, Ueda H. Specific activation of PLEKHG2-induced serum response element-dependent gene transcription by four-and-a-half LIM domains (FHL) 1, but not FHL2 or FHL3. Small GTPases. 2017 DOI:10.1080/21541248.2017.1327838

CS 3.21

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：長岡 仁；科学研究費補助金基盤研究(C)：細胞リプログラミングへのシチジンアミナーゼの関与；平成 26-28 年度；4,940 千円(1,690：1,690：1,560 千円)
- 2) 研究代表者：佐藤克哉；科学研究費補助金若手研究(B)：生体内 enChIP 法を用いたシチジンデアミナーゼ遺伝子発現調節機構の解明；平成 27-29 年度；4,030 千円(1,560：1,170：1,300 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

長岡 仁：

- 1) 日本生化学会評議員(～現在)
- 2) 日本免疫学会評議員(～現在)
- 3) 日本生化学会代議員(平成 27 年 11 月～現在)

佐藤克哉：

- 1) 日本生化学会中部支部幹事(平成 27 年 9 月～平成 29 年 8 月)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

長岡 仁：

- 1) 第 44 回日本免疫学会学術集会(平成 27 年 11 月, 札幌, ワークショップ「B cell biology」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 金山佳史：日本生化学会中部支部会支部奨励賞(平成 27 年度)

9. 社会活動

長岡 仁：

- 1) 名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ(平成 29 年 11 月, 名古屋, 「抗体遺伝子改変機構—抗体とその遺伝子のお話—」)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

遺伝子編集技術を活用し, Aicda 制御に関する分子機構の解明を進め,一定の成果を得ることができた。得られた成果は, 国内の複数の学会にて報告を行い, 現在学術論文を準備している。また, 学内外の複数の研究者とも積極的に共同研究を行い, 生化学分野全体の研究発展に寄与することができたと考えている。教育面においては, 平成 26 年の複数教員の異動があった後, 当分野が担当する実習内容の見直しや, 講義内容の見直しを図った。

現状の問題点及びその対応策

教員 2 名で教育・研究の両方を担っており, 研究にあてられるエフォートがあまり多くないことが問題である。職員の他に, 学生研究員 2 名および, 平成 29 年秋より在籍している留学生 1 名が研究に携わっているが, 同様に研究に費やせる時間が多くあるとは言えない。学部 2 年生の選択チュートリアル教育や, 分野説明会等を通じて, 基礎研究に興味を持ってもらえる学生を増やすとともに, 大学院生等の確保に努めていきたい。

今後の展望

多くの論文を出すことも大切であるが, 論文のための論文ではなく, 真に社会に還元できるような成果を生み出すようにしていきたいと考えている。また, 学生を含め, 教室員個々ももつ多様なバックグラウンドを生かし, 既存のテーマを基盤にしつつもそれにとらわれることなく”オリジナル”な研究を発信できるようにしていきたいと考えている。

(3) 循環病態学分野

1. 研究の概要

1. 再生医学・再生医療

- 1) G-CSF (顆粒球コロニー刺激因子) を用いた狭心症, 心筋梗塞・心不全・閉塞性動脈硬化症に対する再生療法
- 2) Erythropoietin を用いた心筋梗塞・心不全・閉塞性動脈硬化症, に対する再生療法の開発
- 3) 抗がん剤, 5-FU 等を用いた心筋梗塞後の再生療法の開発
- 4) Gelatin hydrogel sheet あるいは粒子の Drug Delivery System を用いた G-CSF と erythropoietin による心筋梗塞・心不全・閉塞性動脈硬化症に対する心臓組織再生あるいは血管再生療法の開発
- 5) ナノリポソームを用いた G-CSF と erythropoietin による心筋梗塞後心筋組織修復再生療法の開発, 下肢閉塞性動脈疾患に対する血管再生療法に関する研究
- 6) ホーミング分子で修飾された内皮前駆細胞あるいは筋芽細胞による心血管再生治療法の開発
- 7) 骨髄細胞移植ならびに G-CSF を用いた COPD 等の肺疾患に対する再生療法
- 8) LOX 遺伝子改変マウスを用いた下肢虚血モデルにおける LOX-1 の血管新生血における LOX の関与に関する研究
- 9) Erythropoietin を用いた重症下肢閉塞性動脈硬化症に対する臨床研究
- 10) Erythropoietin と gelatin hydrogel 粒子を用いた重症下肢閉塞性動脈硬化症に対する臨床研究

2. 遺伝子治療

- 1) 心不全に対する HGF, sFas, 可溶性 TGF- β II 型受容体, Decorin の遺伝子治療
- 2) 糖尿病性腎症に対する sFas, HGF 遺伝子治療

3. アポトーシス, オートファジー

- 1) 循環器疾患とアポトーシス
筋繊維芽細胞のアポトーシスのブロックによる左室リモデリング予防
- 2) 腎疾患とアポトーシス
糖尿病性腎症の発症メカニズムにおけるアポトーシスの役割の解明
- 3) 循環器疾患とオートファジー
心筋梗塞・心不全の際のオートファジーの病態生理解明と治療法の開発

4. 虚血心筋保護のメカニズム解明と new drug の開発

- 1) 抗糖尿病薬 miglitol, acarbose, voglibose など α -glucosidase 阻害薬, ピオグリタゾン, ナテグリニド, グリクラジドによる虚血心筋保護作用のメカニズム解明とその臨床応用
- 2) 抗高脂血症薬スタチンの pleiotropic effect としての虚血心筋保護作用のメカニズム解明
- 3) 各種心血管薬 (ARB, Ca 拮抗薬, 抗血小板薬, β 遮断薬) の虚血心筋保護作用のメカニズム解明

5. 心不全

- 1) 不全心筋における angiotensin II type 2 受容体の病態生理学的意義の解明
- 2) 心筋細胞変性の分子病理
- 3) アシアロエリスロポエチンの抗心不全作用の解明
- 4) LOX-1 遺伝子改変マウスを用いた左室圧負荷モデルでの LOX-1 の心筋肥大への関与に関する研究
- 5) LOX-1 遺伝子改変マウスを用いたドクソビシン誘導性心筋症による心不全に対する LOX-1 関与に関する研究
- 6) インスリン抵抗性改善薬, 食後高血糖改善薬の心不全に対する保護効果

6. IB-IVUS, IB-エコー, および光干渉波断層画像

- 1) 冠動脈プラーク progression のメカニズムの解明
- 2) 急性冠症候群発症のメカニズムの解明
- 3) 冠動脈プラークの動態と組織性状の関連の解明
- 4) 脂質低下療法が冠動脈・頸動脈プラークの組織性状に及ぼす影響の解明
- 5) 頸動脈プラークの組織性状と脳梗塞発症の関連の解明と核磁気共鳴画像との比較
- 6) 頸動脈プラークの組織性状と頸動脈ステント合併症の関連の解明
- 7) 光干渉波断層画像による冠動脈・頸動脈プラークの不安定性の評価
- 8) 光干渉波断層画像のステレオ三次元化
- 9) Velocity vector imaging による心房機能の評価と心房細動発症の予測
- 10) 糖尿病治療と動脈硬化改善の関連の解明
- 11) 頸動脈硬化と予後の関連の解明

- 12) PET-CTによる頸動脈硬化の評価
- 7. MDCTによる冠動脈病変診断**
- 1) MDCT画像とIB-IVUS画像との組織性状診断比較
- 8. カテーテルアブレーションによる各種頻脈性不整脈治療**
- 1) 心房細動患者における肺静脈のIB-IVUSによる組織性状診断
- 9. T波交互現象を用いた心室性致死性不整脈による心臓突然死のリスク層別化に関する研究**
- 1) 急性心筋梗塞発症時の超短期予後の予測に関する研究
- 2) 慢性維持透析患者における心臓突然死の予測に関する研究
- 10. 安定労作性冠動脈疾患に対する治療法に関する研究**
- 1) 低リスク安定労作性狭心症に対する薬物療法とインターベンション療法の予後に関する無作為介入試験 (JSAP Study) の長期予後調査研究 (JSAP: Seven year outcome study)
- 2) 経皮的冠動脈形成術の高血圧患者におけるカルシウム拮抗薬の臓器保護効果に関する研究 (benidipine vs nifedipine, CACOT Trial)
- 3) 冠動脈疾患合併慢性動脈閉塞症患者に対するサルボグレラート塩酸塩の心機能改善効果に関する研究 (アンブラーグ, SCAPA Study)
- 4) COPD合併冠動脈疾患に対するセリプロロールの効果に関する研究 (ECCAP Study)
- 5) 薬剤溶出ステントに対する抗血小板療法—シロスタゾールの有用性に関する研究 (MUGIC-CYPHER Study)
- 11. 冠攣縮性狭心症に対する薬物治療に関する研究**
- 1) 冠攣縮性狭心症患者における主要心血管イベントに対するカルシウム拮抗薬の効果に関する研究—メタ解析 (VSA-meta Study)
- 2) 切迫冠攣縮性狭心症 (Urgent vasospastic angina: UVA) の実態と臨床的特徴に関する研究
- 12. 慢性腎臓病合併心疾患に対する薬物治療に関する研究**
- 1) 冠動脈造影による造影剤腎症発症予防に対するニコランジルの有用性に関する研究 (ニコランジル-CKD study)
- 2) 冠動脈疾患を有する慢性維持透析患者に対する経口ニコランジル投与の心血管イベントに及ぼす影響に関する研究 (PRECON Trial HD)
- 3) CKD合併高血圧患者におけるN型CCBの効果に関する研究 (NAGARA study, azelnidipine vs. cilnidipine)
- 13. 急性冠症候群に対する薬物治療に関する研究**
- 1) 急性心筋梗塞患者におけるアンジオテンシン II受容体拮抗薬の炎症性マーカーに及ぼす影響に関する研究 (INMAT-AMI Study)
- 2) 急性冠症候群に対する抗血小板療法と予後に関する研究 (シロスタゾール vs プレタール)
- 3) 急性冠症候群における内因性サイトカインの役割とその予後予測
- 14. 臨床核医学**
- 1) 心筋梗塞, 狭心症, 肥大型心筋症, 二次性心筋疾患 (サルコイドーシスなど) の核医学的検討
- 2) α -グルコシダーゼ阻害薬の虚血心筋保護作用の核医学的検討
- 15. 高血圧についての基礎的および臨床的研究**
- 1) SHRにおいて塩分負荷が心臓・腎臓組織レニン, プロレニンに与える影響に関する研究
- 2) 高血圧症患者におけるレニン, プロレニンの関与に関する研究
- 3) 家庭血圧測定的重要性と降圧薬の評価に関する臨床研究, DOHSAM研究, GAIN研究, GIFT研究
- 16. 閉塞性動脈硬化症に対する治療法の開発**
- 1) エリスロポエチン, G-CSF注射による下肢閉塞性動脈疾患の治療
- 2) エリスロポエチン含浸ゲラチンハイドロゲル筋注による下肢閉塞性動脈疾患の治療
- 17. 東洋医学的アプローチ**
- 1) パーキンソン病に対する鍼治療
- 2) 天台烏薬の腎疾患に対する効果の検討
- 3) 天台烏薬の動脈硬化に対する効果に関する実験的検討
- 4) 入院循環器重症患者のICUせん妄に対する東洋医学の効果の検討

2. 名簿

教授：	湊口信也	Shinya Minatoguchi
臨床教授	西垣和彦	Kazuhiko Nishigaki
准教授：	川崎雅規	Masanori Kawasaki
講師：	金森寛充	Hiromitsu Kanamori
助教：	山田好久	Yoshihisa Yamada
臨床講師：	久保田知希	Tomoki Kubota
臨床講師：	高杉信寛	Nobuhiro Takasugi
臨床講師：	田中俊樹	Toshiki Tanaka
臨床講師：	渡邊崇量	Takatomo Watanabe
臨床講師：	名和隆英	Takahide Nawa
医員：	伊藤文隆	Fumitaka Ito
医員：	吉田学郎	Gakuro Yoshida
医員：	柳瀬恒明	Komei Yanase
医員：	中島孝	Takashi Nakashima
医員：	吉田明弘	Akihiro Yoshida
医員：	湊口信吾	Shingo Minatoguchi
医員：	馬場慎也	Shinya Baba
医員：	垣内大蔵	Daizo Kaito
医員：	小牧久晃	Hisaaki Komaki
医員：	内藤順子	Junko Naito
医員：	林美紗代	Misayo Hayashi
医員：	佐々木優佳	Yuka Sasaki
医員：	五明岳展	Takenobu Gomyo
医員 (パート)：	豊吉沙耶香	Sayaka Toyoshi
医員 (パート)：	横山ちはる	Chiharu Yokoyama

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 西垣和彦. 12. 重症心不全患者の治療とケア、TOPICS 心臓移植に関する動向(改正臓器移植法)：眞茅みゆき, 池亀俊美, 加藤尚子編. 心不全ケア教本, 東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル；2015年：246-251.
- 2) 西垣和彦, 湊口信也. 6. 慢性心不全の非薬物療法 3. minimally invasive therapy Q2 PTMC について注意しないといけないことを教えてください：北風政史編, 天木 誠編集協力. 心不全診療 Q&A エキスパート 105 人からの回答 改訂 2 版, 東京：中外医学社；2015 年：330-332.
- 3) 西垣和彦, 湊口信也. 10. 心不全を全体としてどうとらえるか -from bench to bedside- Q2 CRAS について教えてください：北風政史編, 天木 誠編集協力. 心不全診療 Q&A エキスパート 105 人からの回答 改訂 2 版, 東京：中外医学社；2015 年：439-441.
- 4) 西垣和彦. 第 5 章大学生のための病気の知識—大学生に比較的多い病気を中心に— 第 2 節 心臓の病気：岐阜県大学保険管理研究会企画, 山本眞由美監修. 2015 大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理, 岐阜：岐阜新聞社；2015 年：126-130.
- 5) 川崎雅規, 湊口信也. 心不全の全て 心不全の診断：症状、身体所見、基本的検査：今井 靖編. 診断と治療 103 巻増刊号, 東京：診断と治療社；2015 年：13-18.
- 6) 川崎雅規. 心不全の全て 心不全の治療薬：硝酸薬、ニコランジルの使い方：今井 靖編集. 診断と治療 103 巻増刊号, 東京：診断と治療社；2015 年：168-171.
- 7) 川崎雅規. PCI で使い倒す IB-IVUS を PCI で活用する：本江純子編集. IVUS 徹底活用術, MEDICAL VIEW 社；2015 年：118-126.
- 8) 川崎雅規, 湊口信也. 循環器疾患 循環器診療における医療安全：堀 正三, 永井良三, 伊藤 浩編. 最新の治療, 東京：南江堂；2015 年：73-77.
- 9) 牛越博昭(分担). 第 II 章 心不全評価のための検査 6：血液検査の使い方, 読み方：診断と治療 増刊号 vol103, 東京：診断と治療社；2015 年：91-94.
- 10) 牛越博昭(分担). 第 3 章 第 2 節 救急時の対応：2015 大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理, 岐阜：岐阜新聞社；2015 年：43-53.
- 11) 川崎雅規, 湊口信也. 循環器診療における医療安全：堀 正三, 永井良三, 伊藤 浩編. 循環器疾患 最新の治療 2016-2017, 東京：南江堂；2016 年：73-77.
- 12) 牛越博昭(分担). 内科初期対応総論 二次救命処置(Advanced Life Support:ALS)：内科救急診療指針 2016,

東京：日本内科学会；2016年：15-17.

- 13) 牛越博昭(分担). 第3章 第2節 救急時の対応：2016 大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理, 岐阜：岐阜新聞社；2016年：43-53.
- 14) 早川由香, 飯田真美. I. リスク管理—D. 禁煙 2 薬剤各論：佐藤幸人編. ここが知りたい循環器の薬と使い方, 東京：中外医学社；2017年：75-82.

著書 (欧文)

- 1) Kawasaki M. Chapter 7: Noninvasive Measurement of Pulmonary Capillary Wedge Pressure by Speckle Tracking Echocardiography: Echocardiography, Croatia: INTECH; 2016:133-146.

総説 (和文)

- 1) 西垣和彦. PADIS-PE 試験：ワルファリンをいつ中止するのが良いのか？～特発性肺血栓塞栓症の初発患者の場合, CareNet CLEAR! ジャーナル四天王 2015年；398.
- 2) 西垣和彦. 質疑応答『高コレステロール血症患者に対する脳梗塞予防としての抗血小板薬投与の有用性』臨床一般, 日本医事新報 2015年；4771 巻：63-64.
- 3) 西垣和彦. CHA2DS2-VASc スコアの応用って？～JAMA 掲載に値するか～, CareNet CLEAR! ジャーナル四天王 2015年；430.
- 4) 川崎雅規. IB-IVUS からみた動脈硬化進展のメカニズム 動脈硬化予防, Prevention of Arteriosclerosis 2015年；14 巻, 12-21.
- 5) 川崎雅規. VH-IVUS・IB-IVUS で何がみえるか：Heart View, Vol.20, No.9, 2016年：15-23.
- 6) 川崎雅規. 血管内超音波で評価する冠動脈プラークの組織性状：医学のあゆみ, Vol259, No.6 2016年；652-630.
- 7) 金森寛充, 竹村元三, 湊口信也. 糖尿病性心筋症—心筋オートファジーの関与—, 循環器内科 2017年；第81 巻第1号：62-71.
- 8) 金森寛充, 竹村元三, 湊口信也. オートファジー：心機能にどのような影響を与えているか, Heart Viwe 2017年；vol.21 No.9：62-70.
- 9) 中島 孝. Electrical storm を来した Brugada 症候群 2 症例；Transvenous ICD 症例と Subcutaneous ICD 症例, 心電図 2017年；37 巻：32-38.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 田中新一郎, 野田俊之, 久保田知希, 瀬川知則, 岩間 眞, 川崎雅規, 西垣和彦, 渡辺佐知郎, 皆川太郎, 湊口信也. 24 時間デジタルホルター心電計による心房遅延電位の評価と日内変動, Therapeutic Research 2015年；36 巻：799-807.
- 2) 田中新一郎, 瀬川知則, 野田哲生, 八巻隆彦, 久保田知希, 川崎雅規, 西垣和彦, 野田俊之, 皆川太郎, 渡辺佐知郎, 大橋宏重, 湊口信也. 高血圧患者における心筋重量当たりの左室収縮能と拡張能の検討～心臓超音波検査での左室重量あたりのパルス組織ドプラ法における僧帽弁輪速度の測定意義について～, 血圧 2015年；22 巻：559-565.
- 3) 川崎雅規. 循環器領域における最近の新薬の処方に関する考え方, 岐阜県医師会医学雑誌 2015年；28 巻：29-36.
- 4) 安藤貴洋, 西垣和彦, 川瀬春奈, 松尾紗織, 名和隆英, 青木隆明, 秋山治彦, 湊口信也. 2 型糖尿病合併陳旧性心筋梗塞患者における運動時循環動態の検討, 心臓リハビリテーション(JJCR) 2016年；22 巻：185-190.
- 5) 川崎雅規, 岩佐将充, 金森寛充, 山田好久, 田中俊樹, 牛越博昭, 大野 康, 三上 敦, 西垣和彦, 湊口信也. 血管内超音波検査で評価する冠動脈プラークの不安定性と各種臨床検査値との関連, 臨床病理 2016年；64 巻：319-326.
- 6) 松本 淳, 村田一知朗, 宮崎 渚, 西脇亜由子, 名和隆英, 牛越博昭, 湊口信也. 小児の過敏性腸症候群に対して鍼灸治療が有用であった 1 症例, 日本東洋医学雑誌 2016年；67 巻：144-149.
- 7) 中島 孝, 岩佐将充, 金森寛充, 牛越博昭, 川崎雅規, 西垣和彦, 小椋弘樹, 石田成史洋, 島袋勝也, 宮崎龍彦, 竹村博文, 湊口信也. Carney 複合の一家系, 心臓 2016年；48 巻：774-780.
- 8) 川崎雅規. 心房細動の発症・心不全・僧帽弁閉鎖不全・左室拡張障害の評価のため左房圧推定の重要性 —超音波スペックル・トラッキング法による非侵襲的肺動脈楔入圧測定法の開発—, 岐阜県医師会医学雑誌 2017年；30 巻：27-30.

原著 (欧文)

- 1) Kawamura I, Hayashi M, Kanamori H, Kawasaki M, Nishigaki K, Minatoguchi S, Mizuno Y, Takemura H. Cardiac Papillary Fibroelastoma Originating from the Mitral Valve Chordae. Intern Med. 2015;54:3161-3164. CS 0.84
- 2) Yanase K, Funaguchi N, Iihara H, Yamada M, Kaito D, Endo J, Ito F, Ohno Y, Tanaka H, Itoh Y, Minatoguchi S. Prevention of radiation esophagitis by polaprezinc (zinc L-carnosine) in patients with non-small cell lung cancer who received chemoradiotherapy. Int J Clin Exp Med. 2015;8:16215-16222. CS 1.25

- 3) Murakami H, Otani E, Iwata T, Esaka Y, Aoyama T, Kawasaki M, Tanaka T, Minatoguchi S, Uno B. Simple Pretreatment and HILIC Separation for LC-ESI-MS/MS Determination of Adenosine in Human Plasma. *Anal Sci.* 2015;31:1189-1192. CS 1.20
- 4) Matsumoto-Miyazaki J, Miyazaki N, Nishiwaki A, Endo J, Ushikoshi H, Ohno Y, Minatoguchi S. Acupuncture Treatment for Dyspnea due to Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema: A Case Report. *J Altern Complement Med.* 2015;21:804-809. CS 1.55
- 5) Higashi K, Yamada Y, Minatoguchi S, Baba S, Iwasa M, Kanamori H, Kawasaki M, Nishigaki K, Takemura G, Kumazaki M, Akao Y, Minatoguchi S. MicroRNA-145 repairs infarcted myocardium by accelerating cardiomyocyte autophagy. *Am J Physiol Heart Circ Physiol.* 2015;309:H1813-1826. CS 3.60
- 6) Abe S, Tokoro F, Matsuoka R, Arai M, Noda T, Watanabe S, Horibe H, Fujimaki T, Oguri M, Kato K, Minatoguchi S, Yamada Y. Association of genetic variants with dyslipidemia. *Mol Med Rep.* 2015;12:5429-5436. CS 1.75
- 7) Funaguchi N, Nakajima Y, Kaito D, Yanase K, Ito F, Endo J, Morishita M, Asano M, Iihara H, Mori H, Ohno Y, Minatoguchi S. Analysis of Pemetrexed Monotherapy in Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Impaired Renal Function. *Gan To Kagaku Ryoho.* 2015;42:705-708. CS 0.09
- 8) Yoshida G, Kawasaki M, Murata I, Hayakawa Y, Aoyama T, Miyazaki N, Yamada Y, Nishigaki K, Arai Y, Suzuki F, Minatoguchi S. Higher plasma prorenin concentration plays a role in the development of coronary artery disease. *Biomark Res.* 2015;3:18.
- 9) Nawa T, Nishigaki K, Kinomura Y, Tanaka T, Yamada Y, Kawasaki M, Minatoguchi S. Continuous intravenous infusion of nicorandil for 4 hours before and 24 hours after percutaneous coronary intervention protects against contrast-induced nephropathy in patients with poor renal function. *Int J Cardiol.* 2015;195:228-234. CS 2.09
- 10) Kanamori H, Takemura G, Goto K, Tsujimoto A, Mikami A, Ogino A, Watanabe T, Morishita K, Okada H, Kawasaki M, Seishima M, Minatoguchi S. Autophagic adaptations in diabetic cardiomyopathy differ between type 1 and type 2 diabetes. *Autophagy.* 2015;11:1146-1160. CS 6.01
- 11) Morishita K, Takemura G, Tsujimoto A, Kanamori H, Okada H, Chousa M, Ushimaru S, Mikami A, Kawamura I, Takeyama T, Kawaguchi T, Watanabe T, Goto K, Morishita M, Ushikoshi H, Kawasaki M, Ogura S, Minatoguchi S. Postinfarction Cardiac Remodeling Proceeds Normally in Granulocyte Colony-Stimulating Factor Knockout Mice. *Am J Pathol.* 2015;185:1899-1911. CS 4.57
- 12) Ogino A, Takemura G, Hashimoto A, Kanamori H, Okada H, Nakagawa M, Tsujimoto A, Goto K, Kawasaki M, Nagashima K, Miyakoda G, Fujiwara T, Yabuuchi Y, Fujiwara H, Minatoguchi S. OPC-28326, a selective peripheral vasodilator with angiogenic activity, mitigates postinfarction cardiac remodeling. *Am J Physiol Heart Circ Physiol.* 2015;309:H213-221. CS 3.60
- 13) Watanabe T, Kawasaki M, Tanaka R, Ono K, Kako N, Saeki M, Onishi N, Nagaya M, Sato N, Miwa H, Arai M, Noda T, Watanabe S, Minatoguchi S. Anti-inflammatory and morphologic effects of pitavastatin on carotid arteries and thoracic aorta evaluated by integrated backscatter trans-esophageal ultrasound and PET/CT: a prospective randomized comparative study with pravastatin (EPICENTRE study). *Cardiovasc Ultrasound.* 2015;13:17. CS 1.86
- 14) Saeki M, Sato N, Kawasaki M, Tanaka R, Nagaya M, Watanabe T, Ono K, Noda T, Zile MR, Minatoguchi S. Left ventricular layer function in hypertension assessed by myocardial strain rate using novel one-beat real-time three-dimensional speckle tracking echocardiography with high volume rates. *Hypertens Res.* 2015;38:551-559. CS 2.36
- 15) Hayakawa Y, Aoyama T, Yokoyama C, Okamoto C, Komaki H, Minatoguchi S, Iwasa M, Yamada Y, Kawamura I, Kawasaki M, Nishigaki K, Mikami A, Suzuki F, Minatoguchi S. High salt intake damages the heart through activation of cardiac (pro) renin receptors even at an early stage of hypertension. *PLoS One.* 2015;10:e0120453. CS 3.32
- 16) Sato H, Kawasaki M, Morita N, Fujiwara H, Minatoguchi S. Distribution of tissue characteristics of coronary plaques evaluated by integrated backscatter intravascular ultrasound: Differences between the inner and outer vessel curvature. *J Cardiol.* 2015;66:489-495. CS 2.11
- 17) Matsuoka R, Abe S, Tokoro F, Arai M, Noda T, Watanabe S, Horibe H, Fujimaki T, Oguri M, Kato K, Minatoguchi S, Yamada Y. Association of six genetic variants with myocardial infarction. *Int J Mol Med.* 2015;35:1451-1459. CS 2.40
- 18) Kawasaki M, Tanaka R, Ono K, Minatoguchi S, Watanabe T, Iwama M, Hirose T, Arai M, Noda T, Watanabe S, Zile MR, Minatoguchi S. A novel ultrasound predictor of pulmonary capillary wedge pressure assessed by the combination of left atrial volume and function: A speckle tracking echocardiography study. *J Cardiol.* 2015;66:253-262. CS 2.11
- 19) Tokoro F, Matsuoka R, Abe S, Arai M, Noda T, Watanabe S, Horibe H, Fujimaki T, Oguri M, Kato K, Minatoguchi S, Yamada Y. Association of a genetic variant of the ZPR1 zinc finger gene with type 2 diabetes mellitus. *Biomed Rep.* 2015;3:88-92.
- 20) Okada H, Takemura G, Kanamori H, Tsujimoto A, Goto K, Kawamura I, Watanabe T, Morishita K, Miyazaki N, Tanaka T, Ushikoshi H, Kawasaki M, Miyazaki T, Suzui N, Nishigaki K, Mikami A, Ogura S, Minatoguchi S. Phenotype and physiological significance of the endocardial smooth muscle cells in human failing hearts. *Circ Heart Fail.* 2015;8:149-155. CS 5.74

- 21) Kawasaki M. An integrated backscatter ultrasound technique for the detection of coronary and carotid atherosclerotic lesions. *Sensors* 2015;15:979-994. CS 2.21
- 22) Kawasaki M. An integrated backscatter ultrasound technique for coronary plaque imaging. *Curr Cardiovas Imaging Rep* 2015;8:14. CS 0.65
- 23) Kawasaki M. Tissue characterization of coronary plaques as a key to reno-cardiac syndrome. *Circ J* 2015;79:1691-1692. CS 2.66
- 24) Shindo S, Fujii K, Shirakawa M, Uchida K, Enomoto Y, Iwama T, Kawasaki M, Ando Y, Yoshimura S. Morphologic features of carotid plaque rupture assessed by optical coherence tomography. *AJNR Am J Neuroradiol.* 2015;36:2140-2146. CS 3.04
- 25) Hayashi H, Kita Y, Iihara H, Yanase K, Ohno Y, Hirose C, Yamada M, Todoroki K, Kitaichi K, Minatoguchi S, Itoh Y, Sugiyama T. Simultaneous and rapid determination of gefitinib, erlotinib and afatinib plasma levels using liquid chromatography/tandem mass spectrometry in patients with non-small-cell lung cancer. *Biomed Chromatogr.* 2016;30:1150-1154. CS 1.66
- 26) Kawasaki M, Tanaka R, Miyake T, Matsuoka R, Kaneda M, Minatoguchi S, Hirose T, Ono K, Nagaya M, Sato H, Kawase Y, Tomita S, Tsuchiya K, Matsuo H, Noda T, Minatoguchi S. Estimated pulmonary capillary wedge pressure assessed by speckle tracking echocardiography predicts successful ablation in paroxysmal atrial fibrillation. *Cardiovasc Ultrasound.* 2016;14:6. CS 1.86
- 27) Ito F, Kawasaki M, Ohno Y, Toyoshi S, Morishita M, Kaito D, Yanase K, Funaguchi N, Asano M, Endo J, Mori H, Kobayashi K, Nishigaki K, Miyazaki T, Takemura G, Minatoguchi S. Noninvasive Tissue Characterization of Lung Tumors Using Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound: An Ex Vivo Comparative Study With Pathological Diagnosis. *Chest.* 2016;149:1276-1284. CS 4.66
- 28) Takasugi N, Goto H, Takasugi M, Verrier RL, Kuwahara T, Kubota T, Toyoshi H, Nakashima T, Kawasaki M, Nishigaki K, Minatoguchi S. Prevalence of Microvolt T-Wave Alternans in Patients With Long QT Syndrome and Its Association With Torsade de Pointes. *Circ Arrhythm Electrophysiol.* 2016;9:e003206. CS 4.05
- 29) Sato Y, Minatoguchi S, Nishigaki K, Hirata KI, Masuyama T, Furukawa Y, Uematsu M, Yoshikawa J, Otsuji S, Iida M, Fujiwara H; SHYOGI Study Investigators. Results of a Prospective Study of Acute Coronary Syndrome Hospitalization After Enactment of a Smoking Ban in Public Places in Hyogo Prefecture - Comparison With Gifu, a Prefecture Without a Public Smoking Ban. *Circ J.* 2016;80:2528-2532. CS 2.66
- 30) Takahashi S, Kawasaki M, Miyata S, Suzuki K, Yamaura M, Ido T, Aoyama T, Fujiwara H, Minatoguchi S. Feasibility of tissue characterization of coronary plaques using 320-detector row computed tomography: comparison with integrated backscatter intravascular ultrasound. *Heart Vessels.* 2016;31:29-37. CS 1.27
- 31) Kawasaki M, Tanaka R, Ono K, Minatoguchi S, Watanabe T, Arai M, Nishigaki K, Noda T, Watanabe S, Minatoguchi S. Impact of gender and healthy aging on pulmonary capillary wedge pressure estimated by the kinetics-tracking index using two-dimensional speckle tracking echocardiography. *Hypertens Res.* 2016;39:327-333. CS 2.36
- 32) Kamiya F, Ohn Y, Funaguchi N, Yanase K, Ito F, Endo J, Mori H, Osuga T, Iwata H, Yasuda N, Takatsu H, Minatoguchi S. 3-D computed tomographic airway analysis detects mild bronchiectasis in mycobacterium avium complex pulmonary disease. *Int J Clin Exp Med.* 2016;9:5978-5986. CS 1.25
- 33) Matsumoto-Miyazaki J, Miyazaki N, Murata I, Yoshida G, Ushikoshi H, Ogura S, Minatoguchi S. Traditional Thermal Therapy with Indirect Moxibustion Decreases Renal Arterial Resistive Index in Patients with Chronic Kidney Disease. *J Altern Complement Med.* 2016;22:306-314. CS 1.55
- 34) Kawase Y, Kawasaki M, Tanaka R, Nomura N, Fujii Y, Ogawa K, Sato H, Miyake T, Kato T, Tsunekawa T, Okubo M, Tsuchiya K, Tomita S, Matsuo H, Minatoguchi S. Noninvasive estimation of pulmonary capillary wedge pressure in patients with mitral regurgitation: A speckle tracking echocardiography study. *J Cardiol.* 2016;67:192-198. CS 2.11
- 35) Yokoyama C, Aoyama T, Ido T, Kakino A, Shiraki T, Tanaka T, Nishigaki K, Hasegawa A, Fujita Y, Sawamura T, Minatoguchi S. Deletion of LOX-1 Protects against Heart Failure Induced by Doxorubicin. *PLoS One.* 2016;11:e0154994. CS 3.32
- 36) Kawasaki M, Iwasa M, Kanamori H, Yamada Y, Tanaka T, Ushikoshi H, Ohno Y, Mikami A, Nishigaki K, Minatoguchi S. Relationship between Coronary Plaque Stability Evaluated by Intravascular Ultrasound and Laboratory Parameters. *Rinsho Byori.* 2016;64:319-326.
- 37) Goto K, Takemura G, Takahashi T, Okada H, Kanamori H, Kawamura I, Watanabe T, Morishita K, Tsujimoto A, Miyazaki N, Ushikoshi H, Kawasaki M, Mikami A, Kosai K, Minatoguchi S. Intravenous Administration of Endothelial Colony-Forming Cells Overexpressing Integrin β 1 Augments Angiogenesis in Ischemic Legs. *Stem Cells Transl Med.* 2016;5:218-226. CS 4.89
- 38) Ito F, Ohno Y, Toyoshi S, Kaito D, Koumei Y, Endo J, Kamamiya F, Mori H, Mori M, Morishita M, Funaguchi N, Minatoguchi S. Pharmacokinetics of consecutive oral moxifloxacin (400 mg/day) in patients with respiratory tract infection. *Ther Adv Respir Dis.* 2016;10:34-42. CS 2.31
- 39) Kawasaki M. Tissue characterization of coronary plaques as a key to relationship between serum uric acid level and cardiovascular disease: a direct risk or an indirect marker? *J Atherosclero Thrombo*

- 2016;23:605-607. CS 2.34
- 40) Minatoguchi S, Kawasaki M, Tanaka R, Yoshizane T, Ono K, Saeki M, Nagaya M, Sato H, Nishigaki K, Noda T, Zile MR, Minatoguchi S. Evaluation of systolic and diastolic properties of hypertensive heart failure using speckle-tracking echocardiography with high volume rates. *Heart Vessels*. 2017;32(10):1202-1213. CS 2.26
- 41) Nakashima T, Suzuki K, Aoyama T, Kawasaki M, Nishigaki K, Minatoguchi S. Optimizing the detection of macroscopic T-wave alternans using high precordial leads in a patient with Brugada syndrome. *Europace*. 2017;19(5):721. CS 2.78
- 42) Kaito D, Iihara H, Funaguchi N, Endo J, Ito F, Yanase K, Toyoshi S, Sasaki Y, Hirose C, Arai N, Kitahara M, Ohno Y, Itoh Y, Minatoguchi S. Efficacy of Single-dose First-generation 5-HT3 Receptor Antagonist and Dexamethasone for Preventing Nausea and Vomiting Induced by Low-dose Carboplatin-based Chemotherapy. *Anticancer Res*. 2017;37(4):1965-1970. CS 1.90
- 43) Fujikawa K, Takasugi N, Goto T, Minatoguchi S. Very Late-Onset Dabigatran-Induced Esophageal Injury. *Can J Cardiol*. 2017;33(4):554.e15-554.e16. CS 2.46
- 44) Minatoguchi S, Takasugi N, Kubota T, Ushikoshi H, Nishigaki K, Minatoguchi S. Augmented QRS notching and macroscopic T-wave alternans preceding polymorphic ventricular tachycardia in a patient with electrical storm. *Europace*. 2017;19(4):643. CS 2.78
- 45) Matsumoto-Miyazaki J, Ushikoshi H, Miyata S, Miyazaki N, Nawa T, Okada H, Ojio S, Ogura S, Minatoguchi S. Acupuncture and Traditional Herbal Medicine Therapy Prevent Delirium in Patients with Cardiovascular Disease in Intensive Care Units. *Am J Chin Med*. 2017;45(2):255-268. CS 2.83
- 46) Nakashima T, Kubota T, Takasugi N, Kitagawa Y, Yoshida T, Ushikoshi H, Kawasaki M, Nishigaki K, Ogura S, Minatoguchi S. Hyperglycemia and subsequent torsades de pointes with marked QT prolongation during refeeding. *Nutrition*. 2017;33:145-148. CS 3.12
- 47) Baba S, Iwasa M, Higashi K, Minatoguchi S, Yamada Y, Kanamori H, Kawasaki M, Nishigaki K, Minatoguchi S. Antidiabetic Drug Alogliptin Protects the Heart Against Ischemia-reperfusion Injury Through GLP-1 Receptor-dependent and Receptor-independent Pathways Involving Nitric Oxide Production in Rabbits. *J Cardiovasc Pharmacol*. 2017;70(6):382-389. CS 2.24
- 48) Okamoto C, Hayakawa Y, Aoyama T, Komaki H, Minatoguchi S, Iwasa M, Yamada Y, Kanamori H, Kawasaki M, Nishigaki K, Mikami A, Minatoguchi S. Excessively low salt diet damages the heart through activation of cardiac (pro) renin receptor, renin-angiotensin-aldosterone, and sympatho-adrenal systems in spontaneously hypertensive rats. *PLoS One*. 2017;12(12):e0189099. CS 3.11
- 49) Sahashi Y, Takasugi N, Naruse G, Kubota T, Nishigaki K, Minatoguchi S. Microvolt T-wave alternans monitoring in a patient with levofloxacin-induced Torsade de Pointes. *J Electrocardiol*. 2017;51(1):108-110. CS 1.14

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：青山琢磨；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：可溶性 LOX-1 血中濃度測定による特発性拡張型心筋症の重症度評価及び予後の検討；平成 26-28 年度；4,940 千円(2,600：1,170：1,170 千円)
- 2) 研究代表者：西垣和彦；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：KATP チャネル・オープナー-Nicorandil による新規心腎連関抑制療法の確立；平成 27-29 年度；4,680 千円(2,860：780：1,040 千円)
- 3) 研究代表者：川崎雅規；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：急性冠症候群の予測のための冠動脈プラークの力学的ストレス解析超音波装置の開発；平成 27-29 年度；4,030 千円(1,300：1,300：1,430 千円)
- 4) 研究代表者：金森寛充；研究科長裁量経費：δサルコグリカン欠損心筋症におけるオートファジーの病態生理解明と治療応用；平成 27 年度；500 千円
- 5) 研究代表者：田中俊樹；臨床研究推進支援経費：血漿アデノシンが左室機能障害患者に果たす役割に関する研究；平成 27 年度；600 千円
- 6) 研究代表者：田中俊樹；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：急性心筋梗塞患者における Muse 細胞動員の動態と左室リモデリングへの関与；平成 28-30 年度；4,810 千円(2,210：2,210：390 千円)
- 7) 研究代表者：金森寛充；研究科長裁量経費：心不全による GLP-1(Glucagon-Like Peptide-1)の意義と治療応用の探索；平成 28 年度；500 千円
- 8) 研究代表者：金森寛充；研究科長裁量経費：CKD(慢性腎不全)における心筋(プロ)レニン受容体の意義と心不全治療への応用；平成 29 年度；500 千円

2) 受託研究

- 1) 湊口信也：非腫瘍性多能性幹細胞 Muse 細胞を用いた心筋再生による心不全治療法開発に関する研究；平成 27 年度；45,500 千円：日本医療研究開発機構(AMED)
- 2) 青山琢磨：スロノン HI 注 10mg/2ml 使用成績調査(全例調査)；平成 24-27 年度；21 千円：第一三共(株)
- 3) 西垣和彦：プラザキカプセル特定使用成績調査(長期使用に関する調査)；平成 24-27 年度；630 千円：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
- 4) 村田一知朗：ネスブ注射液プランシリンジ特定使用成績調査 保存期慢性腎臓患者における腎性貧血；平成 23-27 年度；252 千円：協和発酵キリン(株)
- 5) 湊口信也(中島 孝)：ペプリコール錠 100mg 有害事象詳細調査；平成 27 年度；21.6 千円：第一三共(株)
- 6) 村田一知朗：リツキサン注使用成績調査(全例調査)；平成 26-29 年度；129.6 千円：中外製薬(株)
- 7) 湊口信也：メインテート錠 副作用詳細調査；平成 27 年度；21.6 千円：田辺三菱製薬(株)
- 8) 湊口信也：リクシアナ錠有害事象詳細調査；平成 27 年度；21.6 千円：第一三共(株)
- 9) 西垣和彦：エリキユース錠 2.5mg, 5mg 特定使用成績調査(長期使用)；平成 25-30 年度；630 千円：ファイザー(株)
- 10) 村田一知朗：サムスカ使用成績調査(ADPKD)全例調査；平成 26-30 年度；194.4 千円：大塚製薬(株)
- 11) 村田一知朗：サムスカ使用成績調査(ADPKD)全例調査(追加配分)；平成 26-30 年度；691.2 千円：大塚製薬(株)
- 12) 湊口信也：サムチレール内用懸濁液 15%使用成績調査(非 HIV 患者調査)(前例調査)；平成 26-29 年度；194.4 千円：グラクソ・スミスクライン(株)
- 13) 湊口信也：パリエット錠特定使用成績調査-低用量アスピリンとの長期併用投与に関する調査-；平成 27 年度；97.4 千円：グラクソ・スミスクライン(株)
- 14) 湊口信也：パリエット錠特定使用成績調査-低用量アスピリンとの長期併用投与に関する調査-(追加配分)；平成 27-29 年度；97.2 千円：グラクソ・スミスクライン(株)
- 15) 湊口信也：非腫瘍性多能性幹細胞 Muse 細胞を用いた心筋再生による心不全治療法開発に関する研究橋渡し研究加速ネットワークプログラム(シーズB)；平成 28 年度；42,000 千円：日本医療研究開発機構(AMED)
- 16) 湊口信也：急性心筋梗塞の心筋再生を促進する内因性 Muse 細胞誘導因子の開発橋渡し研究加速ネットワークプログラム(シーズ A)；平成 28 年度；2,000 千円：日本医療研究開発機構(AMED)
- 17) 湊口信也：極端な減塩食による心臓障害発生のメカニズム解明-心臓(pro)renin 受容体とレニン・アンギオテンシン・アルドステロン系、神経体液性因子の関与-；平成 28 年度；1,200 千円：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
- 18) 山田好久：極端な減塩食による心臓障害発生メカニズム解明-血中レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系、神経体液性因子、心臓(pro)renin 受容体の関与-平成 28 年度；2,000 千円：公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
- 19) 金森寛充：筋ジストロフィーにおける心筋オートファジーを介した新規心不全治療の開発；平成 28 年度；3,000 千円：公益財団法人持田記念医学薬学復興財団
- 20) 西垣和彦：イグザレルト錠特定使用成績調査；平成 28-32 年度；338.800 千円：バイエル薬品(株)
- 21) 湊口信也：拡張型心筋症の心筋再生を促進する内因性 MUSE 細胞誘導因子の開発橋渡し研究加速ネットワークプログラム(シーズ A)；平成 29 年度；2,500 千円：日本医療研究開発機構(AMED)
- 22) 湊口信也：極端な減塩食による心臓(pro)renin 受容体亢進を介する心臓障害のメカニズム解明；平成 29 年度；1,200 千円：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
- 23) 湊口信也：クラビット錠有害事象詳細調査；平成 29 年度；21.6 千円：第一三共(株)
- 24) 湊口信也：リクシアナ錠有害事象詳細調査(追加配分)；平成 29 年度；21.6 千円：第一三共(株)

3) 共同研究

- 1) 湊口信也, 大野 康：in vivo および in vitro 試験による閉塞性呼吸器疾患におけるテトミラストの効果の検証；平成 25-27 年度；1,820 千円：大塚製薬(株)
- 2) 湊口信也：再生医療の産業化に向けた細胞製造・加工システムの開発/ヒト間葉系幹細胞由来の再生医療製品製造システムの開発/Muse 細胞を用いた再生医療の実現に向けた製剤製造システムの研究開発/⑤Muse 細胞製剤の疾患モデル動物での実証研究開発；平成 27 年度；4,000 千円：(株)Clio
- 3) 西垣和彦：非弁膜症心房細動患者の脳卒中および全身性塞栓症に対するリバーロキサバンの有効性と安全性に関する登録観察研究；平成 25-28 年度；61,543 千円：メビックス(株)

- 4) 西垣和彦：非弁膜症心房細動患者の脳卒中および全身性塞栓症に対するリバーロキサバンの有効性と安全性に関する登録観察研究(追加配分)；平成 25－28 年度；23,732 千円；メビックス(株)
- 5) 田中俊樹：慢性心不全におけるβ遮断薬による治療法確立のための多施設臨床試験；平成 25－27 年度；61,536 千円；メビックス(株)
- 6) 湊口信也：再生医療の産業化に向けた細胞製造・加工システムの開発/ヒト間葉系幹細胞由来の再生医療製品製造システムの開発/Muse 細胞を用いた再生医療の実現に向けた製剤製造システムの研究開発/⑤Muse 細胞製剤の疾患モデル動物での実証研究開発；平成 28 年度；4,000 千円；(株)Clio
- 7) 西垣和彦：非弁膜症心房細動患者の脳卒中および全身性塞栓症に対するリバーロキサバンの有効性と安全性に関する登録観察研究(追加配分)；平成 25－28 年度；11,868 千円；メビックス(株)

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

湊口信也：

- 1) 日本循環器学会理事・評議員(～現在)
- 2) 日本循環器学会東海支部評議員(～現在)
- 3) 日本循環制御医学会評議員(～現在)
- 4) 日本心不全学会理事・評議員(～現在)
- 5) 日本心臓病学会評議員(～現在)
- 6) 日本内科学会評議員および東海支部評議員(～現在)
- 7) 日本高血圧学会評議員(～現在)
- 8) 日本心臓リハビリテーション学会理事・評議員(～現在)

西垣和彦：

- 1) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
- 2) 日本循環器学会東海支部評議員(～現在)
- 3) 日本循環器学会正会員代表(～現在)
- 4) 日本心血管インターベンション治療学会評議員(～現在)
- 5) 日本心血管インターベンション治療学会東海北陸支部代議員(～現在)
- 6) 日本心血管インターベンション治療学会専門医試験問題策定委員会委員(～現在)
- 7) 日本心不全学会評議員(～現在)
- 8) 日本心臓病学会評議員(～現在)
- 9) 日本心臓リハビリテーション学会評議員(～現在)
- 10) 日本心臓リハビリテーション学会『急性心筋梗塞の入院心臓リハビリテーション標準プログラム策定部会』委員(～現在)

川崎雅規：

- 1) 日本循環器学会評議員(～現在)
- 2) 日本循環器学会東海支部評議員(～現在)
- 3) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
- 4) 日本心血管画像動態学会評議員(～現在)
- 5) 日本超音波医学会評議員(～現在)
- 6) 日本心臓血管内視鏡学会評議員(～現在)
- 7) 日本臨床薬理学会特別指導医(～現在)

金森寛充

- 1) 日本循環器学会評議員(～現在)
- 2) 日本循環器学会東海支部評議員(～現在)
- 3) 心筋生検研究会幹事学術企画委員(～現在)

2) 学会開催

湊口信也：

- 1) 第3回日本心筋症研究会(平成29年4月, 岐阜)
- 2) 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会(平成29年7月, 岐阜)

3) 学術雑誌

西垣和彦：

- 1) 日本心血管インターベンション治療学会雑誌『CVIT the official journal of Cardiovascular Intervention and Therapeutics』編集顧問(~現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

湊口信也：

- 1) 第79回日本循環器学会学術集会(平成27年4月, 大阪, シンポジウム「急性冠症候群の最先端の治療—基礎と臨床—」座長)
- 2) 第79回日本循環器学会学術集会(平成27年4月, 大阪, シンポジウム「Multilineage—Differentiating Stress Enduring(Muse)Cells as a Hopeful Cell Source for Regenerative Medicine against Acute Myocardial Infarction」演者)
- 3) 第79回日本循環器学会学術集会(平成27年4月, 大阪, ランチョンセミナー「治療抵抗性心不全治療に挑む」座長)
- 4) 第58回日本腎臓学会学術総会(平成27年6月, 名古屋, 総会長主導企画2 腎再生医療・細胞治療の未来「Muse細胞を用いた心筋再生による急性心筋梗塞の治療」演者)
- 5) 第145回日本循環器学会東海地方会(平成27年6月, 名古屋, サテライト教育講演会「講演III 利尿薬」座長)
- 6) 第113回日本循環器学会北海道地方会(平成27年6月, 北海道, 教育セッション 演者)
- 7) 第19回日本心不全学会学術集会(平成27年10月, 大阪, ワークショップ(6)心不全基礎研究の最前線「骨髄由来 Muse細胞を用いた梗塞後心筋再生療法」演者)
- 8) 日本循環器学会 第146回東海・第131回北陸合同地方会(平成27年10月, 名古屋, サテライト教育講演会「心腎連関の分子機序」座長)
- 9) 第113回日本内科学会総会・講演会(平成28年4月, 東京, 教育講演「虚血心筋保護と心筋再生療法」演者)
- 10) 第2回日本心筋症研究会(平成28年5月, 松本, シンポジウム「心筋炎/心筋症」座長)
- 11) 第64回日本心臓病学会学術集会(平成28年9月, 東京, 教育講演「3Dエコーから考える心臓外科手術戦略」座長)
- 12) 第20回日本心不全学会学術集会(平成28年10月, 札幌, パネルディスカッション「新たな心不全治療開発研究(基礎、臨床、疫学研究の立場から)」座長)
- 13) 日本循環器学会 第148回東海・第133回北陸合同地方会(平成28年11月, 金沢, サテライト教育講演会「循環器 Up to Date」座長)
- 14) 第81回日本循環器学会学術集会(平成29年3月, 金沢, シンポジウム「New Development of Cardiovascular Regenerative Medicine」演者)
- 15) 第81回日本循環器学会学術集会(平成29年3月, 金沢, ランチョンセミナー「心房細動と高血圧の関連を再考する～抗凝固療法中の血圧管理の重要性～」座長)
- 16) 第16回日本再生医療学会総会(平成29年3月, 仙台, シンポジウム「Muse細胞研究の最前線」座長)

川崎雅規：

- 1) 第63回日本心臓病学会(平成27年9月, 横浜, シンポジウム「超音波スペクトルトラッキング法で求める肺動脈楔入圧による左室拡張機能障害の病態の解明」演者)
- 2) 第38回日本高血圧学会(平成27年10月, 愛媛, シンポジウム「降圧剤は併用か? 増量か? 併用派の立場から 超音波スペクトルトラッキング法を用いた心機能評価因子からみた降圧効果」演者)
- 3) 第62回日本臨床検査学会(平成27年11月, 岐阜, 教育講演「血管内超音波検査で評価する冠動脈プラークの不安定性と各種臨床検査値との関連」演者)
- 4) Korea Cardiovascular Intervention Imaging Forum 2015(平成27年5月, Seoul「Intravascular OCT imaging technology in depth review」座長)
- 5) 第80回日本循環器学会(平成28年3月, 仙台, 教育講演「IB-IVUS・VH-IVUS・OCT」演者)

- 6) 第 64 回日本心臓病学会(平成 28 年 9 月, 東京, シンポジウム「スペックルトラッキング血管内超音波(ST-IVUS)の開発と IB-IVUS との組み合わせによる冠動脈不安定プラークの検出」 演者)
- 7) 第 39 回日本高血圧学会(平成 28 年 10 月, 仙台, シンポジウム「超音波スペックルトラッキング法による非侵襲的な肺動脈楔入圧測定で明らかになった健常者および心疾患患者の左室拡張能の性差」 演者)
- 8) Korea Cardiovascular Intervention Imaging Forum 2016(平成 28 年 6 月, Jeju, 招待講演「Evaluation of Coronary Plaque Stress by Speckle Tracking Intravascular Ultrasound」 演者)
- 9) 日本医師会生涯教育講座 (前期) (平成 28 年 11 月, 岐阜, 教育講演「心房細動の発症・心不全・僧帽弁閉鎖不全・左室拡張障害の評価のため左房圧推定の重要性—超音波スペックル・トラッキング法による非侵襲的な肺動脈楔入圧の測定—」 演者)
- 10) 第 37 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会 (平成 29 年 5 月, 名古屋, ランチョンセミナー, 「テルモ新 IVUS~VISICUBE~開発経緯~臨床~IB-IVUS」 演者)
- 11) 平成 29 年度「岐阜大学出前講座」 (平成 29 年 5 月, 大垣, 教育講演, 「最新の画像診断で明らかになった心筋梗塞発症のメカニズムと予防法」 演者)
- 12) Korea Cardiovascular Intervention Imaging Forum 2017. (平成 29 年 6 月, Seoul 招待講演「Mechanical Stress in Coronary Plaques Evaluated by Speckle Tracking Intravascular Ultrasound」 演者)
- 13) Korea Cardiovascular Intervention Imaging Forum 2017. (平成 29 年 6 月, Seoul シンポジウム「Characterization of Coronary Plaques」 座長)
- 14) 第 26 回日本心血管インターベンション治療学会 (平成 29 年 7 月, 京都, 教育講演「Behavure Economics の観点から考える循環器領域の医療安全」 演者)
- 15) 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会 (平成 29 年 7 月, 岐阜, 教育講演「心臓リハビリテーションに役立つ心不全の指標について」 演者)
- 16) 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会 (平成 29 年 7 月, 岐阜, シンポジウム「スペックルトラッキング法で求める肺動脈楔入圧を用いた HFpEF における心臓リハビリテーションの効果判定」 演者)
- 17) 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会 (平成 29 年 7 月, 岐阜, ランチョンセミナー「心臓リハビリテーションに役立つ心不全の指標について」 演者)
- 18) 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会 (平成 29 年 7 月, 岐阜, シンポジウム「左室駆出率が維持された心不全(HFpEF)と心臓リハビリテーション」 座長)
- 19) 第 65 回日本心臓病学会 (平成 29 年 9 月, 大阪, シンポジウム「60MHz 血管内超音波(IVUS)IB-IVUS の開発とスペックルトラッキング IVUS (ST-IVUS)による冠動脈不安定プラークの検出」 演者)
- 20) 第 31 回日本心臓血管内視鏡学会 (平成 29 年 10 月, 福島, シンポジウム「IB-IVUS とスペックルトラッキング IVUS (ST-IVUS)による vulnerable plaque の診断」 演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 山田好久: European Society of Cardiology 2015 Best moderated Posters awards 2015(平成 27 年度)
- 2) 川崎雅規: European Society of Cardiology 2016 Best Poster Award (平成 28 年度)
- 3) 中島孝: 日本循環器学会 AHA 年次学術集会の発表に対する国際交流助成(平成 28 年度)
- 4) 成瀬元気: 日本循環器学会 AHA 年次学術集会の発表に対する国際交流助成(平成 28 年度)
- 5) 中島孝: 日本心臓財団・日本循環器学会共同発行誌「心臓」優秀賞(平成 28 年度)

9. 社会活動

湊口信也:

- 1) 岐阜県社会福祉審議会委員(~平成 28 年 3 月)
- 2) 岐阜市社会福祉審議会委員(~平成 28 年 3 月)
- 3) 厚生労働省医政局研究開発振興課「ヒト幹細胞臨床研究に関する審査委員会」委員(~平成 28 年 3 月)
- 4) 先端医療振興財団 文部科学省「再生医療の実現化ハイウェイ」課題運営委員会外部有識者委員(~平成 28 年 3 月)
- 5) 岐阜県地域医療対策協議会委員(平成 28 年 4 月~30 年 3 月)

- 6) 岐阜県地方独立行政法人評価委員(平成 28 年 4 月～30 年 3 月)
- 7) 岐阜産業保健総合支援センター運営協議会委員(～平成 29 年)
- 8) 岐阜市精度管理専門委員(平成 29 年 7 月～31 年 6 月)

西垣和彦：

- 1) 岐阜県社会福祉審議会委員(平成 29 年 4 月～)
- 2) 岐阜市社会福祉審議会委員(平成 29 年 4 月～)

川崎雅規

- 1) 日本内科学会 新内科専門医制度プログラム審査委員(平成 28 年 4 月～)
- 2) 日本循環器学会 医療事故調査制度委員(平成 28 年 4 月～)
- 3) 岐阜県立看護大学大学院 非常勤講師(平成 29 年 1 月～)

10. 報告書

- 1) 研究代表者：青山琢磨；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)研究結果報告書：可溶性 LOX-1 血中濃度測定による特発性拡張型心筋症の重症度評価及び予後の検討；平成 26-28 年度

11. 報道

- 1) 湊口信也：日経バイオテック online 「岐阜大湊口教授、今年後半に他家 Muse 細胞製剤の治験届を出したい」：日経 BP 社(平成 28 年 3 月 16 日)
- 2) 金森寛充：MEDICAMENT NEWS 「Metformin Have a Beneficial Effect on Cardiomyopathy Associated with Autophagy through AMPK-mTOR Pathway in δ -sarcoglycan-deficient mice」：(株)ライフサイエンス(平成 28 年 5 月 15 日)
- 3) 湊口信也：「多能性細胞使い治験 岐阜大、心筋梗塞患者に」：日経産業新聞(平成年 6 月 9 日)
- 4) 金森寛充：研究室から大学はいま「心筋オートファジーを解明」：岐阜新聞(平成 28 年 6 月 14 日)
- 5) 湊口信也：報道ステーション「Muse 細胞」：テレビ朝日(平成 29 年 3 月 8 日)

12. 自己評価

評価

循環器、呼吸器及び腎臓内科とも研究が順調に進行している。その結果、一流のジャーナルにも多数 publish され、2015 年は英文論文数 24 編で Site score が 55.01 点、2016 年は英文論文数 15 編で Site score が 36.29 点、2017 年英文論文数 10 編で Site score が 24.62 点であった。

現状の問題点及びその対応策

多数の大学院生や研究者を抱えているため、デスクやスペースの確保、十分な研究費を確保することが課題である。臨床、教育、研究のいずれにも時間を費やすため、研究のみに十分な時間があるとは言い難い。デスクやスペースの確保については工夫を行うことにより、また研究費確保についてはより質の高い研究成果を発信することにより科研費など多くの公的資金を獲得できるように努力する。

今後の展望

高齢化と生活様式の欧米化により、循環器疾患、腎疾患は増加の一途を辿っている。循環器疾患、腎疾患の発生メカニズムを動物実験、臨床研究を通じて解明し、その治療法を開発し臨床応用につなげていくことが重要である。今後は、分子生物学的手法、遺伝子的手法を駆使し、当該領域における骨髄幹細胞、間葉系幹細胞、サイトカイン、DDS、ナノテクノロジーなどを用いた効率的な再生医療の開発、microRNA を利用した組織修復医療の開発などの translational research が益々重要になると予測され、時代の最先端を走るべくさらに活発な研究活動を行っていかなくてはならないと考えている。

(4) 呼吸病態学分野

1. 研究の概要

1. 再生医学・再生医療

- 1) Erythropoietin を用いた COPD モデルマウスおよび培養肺胞上皮細胞に対する再生医学的研究
- 2) PDE-4 阻害薬を用いた COPD モデルマウスに対する再生医学的検討
- 3) PDE-4 阻害薬を用いた気管支喘息モデルマウスに対する再生医学的検討
- 4) 肺癌移植モデルマウスの抗癌剤 (CDDP) 投与下における G-CSF の腫瘍増殖における影響についての検討

2. アポトーシス, オートファジー

- 1) 呼吸器疾患とアポトーシス: COPD における FAS の役割の解明
- 2) COPD における気道上皮, 肺血管上皮, 肺胞上皮細胞のオートファジーの役割の解明

3. 東洋医学的アプローチ

- 1) 気管支喘息患者, COPD 患者に対する鍼治療の有効性の評価
- 2) 癌化学療法後の副作用軽減療法としての鍼治療の有効性の評価
- 3) 気管支喘息モデル, ヒト花粉症患者, 気管支喘息患者におけるじゃばらみかんの抗アレルギー作用の解明, 抗アレルギー薬, 抗喘息薬の開発
- 4) 人工呼吸器装着患者のウィーニングに対する鍼治療の有効性の評価

4. 呼吸器内視鏡を用いた臨床研究

- 1) 肺癌手術症例における腫瘍組織の超音波内視鏡下 IB-IVUS による組織性状診断法の開発
- 2) 蛍光内視鏡: NBI (Narrow Banding Image 法) を用いて HRCT, 病理組織所見と対比し, 良性疾患 (サルコイドーシス等), 悪性疾患 (原発性肺癌, 転移性肺癌, 気管発生肉腫等) の鑑別および進達度診断法の開発
- 3) 超音波内視鏡, NBI 法および HRCT および病理組織と対比し食道癌の気管浸潤の有無, 手術適応の有無の評価法の開発
- 4) BALF (Broncho-aleveolar-fluid) による免疫機能測定による肺 MAC 症の病態の解明, 免疫応答および診断的意義の検討

5. MDCT による気道, 腫瘍病変の臨床研究

- 1) COPD 症例の MDCT における AZE 気道解析ソフトを用いた ICS /LABA による気道病変への有効性の検討
- 2) 肺 MAC 症例における MDCT による AZE 気道解析ソフトを用いた気道病変による重症度分類の開発
- 3) 肺線維症例における MDCT による AZE 気道解析ソフトを用いた牽引性気管支拡張末梢気道から肺胞病変の病態の解明
- 4) 肺癌, 良性肺腫瘍症例における MDCT による AZE 腫瘍解析ソフト, IB-IVUS を用いた腫瘍組織性状の検討
- 5) 肺アスペルギルス症の MDCT による AZE 気道解析ソフト, IB-IVUS を用いた腫瘍組織性状の検討

6. 肺癌治療法の開発

- 1) II, IIIA 期非小細胞肺癌術後化学療法における CDDP+VNB Bi-weekly 療法の意義の検討
- 2) IIIB, IV 期非小細胞肺癌症例における CBDCA+GEM Bi-weekly 療法の意義の検討
- 3) 肺癌患者における末梢リンパ球を用いた免疫治療および予後予測法の開発
- 4) 進行期肺癌患者のプラチナ製剤を含む化学療法時における塩酸アザセトロンとグラニセトロンの有効性の無作為割り付け比較試験
- 5) 肺癌化学療法時の骨髄抑制と骨塩量の関係についての検討
- 6) 肺癌組織における EGFR, ALK, NOS 等の遺伝子発現 PD-L 発現と電子顕微鏡による超微形態の関連についての検討

7. 肺真菌感染症治療法の開発

- 1) 肺アスペルギルス症患者におけるポリコナゾールとイトラコナゾールの有効性比較の無作為割り付け多施設共同研究

8. 気管支喘息治療法の開発

- 1) 気管支喘息患者の SABA レスキューユースにおける ADL の評価, 多施設共同研究

9. COPD, 肺線維症, 肺癌における Pro-renin の関与

- 1) 呼吸器疾患での手術標本 (気胸, 肺癌等) や気管支鏡生検組織を用いて Pro-renin の発現や関連蛋白の発現を調べ, COPD, 間質性肺炎, 肺癌の病態における Pro-renin の関与を明らかにする。

2. 名簿

教授： 湊口信也 Shinya Minatoguchi
講師： 大野 康 Yasushi Ohno

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 大野康(代表者; 山本眞由美)大学生の健康なび キャンパスライフの健康管理 第5章, 岐阜: 岐阜新聞社: 2016年: 120-125

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 大野康. 岐阜県ヒトと犬のがん登録 J-VET 2015 ; 69-72.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 川崎雅規, 岩佐将充, 金森寛充, 山田好久, 田中俊樹, 牛越博昭, 大野 康, 三上 敦, 西垣和彦, 湊口信也. 血管内超音波検査で評価する冠動脈プラークの不安定性と各種臨床検査値との関連, 臨床病理 2016年 ; 64巻 : 319-326.
- 2) 舟口祝彦, 中島康博, 垣内大蔵, 柳瀬恒明, 伊藤文隆, 遠渡純輝, 森下めぐみ, 浅野雅広, 飯原大稔, 森秀法, 大野康, 湊口信也. 腎機能低下進行非小細胞肺癌における Pemetrexed 単剤療法の検討癌と化学療法 2015年 ; 42巻 : 705-707

原著 (欧文)

- 1) Yanase K, Funaguchi N, Iihara H, Yamada M, Kaito D, Endo J, Ito F, Ohno Y, Tanaka H, Itoh Y, Minatoguchi S. Prevention of radiation esophagitis by polaprezinc (zinc L-carnosine) in patients with non-small cell lung cancer who received chemoradiotherapy. *Int J Clin Exp Med.* 2015;8:16215-16222. CS 1.25
- 2) Matsumoto-Miyazaki J, Miyazaki N, Nishiwaki A, Endo J, Ushikoshi H, Ohno Y, Minatoguchi S. Acupuncture Treatment for Dyspnea due to Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema: A Case Report. *J Altern Complement Med.* 2015;21:804-809. CS 1.55
- 3) Funaguchi N, Nakajima Y, Kaito D, Yanase K, Ito F, Endo J, Morishita M, Asano M, Iihara H, Mori H, Ohno Y, Minatoguchi S. Analysis of Pemetrexed Monotherapy in Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Impaired Renal Function. *Gan To Kagaku Ryoho.* 2015;42:705-708. CS 0.09
- 4) Ito F, Ohno Y, Toyoshi S, Kaito D, Koumei Y, Endo J, Kamamiya F, Mori H, Mori M, Morishita M, Funaguchi N, Minatoguchi S. Pharmacokinetics of consecutive oral moxifloxacin (400 mg/day) in patients with respiratory tract infection. *Ther Adv Respir Dis.* 2016;10:34-42. CS 2.31
- 5) Kamiya F, Ohn Y, Funaguchi N, Yanase K, Ito F, Endo J, Mori H, Osuga T, Iwata H, Yasuda N, Takatsu H, Minatoguchi S. 3-D computed tomographic airway analysis detects mild bronchiectasis in mycobacterium avium complex pulmonary disease. *Int J Clin Exp Med.* 2016;9:5978-5986. CS 1.25
- 6) Ito F, Kawasaki M, Ohno Y, Toyoshi S, Morishita M, Kaito D, Yanase K, Funaguchi N, Asano M, Endo J, Mori H, Kobayashi K, Nishigaki K, Miyazaki T, Takemura G, Minatoguchi S. Noninvasive Tissue Characterization of Lung Tumors Using Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound: An Ex Vivo Comparative Study With Pathological Diagnosis. *Chest.* 2016;149:1276-1284. CS 4.66
- 7) Hayashi H, Kita Y, Iihara H, Yanase K, Ohno Y, Hirose C, Yamada M, Todoroki K, Kitaichi K, Minatoguchi S, Itoh Y, Sugiyama T. Simultaneous and rapid determination of gefitinib, erlotinib and afatinib plasma levels using liquid chromatography/tandem mass spectrometry in patients with non-small-cell lung cancer. *Biomed Chromatogr.* 2016;30:1150-1154. CS 1.66
- 8) Kawasaki M, Iwasa M, Kanamori H, Yamada Y, Tanaka T, Ushikoshi H, Ohno Y, Mikami A, Nishigaki K, Minatoguchi S. Relationship between Coronary Plaque Stability Evaluated by Intravascular Ultrasound and Laboratory Parameters. *Rinsho Byori.* 2016;64:319-326.
- 9) Hasegawa T, Futamura Y, Horiba A, Yoshida T, Suzuki T, Kato T, Kaito D, Ohno Y, Iida T, Hayashi S, Sawa T. A phase II study of nab-paclitaxel plus carboplatin in combination with thoracic radiation in patients with locally advanced non-small-cell lung cancer. *J Radiat Res.* 2016 Jan;57(1):50-4. CS 1.75
- 10) Kaito D, Iihara H, Funaguchi N, Endo J, Ito F, Yanase K, Toyoshi S, Sasaki Y, Hirose C, Arai N, Kitahara M, Ohno Y, Itoh Y, Minatoguchi S. Efficacy of Single-dose First-generation 5-HT3 Receptor Antagonist and Dexamethasone for Preventing Nausea and Vomiting Induced by Low-dose Carboplatin-based Chemotherapy. *Anticancer Res.* 2017;37(4):1965-1970. CS 1.90

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：大野康；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：IB-IVUS による肺腫瘍診断；平成 29-31 年度；4,290 千円(2,470:1,170:650 千円)

2) 受託研究

- 1) 大野 康：ザーコリカプセル 特定使用成績調査(全例調査)－ALK 融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌に対する調査(プロトコール No. A8081031)(追加配分)；平成 24-27 年度；283.5 千円：ファイザー(株)
- 2) 大野 康：ザーコリカプセル 特定使用成績調査(全例調査)－ALK 融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌に対する調査(プロトコール No. A8081031)；平成 24-27 年度；94.5 千円：ファイザー(株)
- 3) 大野 康：ランマーク皮下注 120mg 長期使用に関する特定使用成績調査；平成 24-28 年度；472.5 千円：第一三共(株)
- 4) 大野 康：フィズリン錠 30mg 使用成績調査(全例調査)；平成 25-27 年度；21 千円：大塚製薬(株)
- 5) 大野 康：ジオトリフ錠特定使用成績調査(-EGFR 遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌患者、長期使用下における調査-)；平成 26-29 年度；486 千円：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
- 6) 大野 康：アレセンサカプセル使用成績調査(全例調査)；平成 26-29 年度；129.6 千円：中外製薬(株)
- 7) 大野 康：フルティフォーム特定使用成績調査(長期使用に関する調査)；平成 26-28 年度；324 千円：杏林製薬(株)
- 8) 大野 康：フィルグラスチム BS 注シリンジ「モチダ」使用成績調査；平成 26-27 年度；64.8 千円：持田製薬(株)
- 9) 大野 康：ジオトリフ錠特定使用成績調査(-EGFR 遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌患者、長期使用下における調査-)；平成 26-29 年度；486 千円：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
- 10) 生体支援センター(分担医師第 2 内科)：OPT-80 第Ⅲ相試験－Clostridium difficile 関連下痢症患者(CDAD)を対象としたバンコマイシン(VCM)対照二重検無作為化並行群間比較試験－；平成 26-28 年度；191.160 千円：アステラス(株)
- 11) 生体支援センター(分担医師第 2 内科)：OPT-80 第Ⅲ相試験－Clostridium difficile 関連下痢症患者(CDAD)を対象としたバンコマイシン(VCM)対照二重検無作為化並行群間比較試験－(追加分)；平成 26-28 年度；191.160 千円：アステラス(株)
- 12) 大野康：オフエブカプセル特定使用成績調査；平成 27-30 年度；648 千円：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
- 13) 大野康：ゾシン静注用 2.25,4.5、ゾシン配合点滴静注用バッグ 4.5 特定使用成績調査－造血器悪性腫瘍以外の悪性腫瘍を有する発熱性好中球減少症患者に対する安全性および有効性の情報収集－；平成 28-32 年度；32.4 千円：大正富山医薬品(株)

3) 共同研究

- 1) 湊口信也, 大野 康：in vivo および in vitro 試験による閉塞性呼吸器疾患におけるテトミラストの効果の検証；平成 25-27 年度；2,000 千円：大塚製薬(株)

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

大野 康：

- 1) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
- 2) 日本呼吸器学会代議員(～現在)
- 3) 日本呼吸器学会分子病態プログラム委員(～現在)
- 4) 日本呼吸器内視鏡学会評議員(～現在)
- 5) 日本肺癌学会評議員(～現在)
- 6) 日本肺癌学会気管支鏡所見分類委員会委員(～現在)
- 7) 日本肺癌学会画像診断委員会委員(～現在)

2) 学会開催

大野 康：
なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

大野 康：

- 1) 岐阜県医師会雑誌編集委員(平成 26 年～現在)
- 2) 岐阜県生活習慣病検診等指導審査会がん登録・評価等部会委員(平成 26 年～現在)
- 3) 地方じん肺審査(岐阜労働局)(平成 26 年～現在)
- 4) 岐阜県がん情報センター長(平成 27 年～現在)
- 5) 岐阜県がん情報センター 主催 県民公開講座 (平成 27 年, 平成 28 年)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

呼吸器領域の中でも肺癌, COPD, 気管支喘息, 感染症を中心に研究を行った。動物実験では再生医学を用いた治療薬の開発, ヒトでは新たな診断法の開発, 治療法の実験を行った。成果は国内, 海外雑誌に出版され, 国際学会でも発表し, 多くの研究費を獲得した。臨床研究として超音波内視鏡, 蛍光内視鏡等を用いた肺癌の診断を行い, 県内外から依頼を受け, 症例の蓄積を行っている。

現状の問題点及びその対応策

呼吸病態学は小人数にて多くの研究を行っているが, デスクやスペースを確保することが困難な状態である。また, 臨床, 教育, 研究のいずれにも多くの時間を費やすため, 研究に十分な時間があるとは言えない。研究スペースの確保と研究者の増員が急務である。

今後の展望

急速な高齢化社会の到来により肺癌, COPD, 肺線維症, 呼吸器感染症は増加の一途を辿っている。それぞれの病気のメカニズム, 病態を動物実験, 臨床研究を通じて解明し, 診断, 治療に応用していくことが重要である。今後, 呼吸器疾患分野において, 細胞死 (アポトーシス), 細胞変性 (オートファジー) および細胞, 組織の再生を行うことがますます重要なテーマとなることが予測される。さらに, レニンの前駆体である Pro-renin は各種臓器の線維化や細胞障害のメカニズムに関与する可能性が示唆されており, 肺組織の線維化や気腫化, 癌化にも関与する可能性があり, 生検組織や手術標本を用いて正常組織部分とこれらの各種病態での関連蛋白の発現や遺伝子の発現を調べることを目標とする。我々はこの点を十分認識し, 細胞, 分子生物学的手法を駆使し新しいデバイスを導入して, さらに活発な研究活動を行っていく。

(5) 高度先進外科学分野

1. 研究の概要

心臓血管外科部門（土井潔、島袋勝也、石田成吏洋、梅田悦嗣、小椋弘樹）では、運動負荷試験（心肺運動負荷試験・運動負荷心エコー）を用い、心臓手術の適応や手術効果の評価に応用する研究を行っている。また慢性動脈解離に対するステント治療の長期に渡る予後調査を行っている。

呼吸器外科部門（岩田尚、白橋幸洋、山本裕崇、松本光善、宮本祐作）では、肺癌手術患者のレジストリーを作成し、その長期にわたる予後調査の中で、術前診断（PET）・病期分類・術式の関与を統計学的に研究している。また基礎研究として肺切除後の肺再生能に関する研究を行っている。

消化器外科部門（村瀬勝俊、木村真樹、木山茂、名知祥、關野誠史郎、荒川信一郎）は、企業と提携し、手術トレーニングでの使用を目的とした、実際の臓器（腸管や肝臓）に近い弾力性と強度を持った模擬臓器の開発を行っている。また基礎研究として肝切除後の肝再生能に関する研究を行っている。

2. 名簿

教授：	土井 潔	Kiyoshi Doi
教授：	岩田 尚	Hisashi Iwata
准教授：	島袋勝也	Katsuya Shimabukuro
准教授：	村瀬勝俊	Katsutoshi Murase
講師：	白橋幸洋	Koyo Shirahashi
講師：	石田成吏洋	Narihiro Ishida
臨床講師：	木村真樹	Masaki Kimura
臨床講師：	木山 茂	Shigeru Kiyama
臨床講師：	名知 祥	Sho Nachi
臨床講師：	關野誠史郎	Seishiro Sekino
臨床講師：	梅田悦嗣	Etsuji Umeda
医員：	山本裕崇	Hiroataka Yamamoto
医員：	荒川信一郎	Shinichiro Arakawa
医員：	小椋弘樹	Hiroki Ogura
医員：	松本光善	Mitsuyoshi Matsumoto
医員：	宮本祐作	Yusaku Miyamoto

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 白橋幸洋, 岩田 尚. 第 2 章実践編 術式別の術中看護マニュアル ⑤胸腔鏡下肺切除術: 岡田守人編. OPE NURSING 2015 年臨時増刊 呼吸器外科の手術看護パーフェクトマニュアル, 大阪: メディカ出版; 2015 年: 119-128.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 岩田 尚. <学術特集>期待される肺癌の低侵襲手術: 積極的縮小手術, 週刊日本医事新報 2015 年; 4735 巻: 18-22.
- 2) 野田佳史, 五島 聡, 松尾政之, 木村真樹, 村瀬勝俊, 関野考史, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 画像で解る胆膵疾患 Q&A, 胆と膵 2016 年; 37 巻特別号: 1003-1005.
- 3) 野田佳史, 五島 聡, 松尾政之, 村瀬勝俊, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 画像診断と病理 膵退形成癌, 画像診断 2017 年; 37 巻: 1000-1001.
- 4) 土井 潔. 器質的僧帽弁逆流症に対する形成術後の僧帽弁狭窄: 運動負荷エコーを用いた評価, 岐阜大学医学部記念会館だより 2017 年; 114 号: 16-18.
- 5) 河合信行, 五島 聡, 松尾政之, 村瀬勝俊, 土井 潔, 高井光治, 清水雅仁, 齊郷智恵美, 宮崎龍彦. 画像診断と病理 肝血管筋脂肪腫 2017 年; 37 巻: 1134-1135.

総説（欧文）

- 1) Iwata H. Therapeutic strategy for small-sized lung cancer. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016;64:450-456. CS 1.24
- 2) Iwata H. Adenocarcinoma containing lepidic growth. J Thorac Dis. 2016;8:e1050-e1052. CS 1.97

原著 (和文)

- 1) 丹羽真佐夫, 關野考史, 村瀬勝俊, 木村真樹, 關野誠史郎, 竹村博文. 腹腔鏡補助下低位前方切除術後に発症した肺動脈血栓症と門脈血栓症の1例, 日本臨床外科学会雑誌 2015年; 76巻: 26-31.
- 2) 丹羽真佐夫, 關野考史, 村瀬勝俊, 木村真樹, 關野誠史郎, 竹村博文. 腹腔鏡補助下大網切除術を施行した小児大網梗塞の1例, 日本腹部救急医学会雑誌 2015年; 35巻: 167-169.
- 3) 西城卓也, 大江直行, 池田貴英, 牛越博昭, 白橋幸洋, 高杉信寛, 松橋延壽, 矢野竜一朗, 渡邊珠代, 鈴木康之. 国際認証の時代における臨床系教員養成のあり方 マギル大学での臨床教育研修プログラムの事例検討, 医学教育 2015年; 46巻: 69-77.
- 4) 野田佳史, 五島 聡, 兼松雅之, 木村真樹, 村瀬勝俊, 關野考史, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 腎細胞癌の隣転移に対し隣全摘を行った1例, 胆と隣 2015年; 36巻: 615-617.
- 5) 村瀬勝俊, 中嶋慎治, 關野誠史郎, 木村真樹, 關野考史, 富田弘之. 門脈腫瘍栓を認めた隣頭部隣管癌の1例, 日本臨床外科学会雑誌 2015年; 76巻: 215-220.
- 6) 丹羽真佐夫, 關野考史, 木村真樹, 關野誠史郎. 胃 GIST と直腸カルチノイドに対して腹腔鏡下同時手術を施行した1例, 日本外科系連合学会誌 2015年; 40巻: 1030-1036.
- 7) 中島 孝, 岩佐将充, 金森寛充, 牛越博昭, 川崎雅規, 西垣和彦, 小椋弘樹, 石田成吏洋, 島袋勝也, 宮崎龍彦, 竹村博文, 湊口信也. Carney 複合の一家系, 心臓 2016年; 48巻: 774-780.
- 8) 村瀬勝俊, 關野誠史郎, 木村真樹, 關野考史, 土井 潔, 川田紘資, 五島 聡. 集学的治療を行った正中弓状靱帯症候群による破裂性多発性内臓動脈瘤の1例, 日本臨床外科学会雑誌 2017年; 78巻: 94-99.
- 9) 荒川友希, 村上栄司, 東健一郎, 土井 潔. 左室後下壁に生じた偽性仮性心室瘤の1例, 日本心臓血管外科学会雑誌 2017; 46巻: 292-295.

原著 (欧文)

- 1) Suzuki K, Okada H, Fukuta T, Yoshida S, Yoshida T, Ishida N, Shimabukuro K, Iwata H, Ushikoshi H, Toyoda I, Takemura H, Ogura S. "Prancing" heart with pericardial injury. *Circulation*. 2015;131:e397-e398. CS 8.41
- 2) Ishida N, Shimabukuro K, Ogura H, Iwata H. Atrial septal defect closure through a right thoracotomy in adults. *Cardiovascular and Thoracic Open*. 2015;1:4.
- 3) Takahashi T, Fujisawa T, Kimura M, Ohnishi H, Seishima M. Familial Mediterranean fever variant with repeated atypical skin eruptions. *J Dermatol*. 2015;42:903-905. CS 1.02
- 4) Yoshimura N, Iida H, Takenaka M, Tanabe K, Yamaguchi S, Kitoh K, Shirahashi K, Iwata H. Effect of Postoperative Administration of Pregabalin for Post-thoracotomy Pain: A Randomized Study. *J Cardiothorac Vasc Anesth*. 2015;29:1567-1572. CS 1.34
- 5) Mizuno Y, Iwata H, Yamamoto H, Miyamoto Y, Mitta S, Shirahashi K, Takemura H. Influence of smoking on perioperative oxidative stress after pulmonary resection. *Surg Today*. 2016;46:183-187. CS 1.56
- 6) Iwata H, Shirahashi K, Yamamoto H, Marui T, Matsumoto S, Mizuno Y, Matsumoto M, Mitta S, Miyamoto Y, Komuro H. Propensity score-matching analysis of hybrid video-assisted thoracoscopic surgery and thoracoscopic lobectomy for clinical stage I lung cancer. *Eur J Cardiothorac Surg*. 2016;49:1063-1067. CS 1.94
- 7) Ishida N, Shimabukuro K, Ogura H, Takemura H, Doi K. Coronary Artery Bypass Grafting for an Anomalous Left Coronary Artery from the Pulmonary Artery in a 73-Year-Old Female. *J Card Surg*. 2016;31:380-382. CS 0.79
- 8) Yamaji F, Okada H, Nakajima Y, Suzuki K, Yoshida T, Mizuno Y, Okamoto H, Kitagawa Y, Tanaka T, Nakano S, Nachi S, Doi T, Kumada K, Yoshida S, Ishida N, Shimabukuro K, Ushikoshi H, Toyoda I, Doi K, Ogura S. Blunt cardiac injury due to trauma associated with snowboarding: a case report. *J Med Case Rep*. 2017;11:80. CS 0.67
- 9) Hatano Y, Kawashima K, Iwashita T, Kimura M, Shimizu M, Hara A. A Solid Pseudopapillary Neoplasm of the Pancreas Associated With IgG4-Related Pancreatitis: A Case Report. *Int J Surg Pathol*. 2017;25:271-275. CS 0.72
- 10) Yamamoto H, Shirahashi K, Matsumoto M, Miyamoto Y, Doi K, Iwata H. Hybrid approach for VATS pulmonary resection. *Video-Assisted Thoracic Surgery*. 2017;2:e1-5.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 松野幸博, 研究分担者: 竹村博文, 島袋勝也; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 低酸素応答システムを標的とした超音波遺伝子導入による病的心筋リモデリングの制御; 平成 25-27 年度; 3,800 千円(2,400 : 600 : 800 千円)
- 2) 研究代表者: 岩田 尚, 研究分担者: 白橋幸洋, 山本裕崇; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 肺気腫症に対する肺切除後の肺再生と右心不全の予防に関する実験的検討; 平成 29-31 年度; 3,400 千円(1,700 : 700 : 1,000 千円)

2) 受託研究

- 1) 關野考史: StageⅢb 大腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としての UFT/Leucovorin 療法と TS-1/Oxaliplatin 療法のランダム化比較第Ⅲ相試験; 平成 22-32 年度; 605,770 円: 大鵬薬品工業(株)
- 2) 島袋勝也, 石田成吏洋: ゴア TAG 胸部大動脈ステントグラフトシステム使用成績調査(全例調査); 平成 23-29 年度; 1,155 千円: 日本ゴア(株)
- 3) 關野考史, 村瀬勝俊, 木村真樹, 關野誠史郎: ユナシン-S(キット)静注用特定使用成績調査-肺炎、肺腫瘍、腹膜炎に対する高用量(1日 6g 超)投与に関する調査-; 平成 26-27 年度; 97,200 円: ファイザー(株)
- 4) 南谷泰仁, 關野考史, 島袋勝也: クリオシールシステム使用成績調査; 平成 26-30 年度; 432 千円: 旭化成メディカル(株)
- 5) 關野誠史郎: ゴシン静注用の副作用報告; 平成 27 年度; 21,600 円: 大正富山医薬品株式会社
- 6) 岩田 尚, 關野考史, 島袋勝也, 村瀬勝俊, 白橋幸洋, 石田成吏洋, 木村真樹, 關野誠史郎, 山本裕崇: 献血グロベニン-I 静注用 使用成績調査【重症感染症】; 平成 26-29 年度; 108 千円: 日本製薬(株)
- 7) 土井 潔, 岩田 尚, 關野考史, 島袋勝也, 村瀬勝俊, 白橋幸洋, 石田成吏洋, 木村真樹, 關野誠史郎, 中嶋慎治, 山本裕崇, 小椋弘樹, 宮本祐作: アコアラン静注用 600 使用成績調査【DIC を対象とした調査】; 平成 28-32 年度; 21,600 円: 一般社団法人 日本血液製剤機構

3) 共同研究

- 1) 木村真樹: 外科用手術における手技向上を目的とする医療用シミュレータの研究; 平成 27-31 年度; 300 千円: (株)タナック

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

土井 潔:

- 1) 日本胸部外科学会評議員(平成 28 年 4 月~現在)
- 2) 日本冠動脈外科学会評議員(~現在)
- 3) 関西胸部外科学会評議員(~現在)
- 4) 日本 AHVS/OPCAB 研究会幹事(~現在)
- 5) 東海外科学会評議員(平成 28 年 4 月~現在)

岩田 尚:

- 1) 日本外科学会代議員(~現在)
- 2) 日本胸部外科学会評議員(~現在)
- 3) 日本胸部外科学会誌編集委員会(平成 29 年~現在)
- 4) 日本呼吸器外科学会評議員(~現在)
- 5) 日本呼吸器外科学会手術教育部会部員(~平成 29 年 5 月)
- 6) 日本呼吸器外科学会教育制度部会部員(平成 29 年 5 月~現在)
- 7) 日本呼吸器外科学会胸腔鏡技術認定制度検討部会部員(平成 29 年 5 月~現在)
- 8) 日本呼吸器外科学会学術委員会委員(~現在)
- 9) 日本呼吸器外科学会国際委員会委員(~平成 29 年 5 月)
- 10) 日本呼吸器外科学会編集委員会委員(~平成 29 年 5 月)
- 11) 日本内視鏡外科学会評議員(~現在)
- 12) 関西胸部外科学会評議員(~現在)
- 13) 東海外科学会評議員(~現在)

關野考史:

- 1) 日本外科学会代議員(~現在)
- 2) 東海外科学会評議員(~現在)

島袋勝也：

- 1) 日本外科学会代議員(～現在)
- 2) 日本胸部外科学会評議員(平成 28 年 4 月～現在)
- 3) 日本血管外科学会評議員(～現在)
- 4) 日本脈管学会評議員(～現在)
- 5) 日本血管外科学会東海北陸地方会世話人(～現在)
- 6) 東海外科学会評議員(～現在)

村瀬勝俊：

- 1) 日本臨床外科学会評議員(～現在)
- 2) 日本肝胆膵外科学会評議員(～現在)

木村真樹：

- 1) 日本肝胆膵外科学会評議員(～現在)
- 2) 日本内視鏡外科学会評議員(～現在)

關野誠史郎：

- 1) 日本肝胆膵外科学会評議員(～現在)

2) 学会開催

土井 潔：

- 1) 第 19 回岐阜胸部外科フォーラム特別講演会(平成 28 年 11 月, 岐阜)
- 2) 第 228 回岐阜外科集談会・日本臨床外科学会岐阜支部会(平成 29 年 6 月, 岐阜)
- 3) 第 229 回岐阜外科集談会・日本臨床外科学会岐阜支部会(平成 29 年 11 月, 岐阜)
- 4) 第 21 回岐阜胸部外科フォーラム特別講演会(平成 29 年 11 月, 岐阜)

岩田 尚：

- 1) 第 23 回東海呼吸器外科研究会(平成 27 年 3 月, 名古屋)
- 2) 中部胸腔鏡セミナー2016(平成 28 年 9 月, 岐阜)

木村真樹：

- 1) Art of Surgery Meeting(平成 27 年 11 月, 神戸)

3) 学術雑誌

岩田 尚：

- 1) 日本呼吸器外科学会雑誌；編集委員(～平成 29 年 5 月)
- 2) 日本胸部外科学会会誌；編集委員(平成 29 年～)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

土井 潔：

- 1) 第 226 回岐阜外科集談会・日本臨床外科学会岐阜支部会(平成 28 年 5 月, 岐阜, 特別講演「心疾患患者における一般外科手術」演者)
- 2) 第 59 回関西胸部外科学会学術集会(平成 28 年 6 月, 三重, サテライトセミナー「呼吸器外科・心臓外科手術における術後回復促進を考える～アセトアミノフェン静注液の活用～」座長)
- 3) 第 21 回日本冠動脈外科学会学術大会(平成 28 年 6 月, 東京, 「第 13 回 OPCAB コンテスト」予選審査員)
- 4) 第 105 回東海心臓外科懇話会(平成 28 年 9 月, 岐阜, 特別講演「心臓大血管外科の起死回生の一手」演者)
- 5) 第 228 回岐阜外科集談会・日本臨床外科学会岐阜支部会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 特別講演「そうだったのか、深部静脈血栓症！～歴史から紐解く抗凝固療法の意義～」座長)
- 6) 第 31 回日本冠疾患学会学術集会(平成 29 年 12 月, 大阪, 外科シンポジウム 1「慢性虚血性心不全 IMR, LV dysfunction, 高度虚血をどうするか」座長)
- 7) 第 31 回日本冠疾患学会学術集会(平成 29 年 12 月, 大阪, モーニングセミナー「TAVI 時代における

Surgical AVR の重要性」座長)

岩田 尚 :

- 1) 第 2 回呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー(平成 27 年 1 月, 静岡, 講義「VATS 手技セミナー」演者)
- 2) 第 2 回呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー(平成 27 年 1 月, 静岡, 「ドライラボ」講師)
- 3) 第 8 回 General Thoracic Surgical Forum Program(平成 27 年 2 月, 東京, 演者プレゼンテーション「複雑区域切除」演者)
- 4) 第 68 回日本胸部外科学会定期学術集会(平成 27 年 10 月, 神戸, Debate「病理病期 I 期原発性肺癌に対する肺葉切除術と区域切除術の比較検討」演者)
- 5) 第 28 回日本内視鏡外科学会総会(平成 27 年 12 月, 大阪, ワークショップ「Hybrid VATS を主に用いた当科の区域切除術の再発、予後に関する検討」演者)
- 6) 第 6 回呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー(平成 28 年 1 月, 東京, 講義「安全セミナー」演者)
- 7) 第 6 回呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー(平成 28 年 1 月, 東京, 「アニマルラボ解剖解説及び手順<豚解剖>」講師)
- 8) 第 22 回呼吸器外科セミナー(平成 28 年 5 月, 京都, 講義「区域・亜区域切除に必要な肺の区域解剖」司会)
- 9) 第 8 回呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー(平成 28 年 7 月, 東京, 講義「VATS 手技セミナー」演者)
- 10) 第 6 回広島呼吸器外科講演会(平成 28 年 9 月, 広島, 特別講演「原発性肺癌に対する低侵襲手術の現状と将来」演者)
- 11) 第 29 回日本内視鏡外科学会総会(平成 28 年 12 月, 横浜, シンポジウム「当科の臨床病期 I 期肺癌に対する胸腔鏡下手術」演者)
- 12) 第 57 回日本肺癌学会学術集会(平成 28 年 12 月, 福岡, イブニングセミナー「肺がんの術式選択における PET の有効性」演者)
- 13) 第 12 回呼吸器外科胸腔鏡教育セミナー(平成 29 年 7 月, 東京, ドライラボガイダンス、インストラクター)
- 14) 第 8 回広島腫瘍 PET セミナー(平成 29 年 10 月, 広島, 特別講演「肺癌外科診療における PET/CT の活用」演者)
- 15) 第 229 回岐阜外科集談会・日本臨床外科学会岐阜支部会(平成 29 年 11 月, 岐阜, 特別講演「私どもが施行している肺がんの手術」演者)
- 16) 第 30 回日本内視鏡外科学会総会(平成 29 年 12 月, 京都, ワークショップ「内視鏡外科手術の教育：よりよいシミュレーターの開発を目指して」座長)

關野考史 :

- 1) 第 71 回日本消化器外科学会総会(平成 28 年 7 月, 徳島, ワークショップ「内視鏡手術のトラブルシューティング」演者)

島袋勝也 :

- 1) 第 68 回日本胸部外科学会定期学術集会(平成 27 年 10 月, 神戸, Debate「偽腔開存型 Stanford B 型慢性大動脈解離に対し TEVAR を施行した症例の検討」演者)
- 2) 第 46 回日本心臓血管外科学会学術総会(平成 28 年 2 月, 名古屋, イブニングセミナー「慢性解離性大動脈瘤に対する TEVAR」演者)
- 3) 第 44 回日本血管外科学会学術総会(平成 28 年 5 月, 東京, パネルディスカッション「破裂性腹部大動脈瘤に対する治療」座長)

村瀬勝俊 :

- 1) 第 226 回岐阜外科集談会・日本臨床外科学会岐阜支部会(平成 28 年 5 月, 岐阜, 論文賞受賞講演「門脈腫瘍栓を認めた腓頭部膵管癌の 1 例」演者)

白橋幸洋 :

- 1) 第 60 回関西胸部外科学会学術集会(平成 29 年 6 月, 大阪, パネルディスカッション「画像上充実型を呈する臨床病期 I 期原発性肺癌における区域切除と肺葉切除の比較 —傾向スコアを用いた比較—」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

土井 潔：

- 1) 岐阜県身体障害者厚生相談所身体障害者医学判定非常勤医師(平成 28 年 1 月～現在)
- 2) 岐阜県社会福祉審議会委員(平成 28 年 1 月～現在)
- 3) 岐阜市社会福祉審議会臨時委員(平成 28 年 1 月～現在)

關野考史：

- 1) 岐阜地域医師会連携パス大腸がん運営委員(~現在)

島袋勝也：

- 1) 岐阜県身体障害者厚生相談所身体障害者医学判定非常勤医師(平成 27 年 1 月～平成 28 年 1 月)
- 2) 岐阜県社会福祉審議会委員(平成 27 年 1 月～平成 28 年 1 月)
- 3) 岐阜市社会福祉審議会臨時委員(平成 27 年 1 月～平成 28 年 1 月)
- 4) 岐阜県医師会糖尿病医療連携研究会委員(~現在)

10. 報告書

- 1) 島袋勝也：Bartonella henselae を用いた重症虚血肢に対する治療法の確立：平成 24-26 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究成果報告書：1-4(平成 27 年 6 月)
- 2) 松野幸博：低酸素応答システムを標的とした超音波遺伝子導入による病的心筋リモデリングの制御：平成 25-27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究成果報告書：1-5(平成 28 年 4 月)

11. 報道

- 1) 木村真樹：「中部ものづくり」のコーナーで㈱タナックとの共同開発の様子などを紹介：NHK 岐阜「ほっとイブニングぎふ」(2016 年 4 月 27 日)
- 2) 岩田 尚：岐阜大病院 呼吸器センター設置 3 部門連携 肺がんなど最先端診療 ～医学部附属病院～：岐阜新聞(2017 年 3 月 29 日)
- 3) 岩田 尚：岐阜大病院「呼吸器センター」本格始動 重度疾患で 3 科連携 ～医学部附属病院 岩田 尚 臨床教授～：中日新聞(2017 年 4 月 2 日)
- 4) 岩田 尚：岐大病院に呼吸器センター 治療と専門医育成へ 地域医療機関と連携強化も ～医学部附属病院呼吸器センター 岩田 尚 センター長～：朝日新聞(2017 年 4 月 15 日)
- 5) 土井 潔：研究室から大学はいま 弁膜症手術の時期が重要 ～高度先進外科学分野 土井 潔 教授～：岐阜新聞(2017 年 10 月 31 日)

12. 自己評価

評価

全員が臨床を続けながら、いわゆる研究のための研究ではなく、実際の臨床の中で疑問を持ったテーマを研究課題として掲げ取り組んでいる点は評価に値すると考えている。

現状の問題点及びその対応策

外科部門であるため緊急手術などで忙しく、研究のためにまとまった時間を確保しにくい、研究の進展がゆっくりである。ある程度大学病院に人材を集めて、人的な余裕を作り大学院生等に所属する人間が数年間は研究に専念できる環境づくりが必要である。

今後の展望

心臓血管外科部門 運動負荷試験を用いた研究結果から、心臓手術の適応や術後リハビリの指針に関わる研究論文を発表して行きたい。

呼吸器外科部門 肺癌手術の術式や適応の指針に関わる研究論文を発表して行きたい。

消化器外科部門 模擬臓器に関する研究では実際の外科トレーニングで使える商品として完成させたい。

(6) 整形外科学分野

1. 研究の概要

1) 遺伝性多発性外骨腫の実態把握と遺伝子多型に関する基盤研究

岐阜大学で外骨腫専門外来を開設し 患者集約とともに遺伝子サンプルを採取し解析を行っている。

2) 多発性外骨腫と骨粗鬆症との相関に関する研究

外骨腫専門外来に訪れた患者を対象に、骨密度を測定し、血液検査とともに疾患と骨粗鬆症に関する関係を解析中。

3) 変形性膝関節症とヘパラン硫酸の相関に関する研究

ヘパラン硫酸が変形性関節症に及ぼす影響を遺伝子改変マウスを使用し解析中。

4) 人工膝関節術後の患者満足度に関わる因子について

人工膝関節置換術後の患者を対象に様々な角度から患者満足度に関わる因子を検討し、手術成績の向上に努めている。

5) 高位脛骨骨きり術の手術手技に影響する因子の研究

高位脛骨骨きり術の手術手技は未だ発展途上であり様々な因子が影響する。我々は手術専用デバイス等を開発し手術手技の向上に寄与するかどうかを検討している。

6) 中高年齢原発性高悪性度悪性骨腫瘍の治療成績に対する研究

希少がんのひとつである中高年齢者に発生した原発性悪性骨腫瘍に対する治療内容および成績について全国骨軟部腫瘍治療施設における多施設共同コホート研究を行っている。

7) 腱再生を制御する分子制御機構の解明と腱再生治療の開発

腱損傷後の再生シグナル機構を解明し、腱再生を促進する薬物治療を開発することを目指している。

8) iPS 細胞からの腱細胞・靭帯細胞の分化誘導法の開発

iPS 細胞から腱細胞および靭帯細胞を分化誘導することで、外傷による腱・靭帯欠損に対する細胞移植治療、組織移植治療を開発することを目指している。

9) 変形性関節症の新規治療薬の探求

変形性関節症の病態である軟骨変性に対して中心的な役割を果たす MMP13 の発現を抑制する低分子化合物の同定を目指している。

10) 脊柱変形（成人・思春期特発性・症候群性）に対する 3次元歩行動作解析

側弯症による脊柱・下肢関節・骨盤可動域への影響を歩行動作解析にて評価し、それを術前リハビリにフィードバックすることで、より理想的な歩容の獲得を目指している。

11) 特発性大腿骨頭壊死症に対する薬剤投与効果の研究

特発性大腿骨頭壊死モデルに対して予後改善効果の期待できる薬剤投与試験を行い、臨床応用を目指している。

12) 人工股関節臼蓋コンポーネントにおける臼蓋応力の有限要素法解析

人工股関節置換術で使用する臼蓋コンポーネントの開発が進んでいるが、このポアラス部分の違いでどのように応力変化が生じるかを、有限要素法解析を用いて解析し、より長期的な臨床成績が得られるインプラント特性の解明や開発を目指している。

13) 臼蓋形成術による股関節生物力学的変化の有限要素法解析

臼蓋形成不全股における臼蓋形成術前後の応力変化を有限要素法解析によって解析し、変形性股関節症進行メカニズムの解明と、臼蓋形成術の有用性を明らかにすることを目指している。

14) iPS 細胞由来ルブリシン発現細胞を用いた軟骨および腱鞘の再生医療

マウス iPS 細胞由来ルブリシン発現細胞 (Prg4 陽性細胞) を作成し、関節軟骨変性部および腱鞘癒着部へ移植することで機能的関節軟骨・腱鞘の再生医療を目指す。

15) 「3D プリンター」の整形外科手術への応用に関する研究

3D プリンターで実物大の 3次元生体モデルを作製し、術前計画や術中確認などへの応用を目指している。

16) 骨軟骨組織におけるエネルギー生合成と骨格病態の研究

骨軟骨におけるエネルギー生合成と骨格病態の関連を、遺伝子改変マウスを用いて解明し、骨関節疾患に対する新規治療法の開発のための基盤研究とする

17) 早期骨癒合を目指した骨 DDS としてのペプチド修飾低分子ヘパリン開発

化学的修飾を加えたヘパリンを担体として組織特異的に成長因子を運搬し、骨形成を促進するシステムの確立を目指している。

2. 名簿

教授：	秋山治彦	Haruhiko Akiyama
教授：	西本 裕	Yutaka Nishimoto
准教授：	松本 和	Kazu Matsumoto
准教授：	伏見一成	Kazunari Fushimi
准教授：	青木隆明	Takaaki Aoki
助教：	田中 領	Ryo Tanaka
助教：	小川寛恭	Hiroyasu Ogawa
講師：	永野昭仁	Akihito Nagano
講師：	瀧上伊織	Iori Takigami
臨床講師：	岩井智守男	Chizuo Iwai
臨床講師：	平川明弘	Akihiro Hirakawa
臨床講師：	寺林伸夫	Nobuo Terabayashi
臨床講師：	次田雅典	Masanori Tsugita
医員：	河村真吾	Shingo Komura
医員：	石塚恭平	Kyohei Ishizuka
医員：	廣瀬仁士	Hitoshi Hirose
医員：	山本恭介	Kyosuke Yamamoto
医員：	浅野博美	Hiromi Asano

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 秋山治彦. 「変形性股関節症」. 今日の治療指針 2017 年度版, 株式会社 医学書院: 2017 年; 59 巻: 1069-1070.
- 2) 秋山治彦. 「人工股関節置換法 アプローチと最新の機器のトレンド」 「表面酸化処理ジルコニウム (OxZr) 合金骨頭の特徴と臨床成績」, 関節外科: 2017 年: vol.36, No.11: 62-67.
- 3) 西本裕, 大野貴敏, 杉山潤子, 村瀬妙子. 悪性骨・軟部腫瘍の手術. 金森昌彦編. 手術ナーシング第 4 巻第 2 号, 特集「整形外科での器械出し」, 東京: 医学出版; 2017 年: 88-95 (ISBN978-4-287-71006-7)

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 秋山治彦, 小川寛恭. ロコモティブシンドロームの基礎 運動器を構成する組織, 関節: 日本医師会雑誌—ロコモティブシンドロームのすべて— 2015 年; 144 巻: 56-58.
- 2) 小川寛恭, 秋山治彦. 概論: 軟骨細胞, 関節: 骨ペディア 2015 年; 4 月号: 51-55.
- 3) 小川寛恭, 秋山治彦. 概論: 変形性関節症—軟骨破壊の分子機序—: リウマチ科—リウマチ性疾患の病因・病態に関する up-to-date— 2015 年; 53 巻: 287-291.
- 4) 小川寛恭, 秋山治彦. Review: 分子・発生生物学を駆使した軟骨形成・再生の制御, CLINICAL CALCIUM 2015 年; 25 巻: 20-27.
- 5) 石丸大地, 秋山治彦. 骨構成細胞特異的遺伝子改変マウス, 骨ペディア 2015 年; 4 月号: 319-320.
- 6) 河村真吾, 秋山治彦. 肉腫基礎研究の最前線(1): 肉腫発生機構—肉腫特異的がん遺伝子異常と発がんのエピゲノム制御, 医学のあゆみ 肉腫研究・診療の最前線—bench to bedside 2015 年; 254 巻: 257-262.
- 7) 秋山治彦. 視座 「アクティブシニア」, 臨床整形外科 2016 年; 51 巻 1 号: 3.
- 8) 永野 昭仁, 石丸 大地, 大野 貴敏, 西本 裕, 秋山 治彦. 当科における軟部肉腫の治療成績, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2016 年; 59 巻: 569-570.
- 9) 瀧上伊織, 石原多佳子, 西本裕, 小林和成, 山崎仁朗, 高木和美, 大野ゆう子. IT 機器を介した高齢者地域見守りモデル事業導入時の課題, 日本早期認知症学会誌 2016 年; 9 巻: 43-48.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 増田剛宏, 宮本 敬, 日置 暁, 下川哲哉, 蔵満紀成, 秋山治彦. 正常圧水頭症を合併した馬尾神経腫瘍の一例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2015 年; 58 巻: 387-388.
- 2) 増田剛宏, 宮本 敬, 日置 暁, 下川哲哉, 蔵満紀成, 秋山治彦. 当科における頸椎前方手術術後の合併症の検討, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2015 年; 58 巻: 453-454.
- 3) 永野昭仁, 大野貴敏, 西本 裕, 秋山治彦. Extrapleural solitary fibrous tumor の治療成績, 中部日本整形

外科災害外科学会雑誌 2015年; 58巻: 1055-1056.

- 4) 永野昭仁, 大野貴敏, 西本 裕, 秋山治彦, 宮崎龍彦, 酒々井夏子, 齋郷智恵美, 小林一博. 右大腿骨骨腫瘍の1例, 東海骨軟部腫瘍 2015年; 27巻: 25-26.
- 5) 増田剛宏, 宮本 敬, 下川哲哉, 日置 暁, 秋山治彦. 腰椎破裂骨折に対する抜釘を企図した後方矯正固定後に罹患椎上位頭側椎間板の急速な変性進行を認めた2例, J.Tokai spinal Surg 2015年; 29巻: 37-40.
- 6) 宮川貴樹, 伏見 一成, 増田 剛宏, 宮本 敬, 下川 哲哉, 日置 暁, 清水 克時, 秋山 治彦. 胸腰椎部感染性脊椎炎前方支柱欠損に対する有茎肋骨移植術の治療成績, Journal of Spine Research 7: 849-851, 2016
- 7) 林慶州, 寺林伸夫, 松本茂美, 田辺久美子, 飯田宏樹. 鏡視下肩関節手術後痛に対する持続フェンタニル投与あるいはトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の有効性の検討. 麻酔 2017年; 66(7): 744-747.

原著 (欧文)

- 1) Matsumoto S, Matsumoto K, Iida H. Transdermal fentanyl patch improves post-operative pain relief and promotes early functional recovery in patients undergoing primary total knee arthroplasty: a prospective, randomised, controlled trial. Arch Orthop Trauma Surg. 2015;135:1291-1297. CS 2.03
- 2) Matsumoto K, Mori N, Ogawa H, Akiyama H. Accuracy of a novel extramedullary femoral alignment guide system in primary total knee arthroplasty. Arch Orthop Trauma Surg. 2015;135:1743-1748. CS 2.03
- 3) Masuda T, Miyamoto K, Wakahara K, Matsumoto K, Hioki A, Shimokawa T, Shimizu K, Ogura S, Akiyama H. Clinical Outcomes of Surgical Treatments for Traumatic Spinal Injuries due to Snowboarding. Asian Spine J. 2015;9:90-98. CS 0.97
- 4) Matsumoto K, Ogawa H, Akiyama H. Multifocal Osteonecrosis Secondary to Chronic Alcohol Ingestion. Case Rep Orthop. 2015:137273.
- 5) Ogawa H, Akiyama H. Analysis of Musculoskeletal Systems and Their Diseases. Regulation of chondrogenesis and cartilage regeneration by molecular and developmental biology. Clin Calcium. 2015;25:1116-1124. CS 0.26
- 6) Matsumoto Y, Matsumoto K, Harimaya K, Okada S, Doi T, Iwamoto Y. Scoliosis in patients with multiple hereditary exostoses. Eur Spine J. 2015;24:1568-1573. CS 1.85
- 7) Takigami I, Otsuka H, Yamamoto K, Iwase T, Fujita H, Matsuda S, Akiyama H. Proximal femoral reconstruction with impaction bone grafting and circumferential metal mesh. J Orthop Sci. 2015;20:331-339. CS 1.29
- 8) Sugita S, Hosaka Y, Okada K, Mori D, Yano F, Kobayashi H, Taniguchi Y, Mori Y, Okuma T, Chang SH, Kawata M, Taketomi S, Chikuda H, Akiyama H, Kageyama R, Chung UI, Tanaka S, Kawaguchi H, Ohba S, Saito T. Transcription factor Hes1 modulates osteoarthritis development in cooperation with calcium/calmodulin-dependent protein kinase 2. Proc Natl Acad Sci U S A. 2015;112:3080-3085. CS 8.84
- 9) Hosokawa S, Furuyama K, Horiguchi M, Aoyama Y, Tsuboi K, Sakikubo M, Goto T, Hirata K, Tanabe W, Nakano Y, Akiyama H, Kageyama R, Uemoto S, Kawaguchi Y. Impact of Sox9 Dosage and Hes1-mediated Notch Signaling in Controlling the Plasticity of Adult Pancreatic Duct Cells in Mice. Sci Rep. 2015;5:8518. CS 5.30
- 10) Nakao K, Osawa K, Yasoda A, Yamanaka S, Fujii T, Kondo E, Koyama N, Kanamoto N, Miura M, Kuwahara K, Akiyama H, Bessho K, Nakao K. The Local CNP/GC-B system in growth plate is responsible for physiological endochondral bone growth. Sci Rep. 2015;5:10554. CS 5.30
- 11) Terabayashi N, Matsumoto K, Takigami I, Ito Y. Treatment of humeral fracture after shoulder arthroplasty using functional brace: a case report. Journal of Orthopaedic Case Reports. 2016;6(2):3-5.
- 12) Kawashima K, Terabayashi N, Miyagawa T, Tanaka R, Ogawa H, Takigami I, Matsumoto K, Akiyama H. Stress Fractures of the First Rib Related to Swinging of a Baseball Bat: Two Case Reports. Clin J Sport Med. 2016 Nov;26(6):108-110. CS 2.00
- 13) Nagano A, Ohno T, Oshima K, Ishimaru D, Nishimoto Y, Ohno Y, Hirakawa A, Miyazaki T, Akiyama H. Metastatic Prostate Cancer of Hand. Case Rep Orthop. 2016;2016:1472932.
- 14) Akihito Nagano, Takatoshi Ohno, Koji Oshima, Daichi Ishimaru, Yutaka Nishimoto, Yoshiyuki Ohno, Akihiro Hirakawa, Tatsuhiko Miyazaki, and Haruhiko Akiyama. Metastatic Prostate Cancer of Hand Case Reports in Orthopedics, 2016, 1472932, 2016
- 15) Nagano A, Ishimaru D, Nishimoto Y, Akiyama H, Kawai A. Primary bone sarcomas in patients over 40 years of age: A retrospective study using data from the Bone Tumor Registry of Japan. J Orthop Sci. 2017 Apr 12. pii: S0949-2658(17)30076-3. CS 1.38
- 16) Tateuchi H, Koyama Y, Akiyama H, Goto K, So K, Kuroda Y, Ichihashi N. Daily cumulative hip moment is associated with radiographic progression of secondary hip osteoarthritis. Osteoarthritis Cartilage. 2017 Feb 21. pii: S1063-4584(17)30863-4.
- 17) Shishido Y, Baba T, Sato T, Shima Y, Miyabayashi K, Inoue M, Akiyama H, Kimura H, Kanai Y, Ishihara Y, Haraguchi S, Miyazaki A, Rozman D, Yamazaki T, Choi MH, Ohkawa Y, Suyama M, Morohashi KI. Differential lactate and cholesterol synthetic activities in XY and XX Sertoli cells. Sci Rep. 2017 Feb 2;7:41912. doi: 10.1038/srep41912. CS 4.63
- 18) Matsumoto K, Ogawa H, Yoshioka H, Akiyama H. Postoperative Anteroposterior Laxity Influences Subjective Outcome After Total Knee Arthroplasty. J Arthroplasty. 2016 Dec 29. pii: S0883-

- 5403(16)30928-7. doi: 10.1016/j.arth.2016.12.043. [Epub ahead of print]
- 19) Matsumoto K, Ogawa H, Fukuta M, Mori N, Akiyama H. Comparative Study for Alignment of Extramedullary Guides versus Portable, Accelerometer-Based Navigation in Total Knee Arthroplasty. *J Knee Surg.* 2017 May 1. doi: 10.1055/s-0037-1602133. CS 1.49
 - 20) Iwata T, Nozawa S, Maeda M, Akiyama H. New Technique for Removal of Screws With Damaged Heads. *Orthopedics.* 2017 Jun 6:1-4. CS 1.18
 - 21) Takigami I, Ito Y, Matsumoto K, Terabayashi N, Miyagawa T, Akiyama H. Mid-Term Results of the SL-PLUS Femoral Prosthesis The Influence of Femoral Bone Type. *Bull Hosp Jt Dis* (2013). 2017 Apr;75(2):128-133. CS 0.98
 - 22) Wang Y, Wu MH, Cheung MPL, Sham MH, Akiyama H, Chan D, Cheah KSE, Cheung M. Reprogramming of Dermal Fibroblasts into Osteo-Chondrogenic Cells with Elevated Osteogenic Potency by Defined Transcription Factors. *Stem Cell Reports.* 2017 Jun 6:8(6):1587-1599. CS 7.36
 - 23) Ishimaru D, Nagano A, Terabayashi N, Nishimoto Y, Akiyama H. Suprascapular Nerve Entrapment Caused by Protrusion of an Intraosseous Ganglion of the Glenoid into the Spinoglenoid Notch: A Rare Cause of Posterior Shoulder Pain. *Case Rep Orthop.* 2017;2017:1704697.
 - 24) Komura S, Semi K, Itakura F, Shibata H, Ohno T, Hotta A, Woltjen K, Yamamoto T, Akiyama H, Yamada Y. An EWS-FLI1-Induced Osteosarcoma Model Unveiled a Crucial Role of Impaired Osteogenic Differentiation on Osteosarcoma Development. *Stem Cell Reports.* 2016 Apr 12; 6(4):592-606. CS 7.36
 - 25) Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H. The prevention of a lateral hinge fracture as a complication of a medial opening wedge high tibial osteotomy: a case control study. *Bone Joint J.* 2017 Jul;99-B(7):887-893. doi: 10.1302/0301-620X.99B7.BJJ-2016-0927.R1.
 - 26) Sono T, Akiyama H, Miura S, Deng JM, Shukunami C, Hiraki Y, Tsushima Y, Azuma Y, Behringer RR, Matsuda S. THRAP3 interacts with and inhibits the transcriptional activity of SOX9 during chondrogenesis. *J Bone Miner Metab.* 2017 Aug 2. doi: 10.1007/s00774-017-0855-2. [Epub ahead of print] CS 2.27
 - 27) Yozawa S, Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H. Periarticular Injection of Tranexamic Acid Reduces Blood Loss and the Necessity for Allogeneic Transfusion After Total Knee Arthroplasty Using Autologous Transfusion: A Retrospective Observational Study. *J Arthroplasty.* 2017 Aug 24. pii: S0883-5403(17)30741-6. doi: 10.1016/j.arth.2017.08.018. CS 3.01
 - 28) Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H. New angle measurement device to control the posterior tibial slope angle in medial opening wedge high tibial osteotomy. *Arch Orthop Trauma Surg.* 2017 Nov 17. doi: 10.1007/s00402-017-2846-0. [Epub ahead of print] CS 2.10
 - 29) Yamauchi K, Fushimi K, Miyamoto K, Hioki A, Shimizu K, Akiyama H. Sagittal Alignment of a Strut Graft Affects Graft Subsidence and Clinical Outcomes of Anterior Cervical Corpectomy and Fusion. *Asian Spine J.* 2017 Oct;11(5):739-747. doi: 10.4184/asj.2017.11.5.739. Epub 2017 Oct 11. CS 0.99
 - 30) Tateuchi H, Akiyama H, Goto K, So K, Kuroda Y, Ichihashi N. Sagittal alignment and mobility of the thoracolumbar spine are associated with radiographic progression of secondary hip osteoarthritis. *Osteoarthritis Cartilage.* 2017 Dec 18. pii: S1063-4584(17)31376-6. doi: 10.1016/j.joca.2017.12.005. [Epub ahead of print] CS 4.62
 - 31) Abe SI, Abe K, Zhang J, Harada T, Mizumoto G, Oshikawa H, Akiyama H, Shimamura K. Roles of CD34+ cells and ALK5 signaling in the reconstruction of seminiferous tubule-like structures in 3-D re-aggregate culture of dissociated cells from neonatal mouse testes. *PLoS One.* 2017 Nov 30;12(11):e0188705. doi: 10.1371/journal.pone.0188705. eCollection 2017. CS 3.11
 - 32) Hino K, Horigome K, Nishio M, Komura S, Nagata S, Zhao C, Jin Y, Kawakami K, Yamada Y, Ohta A, Toguchida J, Ikeya M. Activin-A enhances mTOR signaling to promote aberrant chondrogenesis in fibrodysplasia ossificans progressive. *J Clin Invest.* 2017 Sep 1;127(9):3339-3352. doi: 10.1172/JCI93521. CS 10.98
 - 33) Komura S, Hirakawa A, Masuda T, Ito Y, Akiyama H. Recurrent atraumatic acute carpal tunnel syndrome due to hematoma caused by distal radioulnar joint arthritis during anticoagulant treatment with apixaban. *Arch Orthop Trauma Surg.* 2017 Aug;137(8):1161-1164. doi: 10.1007/s00402-017-2730-y. CS 2.10
 - 34) Tanaka K, Joyama S, Chuman H, Hiraga H, Morioka H, Yoshikawa H, Hosaka M, Takahashi M, Kubo T, Hatano H, Kaya M, Toguchida J, Nishida Y, Nagano A, Tsumura H, Iwamoto Y. Feasibility and efficacy of gemcitabine and docetaxel combination chemotherapy for bone and soft tissue sarcomas: multi-institutional retrospective analysis of 134 patients. *World J Surg Oncol.* 2016 Dec 8;14(1):306. CS 1.81
 - 35) Ozeki M, Nozawa A, Kanda K, Hori T, Nagano A, Shimada A, Miyazaki T, Fukao T. Everolimus for Treatment of Pseudomyogenic Hemangioendothelioma. *J Pediatr Hematol Oncol.* 2017 Aug;39(6):e328-e331. CS 1.03
 - 36) Nakamura T, Katagiri H, Shido Y, Hamada S, Yamada K, Nagano A, Yamada S, Tsukushi S, Ishimura D, Matsumine A, Sudo A, Nishida Y. Analysis of Factors for Predicting Survival in Soft-tissue Sarcoma with Metastatic Disease at Initial Presentation. *Anticancer Res.* 2017 Jun;37(6):3137-3141. CS 1.90
 - 37) Ishimaru D, Nagano A, Terabayashi N, Nishimoto Y, Akiyama H. Suprascapular Nerve Entrapment Caused by Protrusion of an Intraosseous Ganglion of the Glenoid into the Spinoglenoid Notch: A Rare Cause of Posterior Shoulder Pain. *Case Rep Orthop.* 2017;2017:1704697.
 - 38) Takigami I, Ito Y, Miyagawa T, Akiyama H. Magnetic Resonance Imaging Findings Following Ceramic-

- on-Ceramic Total Hip Arthroplasty Using Modular Neck Femoral Components. Bull Hosp Jt Dis. 2017;75(2),128-133
- 39) Hirakawa A, Ohno Y, Komura S, Akiyama H. Wound breakdown reconstructed by reverse lateral arm flap after excision of heterotopic ossification of the elbow following severe burn injury: A case report. Burns Open 1 2017;p37-40
- 40) Inubushi T, Nozawa S, Matsumoto K, Irie F, Yamaguchi Y. Aberrant perichondrial BMP signaling mediates multiple osteochondromagenesis in mice. JCI Insight 2017. 3:2(15),
- 41) Watanabe, T., Murakami, H., Fukuoka, D., Terabayashi, N., Shin, S., Yabumoto, T., Ito H, Fujita H, Matsuoka T, Seishima, M. Quantitative Sonographic Assessment of the Quadriceps Femoris Muscle in Healthy Japanese Adults. Journal of Ultrasound in Medicine. 2017 1383-1395 CS 1.50
- 42) Ogawa, H., Matsumoto, K., Terabayashi, N., Kawashima, K., Takeuchi, K., & Akiyama, H. Association of lubricin concentration in synovial fluid and clinical status of osteoarthritic knee. Modern rheumatology, 2017 27(3), 489-492. CS 1.54
- 43) Hirakawa A, Ohno Y, Akiyama H. Tardy radial nerve palsy in congenital pseudarthrosis of the olecranon: A case report. J Orthop Sci. 2017 Jul;22(4):787-789. CS 1.38

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：秋山治彦，研究分担者：宿南知佐，松田秀一；学術研究助成基金助成金基盤研究(B)：骨細胞におけるメカノセンサーとしてのカルシウム活性化カリウムチャンネルの機能解析；平成 25-28 年度；3,120 千円(直接経費：2,400 千円，間接経費：720 千円)
- 2) 研究代表者：松本 和；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：へパラン硫酸に着目した変形性膝関節症の新たな病態の解明；平成 27-30 年度；1,950 千円(直接経費：1,500 千円，間接経費：450 千円)
- 3) 研究代表者：瀧上伊織；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：関節形態形成におけるメカニカルストレス応答機序の分子生物学的解析；平成 27-30 年度；2,080 千円(直接経費：1,600 千円，間接経費：480 千円)
- 4) 研究代表者：松本 和；平成 27 年度研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：患者満足度向上にむけた新たな人工膝関節置換術(TKA)の試み；平成 27-28 年度；1,000 千円
- 5) 研究代表者：石丸大地；平成 27 年度研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：多発性外骨腫症における新規原因遺伝子の検討；平成 27-28 年度；1,500 千円
- 6) 研究代表者：野澤 聡；平成 28 年度研究科長・医学部長裁量経費；500 千円
- 7) 研究代表者：河村真吾；平成 28 年度 整形災害外科学研究助成財団 基礎研究部門 科研製薬奨励賞：Scx-EGFP マウスを利用した最適な腱細胞・靭帯細胞の維持培養法の確立と iPS 細胞からの腱細胞・靭帯細胞の分化誘導法の開発；1,000 千円
- 8) 研究代表者：野澤 聡；AOSpine Japan Research Grant 2017
- 9) 研究代表者：河村真吾；平成 29 年度 公益財団法人 武田科学振興財団 医学系研究奨励：腱再生起源細胞の同定とその分子制御機構の解明による腱疾患の新規治療開発；2,000 千円
- 10) 研究代表者：河村真吾；平成 29 年度 日本股関節研究振興財団 研究助成金：先天性股関節脱臼の病態解析による関節メカニカルストレス応答機構の分子生物学的解析；700 千円

2) 受託研究

秋山治彦：特発性大腿骨頭壊死症における bFGF 含有ゼラチンハイドロゲルによる壊死骨再生治療の開発；平成 27 年度-平成 28 年度；262,474,854 円；国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

3) 共同研究

共同研究

研究代表者：岩本幸英、研究分担者：永野昭仁；日本医療研究開発機構(AMED)：高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究；平成 27 年度；900 千円

5. 特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

秋山治彦：

- 1) 日本整形外科学会代議員(～現在)
日本整形外科学会症例調査・検討委員会委員(～現在)
日本整形外科学会利益相反管理委員会委員長(～現在)
日本整形外科学会 JOS Best Paper Award 選考委員会委員(～現在)
日本整形外科学会第30回専門医試験口頭試験委員(～現在)
- 2) 日本人工関節学会理事(～現在)
- 3) 日本運動器学会評議員・編集委員(～現在)
- 4) 日本骨折治療学会評議員(～現在)
- 5) 日本股関節学会評議員(～現在)
- 6) 東海関節外科研究会代表幹事(～現在)
- 7) 日骨リモデリング研究会世話人(～現在)
- 8) 第27回日本整形外科学会専門医口頭試験委員(～現在)
- 9) 日本整形外科学会奨励賞選考委員会委員(～現在)
- 10) 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録査読委員(～現在)
- 11) 第30回日本整形外科学会基礎学術集会抄録査読委員(～現在)
- 12) 第89回日本整形外科学会学術総会抄録査読委員(～現在)
- 13) 第33回日本骨代謝学会学術集会抄録査読委員(～現在)
- 14) Japanese-Korean Combined Orthopaedic Symposium (JKCOS) Organization Committee Member(～現在)
- 15) 日本骨代謝学会評議員(～現在)
- 16) 日本軟骨代謝学会理事(～現在)
- 17) 日本人工関節学会理事・評議員・金属対金属人工股関節合併症調査医員(～現在)
- 18) 中部整形外科災害外科学会 評議員(～現在)
- 19) 公益財団法人 日本股関節研究振興財団 評議員(～現在)
- 20) 日本骨折治療学会 評議員(～現在)
- 21) 愛知県骨軟部組織移植振興財団 理事(～現在)
- 22) 岐阜県整形外科集談会 会長(～現在)
- 23) 岐阜整形外科セミナー 顧問(～現在)
- 24) 岐阜人工関節フォーラム 顧問(～現在)
- 25) 岐阜東洋医学研究会 幹事(～現在)
- 26) 東海整形外科外傷研究会 顧問(～現在)
- 27) 東海小児整形外科懇話会 顧問(～現在)
- 28) 東海脊椎脊髄病研究会 顧問(～現在)
- 29) 東海足と靴の研究会 顧問(～現在)
- 30) 東海人工関節研究会 顧問(～現在)
- 31) 東海関節鏡研究会 顧問(～現在)
- 32) 東海地区整形外科教育研修会 世話人(～現在)
- 33) 整形外科集談会東海地方会 世話人(～現在)
- 34) 東海地区整形外科研修会 世話人(～現在)
- 35) 東海運動器フォーラム 世話人(～現在)
- 36) 骨リモデリング研究会 世話人(～現在)
- 37) Orthopedic Research Club 世話人(～現在)
- 38) Hip Forum 世話人(～現在)
- 39) 日本人工関節学会 日本人工関節登録制度運営委員会事務局医員(～現在)
- 40) 第28回日本整形外科学会専門医口頭試験医員(～現在)
- 41) 第31回日本整形外科学会基礎学術集会査読委員(～現在)
- 42) 日本小児整形外科学会 評議員(～現在)
- 43) 公益財団法人整形災害外科学会研究助成財団評議員(～現在)
- 44) 北海道整形災害外科学会学術奨励賞選考委員(～現在)

- 45) JAPSAM PRP 幹細胞研究会世話人(～現在)
- 46) 京都大学 AMED 橋渡し研究戦略の推進プログラムシーズ選定委員会審査委員(～現在)
- 47) 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(～現在)
- 48) 独立行政法人日本学術振興会科学研究委員会専門委員(～現在)

青木隆明：

- 1) 日本リハビリテーション医学会代議員国際委員会委員長(～現在)
- 2) 日本運動器科学学会評議員編集委員(～現在)
- 3) 中部整形外科災害外科学会評議員(～現在)
- 4) 日本義肢装具学会評議員(～現在)
- 5) 整形外科リハビリテーション学会顧問(～現在)
- 6) 日本リハビリテーションネットワーク研究会理事(～現在)
- 7) 日本リハビリテーション医学会東海中部地方会幹事(～現在)

永野昭仁：

- 1) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(2015.10.3)(～現在)
- 2) 東海骨軟部腫瘍研究会幹事(～現在)
- 3) 東海骨軟部腫瘍治療検討会幹事(～現在)
- 4) 骨軟部肉腫治療研究会幹事(～現在)

瀧上伊織：

- 1) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
- 2) 愛知骨軟部組織移植振興財団評議員(～現在)

西本 裕：

- 1) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
- 2) 日本整形外科学会代議員(～現在)
- 3) 岐阜県スポーツ推進審議会 副会長(～現在)
- 5) 岐阜県体育協会スポーツ医科学協議会 副会長(～現在)
- 6) 岐阜県体育協会スポーツ診療所 管理者(～現在)
- 7) 岐阜県スポーツドクター協議会 副会長(～現在)
- 8) 「運動器の10年」岐阜委員会 代表(～現在)
- 9) 日本整形外科学会安全医療推進委員会委員(～現在)

平川明弘

- 1) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)

寺林伸夫

- 1) 中部日本整形外科災害外科学会 評議員(～現在)
- 2) 東海関節鏡研究会 幹事(～現在)
- 3) 東海スポーツ傷害研究会 幹事(～現在)
- 4) 岐阜整形外科エコーセミナー 幹事(～現在)
- 5) 岐阜スポーツ整形外科研究会 幹事(～現在)

2) 学会開催

青木隆明：

- 1) 第3回岐阜がんのリハビリテーション研修会(平成27年6月, 岐阜)
- 2) 人工関節フォーラム(平成29年3月, 岐阜)
- 3) 第3回岐阜がんのリハビリテーション研修会(平成29年7月, 岐阜)

伏見一成：

- 1) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成27年6月, 岐阜)
- 2) 第1回 Gifu Spine Seminar(平成27年7月, 岐阜)

- 3) 第2回 Gifu Spine Seminar(平成28年, 岐阜)
- 4) 第3回 Gifu Spine Seminar(平成29年, 岐阜)
- 5) 第1回ぎふ脊椎脊髄病研究会(平成28年, 3月, 岐阜)
- 6) 第2回ぎふ脊椎脊髄病研究会(平成29年, 3月, 岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

秋山治彦:

- 1) 第18回超音波骨折治療研究会(平成27年1月, 岐阜, 教育研修講演「力学的負荷に対する軟骨維持機構」演者)
- 2) ICJR Hip Japan(平成27年1月, 大阪, Symposium4 「Cemented cup: anatomical position with bone grafting」演者)
- 3) 読売健康講座(平成27年1月, 彦根, 「生涯元気に歩き続けるために～ひざ・股関節痛を学ぶ～」演者)
- 4) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成27年1月, 岐阜, 特別講演「腰椎分離症～State of the Art～」座長)
- 5) 第1回芝蘭会岐阜支部特別講演会(平成27年2月, 岐阜, 「超高齢社会における骨粗鬆症治療の重要性」演者)
- 6) 金華山整形外科 Meeting(平成27年2月, 岐阜, 特別講演「キーンバック病に対する血管柄付き骨移植術—その適応と成績—」座長)
- 7) 第3回女性の骨粗鬆症を考える会(平成27年2月, 岐阜, 特別講演「サルコペニアと骨粗鬆症」座長)
- 8) 岐阜脊椎関節炎研究会(平成27年2月, 岐阜, 講演「日常診療で行う SpA の診断と治療～最新情報も含めて～」座長)
- 9) 第10回東海運動器フォーラム(平成27年2月, 愛知, 特別講演「骨粗鬆症性圧迫骨折における最近の治療進歩」座長)
- 10) 第45回日本人工関節学会(平成27年2月, 福岡, 教育研修講演5「感染人工股関節に対する独自の抗菌薬入りセメントスプレー留置法」座長)
- 11) 第45回日本人工関節学会(平成27年2月, 福岡, ポスターセッション「THA術後成績3」座長)
- 12) 岐阜市産婦人科医会講演会(平成27年3月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症治療の現状と薬剤選択」演者)
- 13) 日本医師会生涯教育講座[後期](平成27年3月, 岐阜, 「骨粗鬆症治療の現状と病診連携の重要性」演者)
- 14) 骨・関節フォーラム in 岐阜 2015(平成27年3月, 岐阜, 特別講演「大腿骨転子部骨折の治療: 手術のコツとピットフォール; 大腿骨近位部骨折に対する我々の試み: 多職種連携アプローチ」座長)
- 15) 岐阜県臨床整形外科医会研修講演会(平成27年4月, 岐阜, 特別講演「岐阜におけるこれからの股関節外科学」演者)
- 16) 熊本運動器疾患懇話会(平成27年4月, 熊本, 特別講演「変形性股関節症の疼痛管理と人工股関節置換術」演者)
- 17) 弘前整形外科桜セミナー(平成27年4月, 青森, 特別講演「人工股関節置換術・再置換術の現状と課題」演者)
- 18) 岐阜骨粗鬆症市民公開講座～丈夫な骨で元気な毎日骨密度を測ろう～(平成27年4月, 岐阜, 「高齢者の骨と筋肉の話」演者)
- 19) 第4回岐阜運動器疾患の疼痛を考える会(平成27年4月, 岐阜, 特別講演「脊椎感染症の治療戦略」座長)
- 20) 高山市医師会学術講演会(平成27年5月, 岐阜, 「骨粗鬆症治療のコンセプト」演者)
- 21) 海津市医師会勉強会(平成27年5月, 岐阜, 「股・膝関節疾患の治療法」演者)
- 22) 第88回日本整形外科学会学術総会(平成27年5月, 兵庫, シンポジウム: 人工股関節再置換術における骨盤側骨欠損の対処方法「金属製欠損補填具と骨移植の比較」演者)
- 23) 第88回日本整形外科学会学術総会(平成27年5月, 岐阜, ランチョンセミナー「大腿骨近位部骨折予防への取り組み」演者)
- 24) Osteoporosis Seminar in GIFU(平成27年5月, 岐阜, 「骨粗鬆症治療における病診連携」演者)

- 25) 栃木関節疾患カンファレンス公開学術講演会(平成 27 年 5 月, 栃木, 「整形外科医から見た骨粗鬆症治療の必要性」 演者)
- 26) 第 1 回岐阜運動器外傷治療懇話会(平成 27 年 5 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症による脆弱性骨折の診断と治療の実際」 座長)
- 27) 第 88 回日本整形外科学会学術総会(平成 27 年 5 月, 兵庫, 招待講演「Total hip arthroplasty in Australia」 座長)
- 28) 第 17 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 27 年 5 月, 岐阜, 特別講演「半月板損傷の病態と治療-Save the meniscus-」 座長)
- 29) 第 20 回ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー(平成 27 年 6 月, 宮崎, 特別講演「これからの股関節外科学」 演者)
- 30) 第 36 回伊藤・近藤メモリアルレクチャー(平成 27 年 6 月, 京都, 「これから股関節外科学にもとめられるもの」 演者)
- 31) 岐阜県 Bone Conference(平成 27 年 6 月, 岐阜, 講演 1「骨粗鬆症に対するテリパラチド毎日製剤の使用経験～3 年間の経過報告～」 座長)
- 32) 岐阜県 Bone Conference(平成 27 年 6 月, 岐阜, 特別講演「骨折 Stop at One をさらに前に～始動！骨粗鬆症リエゾンサービス」 座長)
- 33) 岐阜 MRSA 感染症セミナー(平成 27 年 6 月, 岐阜, 特別講演「外科 MRSA 感染症治療～こうすれば治せます～」 座長)
- 34) 本巣地域連携講演会(平成 27 年 7 月, 岐阜, 特別講演「高齢者の骨粗鬆症ーサルコペニアと治療の病診連携ー」 演者)
- 35) 和歌山県立医科大学整形外科教室同門会研修会・第 12 回運動機能傷害フォーラムわかやま(平成 27 年 7 月, 和歌山, 特別講演「股関節疾患に対する治療戦略～再生医療と人工関節～」 演者)
- 36) 岐阜地区女医会夏季研修会(平成 27 年 7 月, 岐阜, 「骨折を予防し元気に長生きするために」 演者)
- 37) 第 11 回島根県整形外科医会研修会(平成 27 年 7 月, 島根, 特別講演「関節疾患治療法の今とこれから」 演者)
- 38) ビビアント発売 5 周年記念セミナー(平成 27 年 7 月, 岐阜, 特別講演「生活習慣病としての骨粗鬆症～ライフステージを考えた生活指導と SERM の役割～」 座長)
- 39) 第 3 回 Gifu Joint Seminar(平成 27 年 7 月, 岐阜, 講演 2「膝関節軟骨障害の治療戦略ースポーツ外傷から OA までー」 座長)
- 40) 第 1 回市民公開講座～コツコツ防ごう！！骨粗しょう症(平成 27 年 7 月, 岐阜, 「骨折を予防し元気に長生きするために」 演者)
- 41) 第 30 回飛騨整形外科懇話会(平成 27 年 8 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症治療の問題点と病診連携の重要性」 演者)
- 42) 岐阜地区女医会夏季研修会(平成 27 年 8 月, 岐阜, 「元気に動いて健やかな人生を」 演者)
- 43) 栗原市医師会学術講演会(平成 27 年 8 月, 宮城, 特別講演「脆弱性骨折の患者さんを減らすために」 演者)
- 44) 第 79 回日進歩医学研修会(平成 27 年 8 月, 岐阜, 特別講演「高齢者骨折への対策～多科連携と地域連携～」 演者)
- 45) 第 1 回市民公開講座ーコツコツ防ごう！！骨粗しょう症ー(平成 27 年 8 月, 岐阜, 基調講演「げんきに動いて健やかな人生を」 演者)
- 46) 12th Meeting of Bone Biology Forum(平成 27 年 8 月, 千葉, Lecture II 「Cell reprogramming and research on cartilage diseases」 座長)
- 47) 12th Meeting of Bone Biology Forum(平成 27 年 8 月, 千葉, Communication II 「Roles of HIF and Notch signaling in articular cartilage」 座長)
- 48) 山県市骨粗鬆症セミナー (平成 27 年 9 月, 岐阜, 特別講演「元気の秘訣：丈夫な骨と丈夫な筋肉」 演者)
- 49) 大崎地区整形外科病診連携の会(平成 27 年 9 月, 宮城, 特別講演「脆弱性骨折の患者さんを減らすために」 演者)
- 50) 岐阜新聞「大人の青春」健康フォーラム(平成 27 年 9 月, 岐阜, 「腰痛と神経痛の治療最前線ーつらい腰痛と下肢のしびれを楽にするためにー」 演者)
- 51) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 9 月, 岐阜, 講演 1「関節リウマチ～健やかな毎日を送るための治療～」 座長)
- 52) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 9 月, 岐阜, 講演 2「関節リウマチで骨を弱めないために」 座長)

- 53) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 9 月, 岐阜, 講演 3「関節リウマチと手術～元気で自分らしく外へ出よう～」座長)
- 54) 第 44 回岐阜人工関節フォーラム(平成 27 年 9 月, 岐阜, 特別講演「早期機能回復をめざした前方侵入 THA の現状」座長)
- 55) 第 44 回岐阜人工関節フォーラム(平成 27 年 9 月, 岐阜, 特別講演「特発性側腕章の病態と治療」座長)
- 56) Women's Health Forum in Gifu(平成 27 年 9 月, 岐阜, 講演 1「ある内科開業医(開業 30 年)の骨粗鬆症診療の実態」座長)
- 57) Women's Health Forum in Gifu(平成 27 年 9 月, 岐阜, 講演 2「骨粗鬆症の診方ー早期発見の為にー」座長)
- 58) Women's Health Forum in Gifu(平成 27 年 9 月, 岐阜, 講演 3「過活動膀胱～蓄尿・排尿のメカニズムと治療剤の選択～」座長)
- 59) 透析患者の QOL を考える会～骨代謝を考える～(平成 27 年 10 月, 岐阜, 特別講演「高齢者の骨粗鬆症・サルコペニアと治療の医療連携」演者)
- 60) 第 4 回三河骨粗鬆症研究会(平成 27 年 10 月, 愛知, 特別演題「脆弱性骨折の患者さんを減らすために」演者)
- 61) 平成 27 年度岐阜県臨床整形外科医会イベント(平成 27 年 10 月, 岐阜, 特別講演「骨と筋肉が危ない～ロコモを知っていますか?～」演者)
- 62) 第 42 回日本股関節学会学術集会(平成 27 年 10 月, 大阪, 教育研修講演「骨代謝と股関節疾患のかかわり」演者)
- 63) 第 125 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 27 年 10 月, 愛知, 宗春セミナー12「リスクマネジメントのための転倒・骨折防止」座長)
- 64) 岐阜骨疾患・骨代謝研究会(平成 27 年 10 月, 岐阜, 講演「リウマチ性頸椎疾患ー手術を中心にー」座長)
- 65) 岐阜骨疾患・骨代謝研究会(平成 27 年 10 月, 岐阜, 特別講演「腰椎疾患における診断と治療ー最近の話題も含めてー」座長)
- 66) 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 27 年 10 月, 富山, パネルディスカッション 2「新世代の OA 治療に向けて」座長)
- 67) 第 37 回御茶ノ水整形外科卒後研修セミナー(平成 27 年 11 月, 東京, 教育研修講演「高齢社会における人工股関節置換術・再置換術」演者)
- 68) 榛原医師会学術講演会(平成 27 年 11 月, 静岡, 特別講演「脆弱性骨折の患者さんを減らすために」演者)
- 69) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 11 月, 岐阜, 「リウマチの脊椎・関節手術～元気に自分らしく外へ出よう～」演者)
- 70) 地域ケア会議 骨粗鬆症講演会(平成 27 年 11 月, 岐阜, 特別講演「脆弱性骨折の患者さんを減らすために」演者)
- 71) もとす医師会臨床研究会(平成 27 年 11 月, 岐阜, 特別講演「高齢者の骨粗鬆症・サルコペニアと治療の病診連携」演者)
- 72) 岐阜地域医療連携セミナー(平成 27 年 11 月, 岐阜, 特別講演「多職種で取り組み骨粗鬆症治療～最新のガイドラインの話題を中心に～」座長)
- 73) モーラステープ・モーラルパップ発売記念講演会(平成 27 年 11 月, 岐阜, 講演「TDDS 開発の現状と将来展望」座長)
- 74) 運動器疾患の病診・診診連携を考える会 3rd(平成 27 年 12 月, 岐阜, 特別講演「高齢者骨折への対策～他科連携と地域連携～」演者)
- 75) 武儀医師会講演会(平成 27 年 12 月, 岐阜, 「高齢者の骨粗鬆症と整形外科手術」演者)
- 76) 第 26 回日本小児整形外科学会学術集会(平成 27 年 12 月, 岐阜, パネルディスカッション 4「小児整形での組織移植・再生医療」パネリスト)
- 77) 第 26 回日本小児整形外科学会学術集会(平成 27 年 12 月, 岐阜, シンポジウム 1「小児希少・難治疾患の現状と今後の取り組み」座長)
- 78) 骨粗鬆症リエゾンカンファレンス(平成 28 年 1 月, 岐阜, 講演 1「骨粗鬆症の病診連携について～薬剤選択を含めて」、講演 2「骨粗鬆症診断支援 DXA 法骨密度測定の依頼を容易にする医療連携システムの提案 加えて高齢者骨折予防戦略展開のお願い」座長)
- 79) みんなで考えよう骨転移 in 岐阜(平成 28 年 1 月, 岐阜, 特別講演「骨転移診療における整形外科医

- の役割」座長)
- 80) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 28 年 1 月, 岐阜, 特別講演「四肢骨折術後の慢性疼痛の病態と薬物療法」座長)
 - 81) 女性の骨粗鬆症を考える会(平成 28 年 2 月, 岐阜, 特別講演「転倒・骨折予防のためのロコモーショントレーニング」座長)
 - 82) 第 15 回久留米関節セミナー(平成 28 年 2 月, 久留米, 講演「成績不良例から学ぶ人工股関節置換術」演者)
 - 83) 第 11 回東海運動器フォーラム(平成 28 年 2 月, 名古屋, 「スポーツに伴う関節軟骨傷害の治療戦略」座長)
 - 84) 2015 年度 AMED6 事業合同成果報告会(平成 28 年 2 月, 東京, コンカレントセッション V 「特発性大腿骨頭壊死症に対する bFGF による骨頭圧潰阻止効果の多施設共同第 II 相医師主導治験」演者)
 - 85) 岐阜地区骨粗鬆症カンファレンス(平成 28 年 2 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症治療における多科連携のポイント」演者)
 - 86) 第 29 回日本軟骨代謝学会(平成 28 年 2 月, 広島, シンポジウム 1 「Whole joint disease としての変形性膝関節症」座長)
 - 87) 高山赤十字病院 第 5 回地域連携講演会(平成 28 年 2 月, 高山, 「地域医療での整形外科診療の在り方」演者)
 - 88) 第 3 回埼玉東部骨関連疾患セミナー(平成 28 年 2 月, 越谷, 特別講演「股関節外科医が知っておきたい骨代謝」演者)
 - 88) 岐阜脊椎関節炎研究会(平成 28 年 2 月, 岐阜, 一般演題「乾癬性関節炎における当院の連携」, 特別講演「乾癬性関節炎の診断と治療戦略について」座長)
 - 89) 第 46 回日本人工関節学会(平成 28 年 2 月, 大阪, 教育講演「日本人工関節登録制度」演者)
 - 90) GIFU Advanced Joint Seminar(平成 28 年 3 月, 岐阜, 特別講演「Ankle joint-preserving surgery-supramalleolar Osteotomy から plafond-plasty, Mortise-plasty osteotomy について現在までに分かっているコト」座長)
 - 91) 山形整形外科研究会股関節セミナー(第 14 回山形股関節セミナー)(平成 28 年 3 月, 特別講演「高齢社会における人工股関節置換術の論点」演者)
 - 92) 山梨県整形外科医会教育研修会(平成 28 年 3 月, 山梨, 特別講演「人工股関節再置換術の基礎と臨床」演者)
 - 93) ふるさと包括医療を考える会(平成 28 年 3 月, 岐阜, 特別講演「高齢者骨折予防での地域連携」演者)
 - 94) 骨関節フォーラム in 岐阜(平成 28 年 3 月, 岐阜, 特別講演「筋骨格系廃用ち疼痛管理の重要性」座長)
 - 95) 第 1 ぎふ脊椎髓病研究会(平成 28 年 3 月, 岐阜, 講演「神経障害性疼痛の治療と課題 特異な症状を呈した症例の報告」, 講演「見落とされてきた腰痛疾患～椎間孔狭窄と臀皮神経について～」座長)
 - 96) 第 126 回中部整形外科災害外科学会・学術集会(平成 28 年 4 月, 浜松, 教育研修講演「RA 薬物療法の進歩と手の外科治療」座長)
 - 97) 18th Exeter Hip Symposium(平成 28 年 4 月, 東京, 「大腿骨側 IBG に関する基礎実験」演者)
 - 98) 第 158 回下呂市医師会学術講演会(平成 28 年 4 月, 下呂, 特別講演「骨吸収抑制薬による骨粗鬆症治療」演者)
 - 99) 羽島郡メディカルセミナー(平成 28 年 4 月, 羽島, 特別講演「高齢者骨折予防での地域連携」演者)
 - 100) 岐阜県骨粗鬆症治療 病診連携を考える会(平成 28 年 4 月, 岐阜, 講演 1 「骨粗鬆症の病診連携について～薬剤選択を含めて～」, 講演 2 「骨粗鬆症診断支援 DXA 法骨密度測定依頼を容易にする医療連携システムの提案 加えて高齢者骨折予防戦略展開のお願い」座長)
 - 101) 第 89 回日本整形外科学会学術総会(平成 28 年 5 月, 横浜, ランチョンセミナー12 「OXINIUM ヘッド多施設共同大規模臨床試験」演者)
 - 102) 日本人工関節登録制度報告会(平成 28 年 5 月, 横浜, 「日本人工関節登録制度実施について」演者)
 - 103) 第 30 回西新宿整形外科研究会(平成 28 年 5 月, 新宿, 特別講演「高齢社会の人工股関節置換術・再置換術」演者)
 - 104) 第 89 回日本整形外科学会学術総会(平成 28 年 5 月, 横浜, English Workshop 「Basc Research」座長)
 - 105) 第 18 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 28 年 5 月, 岐阜, 講演「脊柱靭帯骨化症の最近の話題」座長)
 - 106) 第 53 回東海地区整形外科教育研修会(平成 28 年 6 月, 名古屋, 講演「変形性膝関節症の病態、画像

- と疼痛」座長)
- 107) 骨リモデリング研究会(平成 28 年 6 月, 東京, Lecture3「破骨細胞からみた骨リモデリング」座長)
- 108) フォーラム鹿島講演会(平成 28 年 6 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症治療薬の留意点」演者)
- 109) 第 2 回岐阜運動器骨折外傷治療懇話会(平成 28 年 6 月, 岐阜, 特別講演「上腕骨遠位部骨折の観血的治療－肘関節脱臼骨折を含めて－」座長)
- 110) 第 4 回西濃整形外科病診連携カンファレンス(平成 28 年 6 月, 大垣, 特別講演「現在の股関節外科における留意点」演者)
- 111) 整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 28 年 6 月, 岐阜, 座長)
- 112) 第 42 回日本骨折治療学会(平成 28 年 7 月, 東京, ショートトーク 21「骨盤、寛骨臼 1」, ショートトーク 22「骨盤、寛骨臼 2」座長)
- 113) 第 16 回藤田保健衛生大学整形外科教育研修会(平成 28 年 7 月, 名古屋, 講演「人工股関節置換術の成績向上のために」演者)
- 114) 岐阜県柔道整復師会講演会(平成 28 年 7 月, 岐阜, 「股関節症」演者)
- 115) 平成 28 年度第 4 回もとす薬剤師会講演会(平成 28 年 7 月, 瑞穂, 「骨粗鬆症薬の使い方と留意点」演者)
- 116) 岐阜骨疾患・骨代謝研究会(平成 28 年 7 月, 岐阜, 講演「骨粗鬆症の薬物治療～ビスホスホネート製剤を中心に～」, 特別講演「破骨細胞動態から RA・骨粗鬆症の病態と治療を考える」座長)
- 117) 不破郡整形外科病診連携の会(平成 28 年 8 月, 不破, 「岐阜県における整形外科診療での病診連携」演者)
- 118) 第 4 回 Gifu Joint Seminar(平成 28 年 8 月, 岐阜, 講演「変形性股関節症に対する股関節鏡手術の有用性」座長)
- 119) 第 16 回養老地域医療連携セミナー(平成 28 年 9 月, 養老, 講演「運動器疾患で寝たきりにならないために～患者指導と病診連携」演者)
- 120) 羽島地域連携骨粗鬆症セミナー(平成 28 年 9 月, 羽島, 特別講演「高齢者骨折予防での地域連携」演者)
- 121) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 28 年 9 月, 岐阜, 特別講演「整形外科における先端医用工学－腰痛、関節痛への応用－」座長)
- 122) 健康寿命と骨粗鬆症を考える会(平成 28 年 9 月, 岐阜, 特別講演「なぜ骨粗鬆症は早期かつ長期に治療が必要なのか> ー第 3 世代 SERM による骨質改善のロジックとエビデンスー」座長)
- 123) 第 127 回中部整形外科災害外科学会・学術集会(平成 28 年 9 月, 松本, 教育研修講演 5「整形外科領域の遺伝子診断」座長)
- 124) Chronic Pain & Bone Forum in 岐阜(平成 28 年 10 月, 岐阜, 教育講演「再骨折予防に向けた骨粗鬆症治療介入への取り組み」, 特別講演「脊椎靭帯骨化症に関する最近の研究と将来展望」座長)
- 125) 第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 28 年 10 月, 福岡, シンポジウム 1「骨・軟骨分化の制御機構招待講演 5 ヒアルロン酸－アグリカンネットワーク分解を介した軟骨破壊メカニズムと分子標的治療の可能性」座長)
- 126) 第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 28 年 10 月, 福岡, 教育研修講演 8「これまでの軟骨研究の進展とこれからの展望」, シンポジウム 7「特発性大腿骨壊死症に対する bFGF 含有ゼラチンハイドロゲルによる壊死骨再生治療の開発」演者)
- 127) The 60th Anniversary Congress of the Korean Orthopaedic Association & The 61st Regular General Assembly Incheon(平成 28 年 10 月, 韓国, Invited Lecture「Basic and Clinical studies of impaction bone grafting in revision THA」演者)
- 126) 岐阜地域医療連携セミナー(平成 28 年 10 月, 岐阜, 特別講演「地域包括ケアシステム下での骨粗鬆症治療－地域医療連携が鍵－」座長)
- 127) 第 43 回日本股関節学会学術集会(平成 28 年 11 月, 大阪, シンポジウム 1「ステロイド性大腿骨頭壊死症の新しい予防と治療」座長)
- 128) 第 43 回日本股関節学会学術集会(平成 28 年 11 月, 大阪, シンポジウム 4「人工股関節とイノベーションー過去、現在、未来 人工関節登録制度によるエビデンス構築」, シンポジウム 5「人工関節レジストリーの運用と活用 日本人工関節登録制度の運用」, 教育研修講演 7「股関節外科医が知っておくべきシリーズ 7 関節症の病態と診断法を理解するための関節の組織構造」演者)
- 129) 平成 28 年度岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座(平成 28 年 11 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症治療のこれまでとこれから」演者)
- 130) Okayama Orthopaedic Forefront #2(平成 28 年 11 月, 岡山, Special Lecture「高齢者の人工股関節

- 置換術・再置換術の留意点」演者)
- 131) Orthopedic Research Club(平成 28 年 11 月, 千葉, 講演 1「変形性関節症マウスモデルと非線形光イメージング技術を用いた関節軟骨定量化法の開発」, 講演 2「骨・軟骨イメージングのための 2 光子光シート顕微鏡の開発」座長)
- 132) 第 27 回日本小児整形外科学会学術集会(平成 28 年 12 月, 仙台, 明日の小児整形外科セミナー1「日本人工関節登録制度の現状」演者)
- 133) 平成 28 年度自賠責保険研修会(平成 28 年 12 月, 岐阜, 「運動器における軟部組織損傷」演者)
- 134) 大阪整形外科卒後研修セミナー(平成 29 年 1 月, 大阪, 特別講演「高齢者の骨と人工関節」演者)
- 135) 石巻市医師会学術講演会(平成 29 年 1 月, 宮城, 特別講演「骨粗鬆症治療の重要性と留意点」演者)
- 136) 岐阜脊椎関節炎研究会(平成 29 年 1 月, 岐阜, 特別講演「脊椎関節炎における生物学的製剤治療の位置づけについて」座長)
- 137) Osteoporosis Forum in Gifu(平成 29 年 1 月, 岐阜, 特別講演「CKD 効率合併を考慮した骨粗鬆症治療戦略-プラリアの有用性-」座長)
- 138) 整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 29 年 2 月, 岐阜, 講演「腰部脊柱管狭窄症-概念の成立・PAD との鑑別を含めて-」座長)
- 139) 2016 年度 AMED2 事業合同成果報告会(平成 29 年 2 月, 東京, 講演「特発性大腿骨頭壊死症における bFGF 含有ゼラチンハイドロゲルによる壊死骨再生治療の開発」演者)
- 140) 第 47 回日本人工関節学会(平成 29 年 2 月, 沖縄, アフタヌーンセミナー 骨粗鬆症患者における人工股関節術後の大腿骨近位部に対するプラリアの効果」座長)
- 141) 第 47 回日本人工関節学会(平成 29 年 2 月, 沖縄, 教育研修講演「人工関節登録制度とその活用」演者)
- 142) 岐阜県社会保険診療報酬請求書審査委員会学術講演会(平成 29 年 2 月, 岐阜, 講演「骨粗鬆症治療薬の使い方と問題点」演者)
- 143) 第 30 回日本軟骨代謝学会(平成 29 年 3 月, 京都, 英語セッション 3「軟骨変性」座長)
- 144) 第 47 回岐阜人工関節フォーラム(平成 29 年 3 月, 岐阜, 特別講演「人工肘関節置換術の進歩と展望」座長)
- 145) 骨・関節フォーラム in 岐阜(平成 29 年 3 月, 岐阜, 特別講演「肩関節挙上困難の疼痛管理の重要性」座長)
- 146) ぎふ脊椎脊髄病研究会(第 2 回)(平成 29 年 3 月, 岐阜, 特別講演「リウマチ性頸椎疾患の診断と治療」座長)
- 147) 金華山整形外科 Meeting2017(平成 29 年 3 月, 岐阜, 特別講演「腕神経しよ損傷の診断と治療」座長)
- 148) 国保関ヶ原病院健康講演会(平成 29 年 3 月, 岐阜, 整形外科の病気の話「関節の病気」演者)
- 149) Well-Aging Seminar～骨粗鬆症を考える～(平成 29 年 3 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症診療に関する最近の知見」座長)
- 150) 東海関節外科研究会(平成 29 年 4 月, 愛知, ショートレクチャー「人工股関節再置換術の考え方」演者)
- 151) 第 128 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 29 年 4 月, 兵庫, 特別講演「Prior Lumbar spinal arthrodesis increases prosthetic-related complications and revision surgery after primary total hip arthroplasty」座長)
- 152) 揖斐郡医師会学術講演会(平成 29 年 4 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症治療方針～ファーストチョイスとしてのプラリアの検討～」演者)
- 153) CHEF 20th Exeter Hip Symposium(平成 29 年 4 月, 東京, 「大腿骨側 IBG に関する基礎的実験」演者)
- 154) Chronic Pain Forum in 岐阜(平成 29 年 5 月, 岐阜, 特別講演「慢性腰痛症に対する新たな治療～デュロキセチンによる疼痛抑制効果～」座長)
- 155) 第 1 回みの健康講座ラリー(平成 29 年 5 月, 岐阜, 「骨折して寝たきりにならないため」演者)
- 156) 第 90 回日本整形外科学会学術総会(平成 29 年 5 月, 宮城, 一般演題「THA カップ 1」座長)
- 157) The 27th Korean-Japanese Combined Orthopaedic Symposium(平成 29 年 5 月, 韓国, 「Minimally invasive regeneration therapy using controlled release of cell growth factor for patients with early-stage osteonecrosis of the femoral head」演者)
- 158) The 27th Korean-Japanese Combined Orthopaedic Symposium(平成 29 年 5 月, 韓国, 「Symposium 1-preservation and new technology」 Symposium 2-Regeneration therapy and engineering」座

- 長)
- 159) 第 19 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 29 年 5 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症性脊椎疾患の診断と治療戦略」座長)
 - 160) 第 3 回 岐阜運動器骨折外傷治療懇話会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 特別講演「解放骨折の標準化を目指して: Japan Strategy の構築」座長)
 - 161) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 29 年 6 月, 岐阜, 「骨軟部腫瘍の診断治療の最新情報」座長)
 - 162) 第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(平成 29 年 6 月, 北海道, ランチョンセミナー「骨・軟骨再生医療の展望」演者)
 - 163) 骨脆弱性骨折の新たな治療を語る会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症の薬物療法に関する最新の話題」座長)
 - 164) 田原市医師会生涯教育研修会(平成 29 年 6 月, 愛知, 特別講演「肺塞栓症・下肢静脈血栓症予防と骨粗鬆症治療のファーストチョイス」演者)
 - 165) 第 35 回日本骨代謝学会学術集会(平成 29 年 7 月, 福岡, 口演 7 「軟骨形成・代謝(1)」座長)
 - 166) 第 8 回京整会大阪病診連携の会(平成 29 年 7 月, 大阪, 講演「大腿骨頭壊死症 up-to-date -疼痛と機能の改善の為に-」演者)
 - 167) 岐阜県保険医協会医科研究会(平成 29 年 8 月, 岐阜, 講演「整形外科医が苦悩する骨脆弱性と骨粗鬆症治療」演者)
 - 168) 公益社団法人岐阜県柔道整復師会講演会(平成 29 年 8 月, 岐阜, 講演「上肢末梢神経疾患の診断と治療」演者)
 - 169) 第 120 回信州整形外科懇談会(平成 29 年 8 月, 長野, 教育研修講演「高齢社会での人工股関節置換術の留意点」演者)
 - 170) プラリア適応追加記念講演会(平成 29 年 8 月, 岐阜, 特別講演「関節リウマチにおける Bone Management の新展開」座長)
 - 171) International Hip Society Closed Meeting(平成 29 年 9 月, イギリス, 「The current status of total hip arthroplasty in Japan on the base of the Japan Arthroplasty Register」演者)
 - 172) 第 5 回 Gifu Joint Seminar(平成 29 年 9 月, 岐阜, 一般演題「クリニックにおける OA 治療戦略」「TKA 周術期疼痛における薬物療法について」特別講演「脛骨プラトー骨折に対する関節鏡視下骨接合術の実際」座長)
 - 173) 第 129 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会(平成 29 年 10 月, 富山, 教育研修講演「小児股関節疾患の治療戦略」座長)
 - 174) 第 4 回岐阜骨疾患・骨代謝研究会(平成 29 年 10 月, 岐阜, 特別講演「ステロイド性骨粗鬆症の病態と管理」座長)
 - 175) 第 44 回日本股関節学会学術集会(平成 29 年 10 月, 東京, ランチョンセミナー「大腿骨近位部に着目した骨粗鬆症治療」教育研修講演「股関節のバイオメカニクス」演者)
 - 176) 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 29 年 10 月, 沖縄, シンポジウム 1 「関節軟骨の再生医療」座長)
 - 177) Smith&Nephew Japan Hip & Knee Forum 2017(平成 29 年 10 月, 福岡, Session II 「臼蓋カップデザイン&摺動面 摺動面材料-Oxinium ヘッド多施設共同大規模臨床試験」座長)
 - 178) 岐阜地域医療連携セミナー(平成 29 年 11 月, 岐阜, 「脆弱性骨折の Best Practice と他職種連携」座長)
 - 179) 第 8 回 Orthopedic Research Club(平成 29 年 11 月, 千葉, 「Transcription factor HIF-2a is expressed in superficial zone of articular cartilage, and contributes to joint homeostasis」 「骨形成促進剤と担持したナノシートによる広範囲骨欠損治療の検討」座長)
 - 180) 第 11 回骨・軟骨フロンティア(平成 29 年 11 月, 東京, 特別講演「特発性大腿骨頭壊死～up-to-date～」演者)
 - 181) 第 6 回岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座(平成 29 年 11 月, 岐阜, 講演「変形性関節症と疼痛治療」演者)
 - 182) 岐阜大学シティカレッジプログラム(平成 29 年 11 月, 岐阜, 講演「膝関節痛・股関節痛の知識と対処法」演者)
 - 183) タケキャブ WEB 講演会(平成 29 年 11 月, 岐阜, 「NSAIDs 投薬時の上部消化管障害マネジメント」座長)
 - 184) 第 28 回日本小児整形外科学会(平成 29 年 12 月, 東京, ランチョンセミナー 1 「運動器検診の概要」座長)

- 185) 第4回相模脊椎研究会(平成29年12月, 神奈川, 特別講演「脊椎・関節外科で整形外科医を悩ます脆弱性骨折」演者)

西本 裕 :

- 1) 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会(平成27年5月, 岐阜, 「スポーツ指導者に必要な医学的知識」演者)
- 2) 平成27年度岐阜県ドーピング防止研修会(平成27年6月, 岐阜, 「ドーピングを犯さないために」演者)
- 3) 日本体育協会公認指導員・上級指導員養成講習会(平成27年10月, 岐阜, 「ドーピング防止活動」演者)
- 4) 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会(平成28年6月, 岐阜, 「スポーツ指導者に必要な医学的知識」演者)
- 5) 岐阜県ドーピング防止研修会「ドーピングを犯さないために」(平成28年6月, 岐阜, 「ドーピングを犯さないために」演者)
- 6) 第55回岐阜県学校保健研究大会(平成28年10月, 岐阜, 記念講演「小中学校の運動器検診の現状と課題」演者)
- 7) 日本柔道整復師会第51回東海学術大会 岐阜大会(平成28年11月, 愛知, 特別講演「フレイルの予防・改善ー健康行動への働きかけー」演者)
- 8) 第59回岐阜県スポーツ医学研究会(平成29年1月, 岐阜, 「一般演題」座長)
- 9) 日本整形外科学会学術総会(平成29年5月, 仙台, 一般演題ポスター英語「Sports and others」座長)
- 10) 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会(平成29年6月3日, 岐阜, 「スポーツ指導者に必要な医学的知識」演者)
- 11) 岐阜県ドーピング防止研修会(平成29年7月1日, 岐阜, 「ドーピングを犯さないために」演者)

松本 和 :

- 1) 第43回岐阜人工関節フォーラム(平成27年3月, 岐阜, 特別講演「難治症例から学ぶ人工股関節置換術ーPrimary から Revision までー」座長)
- 2) もとす医師会臨床研修会(平成27年5月, 岐阜, 「日常診療での膝痛マネジメント」演者)
- 3) 第3回 Gifu Joint Seminar(平成27年7月, 岐阜, 講演1「肩領域における人工関節ー治療とリハビリテーションー」座長)
- 4) 第1回岐阜中央病院健康セミナーー元気な足腰のために「ロコモ」対策ー(平成27年8月, 岐阜, 「膝痛を治して伸ばそう、健康寿命」座長)
- 5) 岐阜大学シティーカレッジプログラム(平成27年11月, 岐阜, 「上手につきあう膝の痛み」演者)
- 6) 第26回日本小児整形外科学会学術集会(平成27年12月, 岐阜, パネルディスカッション9「多発性外骨腫症に対する前腕変形の治療」パネリスト)
- 7) 第127回中部日本整形外科学会災害外科学会(平成28年9月, 長野, Short talk3「TKA」座長)
- 8) Pain Forum in Gifu(平成28年10月, 岐阜, 座長)
- 9) 第31回日本整形外科学会基礎学術集会(平成28年10月, 福岡, 「一般ポスター36」座長)

平川明弘 :

- 1) 関節リウマチ市民講座(平成27年9月, 岐阜, 「関節リウマチと手術ー元気に自分らしく外へ出ようー」演者)
- 2) 第29回日本肘関節学会学術集会(平成29年2月, 東京, 「肘関節周囲悪性軟部腫瘍に対する液体窒素処理骨と遊離皮弁を用いた肘関節再建術の経験」演者)
- 3) 第60回日本手外科学会学術集会(平成29年4月, 東京, 糖尿病患者における手根管症候群の治療」演者)

瀧上伊織 :

- 1) 第43回岐阜人工関節フォーラム(平成27年3月, 岐阜, 特別講演「難治症例に学ぶ人工股関節置換

術—Primary から Revision まで—」座長)

- 2) 第 47 回岐阜人工関節フォーラム(平成 29 年 3 月, 岐阜, 一般演題 II 座長)
- 3) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 29 年 9 月, 岐阜, 特別講演「変形性股関節症の病態と治療に関する最近の話題」座長)
- 4) ネスプロンケーブルシステム(NCS)東海講習会(平成 29 年 11 月, 愛知, パネルディスカッション「当科におけるネスプロンケーブルの使用経験」演者)

岩井智守男 :

- 1) 第 1 回 Gifu Spine Seminar(平成 27 年 8 月, 岐阜, 招待講演「成人脊柱変形手術治療の新たな展開～周術期コントロールから LLIF を用いた矯正まで～」座長)
- 2) 健康フォーラム—腰痛と神経痛の治療最前線—(平成 27 年 10 月, 岐阜, 「足のしびれ! 神経痛の話」演者)
- 3) 岐阜骨疾患・骨代謝研究会(平成 27 年 10 月, 岐阜, 「骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術治療」演者)
- 4) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 11 月, 岐阜, 「リウマチの脊椎・関節手術～元気に自分らしく外へ出よう～」演者)
- 5) 第 3 回岐阜運動器骨折外傷治療懇話会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 「骨粗鬆症性仙骨骨折の小経験」演者)
- 6) 市民公開講座(平成 29 年 11 月, 岐阜, 「～腰痛と腰曲がりのお話～」演者)

永野昭仁

- 1) 第 85 回東海骨軟部腫瘍研究会(平成 28 年 10 月, 座長)
- 2) 第 128 回中部日本整形外科災害外科学会(平成 29 年 4 月, 兵庫, 「高齢者の原発性悪性骨腫瘍に対する治療 —全国骨腫瘍登録を用いた調査—」演者)
- 3) 第 90 回日本整形外科学会学術総会(平成 29 年 5 月, 宮城, 「我が国における 40 歳以上の原発性悪性骨腫瘍に対する治療成績—全国骨腫瘍登録データより—」演者)
- 4) 27th Korean - Japanese Combined Orthopaedic Symposium(平成 29 年 5 月, Holiday Inn Songdo, Incheon, Korea, 「Bone Sarcomas in Patients Over 40 Years of Age: Data From the Bone Tumor Registry of Japan」演者)
- 5) 第 101 回岐阜県整形外科集談会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 「伸長型腫瘍用人工関節ゆるみに対して Tibial turn-up を施行した 1 例」演者)
- 6) 第 50 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会(平成 29 年 7 月, 東京, 「我が国における中高齢者原発性悪性骨腫瘍に対する治療成績の年代別検討—全国骨腫瘍登録データより—」演者)
- 7) 第 50 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会(平成 29 年 7 月, 東京, 「ポスター演題 8 骨転移」座長)
- 8) The APEX Initiative for STS in Chubu Area(平成 29 年 9 月, 愛知, 「当科におけるエリプリンの使用経験」演者)
- 9) 岐阜サルコーマカンファレンス(平成 29 年 9 月, 岐阜, 「ガイドラインからみる悪性軟部腫瘍治療薬の位置づけ」演者)
- 10) 第 129 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 29 年 10 月, 富山, 「一般演題 6 症例報告 良性腫瘍」座長)

野澤 聡 :

- 1) 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術 (平成 29 年 4 月, 北海道, 「仙骨硬膜外ブロックの成功率を上げるための解剖学的考察」 「頸椎後方手術後に C5 麻痺を呈した患者の脊髄は術後 MRI axial 像にてブーメン状に形態変化している傾向がある」演者)
- 2) 第 90 回日本整形外科学会学術総会(平成 29 年 5 月, 宮城, 「仙骨硬膜外ブロックの成功率を上げるための解剖学的考察 - 仙骨三角は本当に正三角形を呈するのか?」演者)
- 3) 第 77 回岐阜臨床神経集談会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 座長)
- 4) 第 3 回岐阜 Spine Seminar (平成 29 年 8 月, 岐阜, 座長)
- 5) 市民公開講座 (平成 29 年 11 月, 岐阜, 「予防法と保存的治療のお話」演者)
- 6) 第 78 回岐阜臨床神経集談会 (平成 29 年 12 月, 岐阜, 「仙骨硬膜外ブロックの成功率を上げるための解剖学的考察 - 仙骨三角は本当に正三角形を呈するのか?」演者)

寺林伸夫

- 1) GIFU Advanced Joint seminar(平成 28 年 3 月, 岐阜, 症例検討会 座長)
- 2) 第 3 回岐阜スポーツ整形外科研究会(平成 28 年 9 月, 岐阜, 特別講演 座長)
- 3) 美濃学童野球健康管理セミナー(平成 29 年 1 月, 岐阜, 「野球少年の健康管理」 演者)
- 4) 運動器の 10 年 地区軟式野球連盟・指導者講習会(平成 29 年 2 月, 岐阜, 「成長期のスポーツ外傷・障害の予防」 演者)
- 5) 第 47 回 日本人工関節学会(平成 29 年 2 月, 沖縄, 「上腕骨近位端 4part 骨折に対して施行したりバー型人工肩関節置換術の治療経験」 演者)
- 6) 北勢整形外科懇話会(平成 29 年 3 月, 三重, 「肩腱板断裂の診断と治療」 演者)
- 7) 中濃整形外科研修会(平成 29 年 3 月, 岐阜, 「五十肩で終わらせない肩痛の診断と治療」 演者)
- 8) 岐阜整形外科卒後夏期セミナー(平成 29 年 7 月, 岐阜, 「地域医療における野球肘検診」 演者)
- 9) 岐阜スポーツ整形外科研究会(平成 29 年 9 月, 岐阜, 特別講演 座長)
- 10) 第 44 回 日本肩関節学会(平成 29 年 10 月, 東京, 「Evaluation of the effects of operative findings on preoperative Shoulder 36 V1.3 in arthroscopic rotator cuff repair」 演者)
- 11) 岐阜整形外科エコーセミナー(平成 29 年 11 月, 岐阜, 「運動器の痛みに対するエコー診療と治療」 演者)
- 12) スポーツ医科学サポート講習会(平成 29 年 11 月, 岐阜, 「野球肘の治療について」 演者)
- 13) 岐臨技研修会(平成 29 年 12 月, 岐阜, 「整形外科領域における関節エコーの有用性」 演者)

河村真吾

- 1) 金華山 整形外科 Meeting 2017(平成 29 年 3 月, 岐阜, 「多発性外骨腫に伴う前腕変形に対する骨切り術の治療経験」 演者)
- 2) 第 101 回岐阜県整形外科集談会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 「有鉤骨鉤骨折に対する経皮的 screw 固定術の治療経験」 演者)
- 3) 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 29 年 10 月, 沖縄, 「Tppp3 陽性腱鞘滑膜細胞は腱発生に寄与しうる」 演者)

宮川貴樹

- 1) 第 101 回岐阜整形外科集談会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 「Spitzzy 変法による白蓋形成術の寛骨白応力分布変化に対する有限要素法を用いた検討」 演者)
- 2) 第 44 回日本股関節学会学術集会(平成 29 年 10 月, 東京, 「Spitzzy 変法による白蓋形成術の寛骨白応力分布変化に対する有限要素法を用いた検討」 演者)
- 3) 第 8 回 Orthopedic Research Club(平成 29 年 11 月, 千葉, 「3D ポーラス白蓋コンポーネントにおける有限要素法解析を用いた検討」 演者)

川島健志

- 1) 第 7 回 Orthopedic Research Club(平成 28 年 11 月, 千葉, 関節軟骨でのヘパラン硫酸の役割 演者)
- 2) 第 23 回東海関節鏡研究会(平成 29 年 1 月, 愛知, 「肩鎖関節脱臼に対する鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術の治療経験」 演者)
- 3) 第 100 回岐阜県整形外科集談会(平成 29 年 2 月, 岐阜, 「肩鎖関節脱臼に対する Dog bone button を用いた鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術」 演者)
- 4) 第 44 回日本人工関節学会(平成 29 年 2 月, 沖縄, 「ファンクショナルブレースを用いて治療を行った人工骨頭置換術後の上腕骨インプラント周囲骨折の 1 例」 演者)
- 5) 第 101 回岐阜県整形外科集談会(平成 29 年 6 月, 岐阜, 「Extension block pinning を施行した母趾末節骨の長母趾伸筋腱附着部剥離骨折の 1 例」 演者)
- 6) 第 9 回 JOSKAS(平成 29 年 6 月, 北海道, 「肩鎖関節脱臼新鮮例に対する Dog Bone Button を用いた鏡視下手術の治療経験」 演者)
- 7) 第 4 回岐阜スポーツ整形外科研究会(平成 29 年 9 月, 岐阜, 「スポーツに起因した 第 1 肋骨疲労骨折の 3D-CT による検討」 演者)
- 8) 第 44 回日本肩関節学会(平成 29 年 10 月, 東京, 「第 1 肋骨疲労骨折の 3D-CT による検討」 演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 石丸大地：第125回中部日本整形外科災害外科学会奨励賞(平成27年度)
- 2) 西本 裕：岐阜県医師会審査功労賞(平成28年度)
- 3) 寺林伸夫：運動器の10年日本賞・奨励賞(平成29年度)
- 4) 河村真吾：平成29年度 藤原賞(最高 Cite Score 賞)Komura S, Semi K, Itakura F, Shibata H, Ohno T, Hotta A, Woltjen K, Yamamoto T, Akiyama H, Yamada Y. An EWS-FLI1-Induced Osteosarcoma Model Unveiled a Crucial Role of Impaired Osteogenic Differentiation on Osteosarcoma Development. Stem Cell Reports. 2016 Apr 12;6(4):592-606.

9. 社会活動

秋山治彦：

- 1) 日本人工関節登録制度データ解析運営委員(平成27年度)
- 2) 第27回日本整形外科学会専門医口頭試験委員(平成27年度)
- 3) 平成27年度科学研究費助成事業第1段審査委員(平成27年度)

西本 裕：

- 1) 岐阜県体育協会スポーツ診療所管理者(平成27年度)
- 2) 岐阜県スポーツ推進審議会委員(~現在)
- 3) 岐阜県体育協会 理事(平成27年度)
- 4) 岐阜県体育協会スポーツ医科学協議会委員(~現在)
- 5) 岐阜県スポーツドクター協議会理事(~現在)
- 6) 岐阜県社会保険診療報酬支払基金診療報酬請求審査委員会委員(~現在)
- 7) 岐阜労働局労災保険診療協議会委員(~現在)
- 8) 岐阜県国民健康保険等柔道整復療養費審査委員会委員(~現在)

瀧上伊織：

- 1) 愛知骨軟部組織移植振興財団評議員(平成27年度)

10. 報告書

なし

11. 報道

秋山治彦：股関節の骨再生 治療に光：岐阜新聞(2016年1月14日)

秋山治彦：大腿骨難病 治療確立へ：中日新聞(2016年1月14日)

秋山治彦：ロコモを知らう！岐阜編：中日新聞(2017年9月18日)

秋山治彦：整形外科医が苦悩する骨脆弱性と骨粗鬆症治療：第476号岐阜県保険医新聞(2017年10月10日)

西本 裕：児童生徒のけが、密に共有(研究室から大学はいま)：岐阜新聞(2017年8月29日)

12. 自己評価

評価

新入医局員が減少傾向にある中、各研究班の努力により、学会活動、論文発表などが概ね目標に達したと思われるが、より質の高い成果をあげるべく努力を続けたい。臨床業務においては、難易度の高い手術症例が増加しており、大学としての社会貢献を適切に果たしていると評価する。

現状の問題点及びその対応策

増加する患者数に対応するため、臨床業務の負担が増している一方で、決められた手術枠しか与えられないため、手術待機期間が長くなっている。また、大学院生の数が減少し、基礎研究の activity の低下が懸念される。より効率的な研究・診療体制を確立する必要がある。

今後の展望

益々整形外科医のニーズが高まる中で、徐々にではあるが新入医局員が増加しつつあり、今後の研究・診

療体制の充実が期待される。関節研究分野では、変形性関節症の病態の解析を進め、新規治療法の開発を目指す。大腿骨頭壊死症に対する医師主導型治験が岐阜大学で開始されその治療効果が期待される。

(7) 皮膚病態学分野

1. 研究の概要

1) 乾癬治療におけるバイオマーカーの確立

臨床研究として、乾癬に対する種々の内服療法、生物学的製剤治療、アフェレシスなど幅広く患者個々のQOLに配慮した治療法の確立を目指している。アフェレシス治療の中で、特に顆粒球・単球吸着療法(GMA)の奏効機序を検討している。さらに種々の治療法において二次無効の起こるメカニズム、最適な治療選択へのバイオマーカーの探索も行っている。水谷講師が中心になって学会や論文で成果を発表している。

2) 皮膚悪性腫瘍の抗がん剤耐性に関する研究と新しい治療法の開発

悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌をはじめとする皮膚悪性腫瘍の、特に治療抵抗性がんに対する、新しい治療法の開発をめざしている。スフィンゴ脂質由来生理活性脂質による抗がん剤耐性の調節に着目している。スフィンゴシン・キナーゼにより産生されたスフィンゴシン1-リン酸(S1P)は細胞増殖・生存に働く。抗がん剤耐性悪性黒色腫株に対してS1P受容体の機能的アンタゴニストと抗がん剤との併用効果を当科では既に報告している。さらにその詳細な機序について高橋臨床講師を中心に研究している。

3) アトピー性皮膚炎の皮膚角層バリア機能の解析

表皮角層でバリア機能を担っているセラミドに注目し、アトピー性皮膚炎において長鎖脂肪酸セラミドが減少していること、セラミド合成に関わる酵素の産生が抑制されていることを既に報告している。さらに、現在アトピー性皮膚炎モデルマウスを作製し、このようなセラミドの変化に関与するサイトカインについて加納准教授が中心となって研究を進めている。

4) アトピー性皮膚炎皮疹における非侵襲的方法によるサイトカインの網羅的解析

アトピー性皮膚炎患者の皮疹におけるサイトカインを非侵襲的に *in situ* で測定し、角層セラミド組成、バリア機能、サイトカインを解析するとともに、アトピー性皮膚炎の簡便な診断ツールとして「スキンプロッセティング」という手法確立のための基礎研究を東京大学と共同で行っている。この研究は種々のアトピー性皮膚炎治療薬の効果判定への応用も期待される。

5) 強皮症における $\alpha 2$ アンチプラスミン($\alpha 2AP$)の組織蓄積機構の解明

$\alpha 2AP$ が強皮症の線維化部位に蓄積していること、筋線維芽細胞への分化や細胞外基質の産生に関与していること、 $\alpha 2AP$ の中和抗体が線維化病態を緩和させることを同志社女子大との共同研究で周講師らが明らかにしており、さらに治療薬の開発に発展できるよう研究中である。

6) 皮膚創傷治癒過程における自然免疫系アダプタータンパク質の関与の検討

創傷治癒過程における1型インターフェロンの重要性が報告されている。そこで皮膚潰瘍のモデルを作製し、その再生過程での1型インターフェロン発現誘導性アダプタータンパク質の関与についての基礎研究を大学院生の服部先生が病態解析医学と共同で行っている。その成果を踏まえた治療の開発を推進していきたいと考えている。

2. 名簿

教授：	清島真理子	Mariko Seishima
准教授：	加納宏行	Hiroyuki Kanoh
講師：	周 円	En Shu
講師：	水谷陽子	Yoko Mizutani
助教：	高橋智子	Tomoko Takahashi
助教：	松山かなこ	Kanako Matsuyama
助教：	守屋智枝	Chie Moriya
医員：	伊藤 満	Mitsuru Itoh
医員：	服部有希	Yuki Hattori
医員：	後藤祐介	Yuusuke Gotoh
医員：	吉田健司	Kenji Yoshida
医員(パート)：	藤井麻美	Asami Fujii
医員(パート)：	川村美保	Miho Kawamura
医員(パート)：	奥村陽子	Yoko Okumura
医員(パート)：	太和田知里	Chisato Tawada
医員(パート)：	佐々木真喜子	Makiko Sasaki

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 清島真理子. 単純疱疹—私はこう治療している: 福井次矢, 高木 誠, 小室一成総編集. 今日の治療指針 2015年版, 東京: 医学書院; 2015年: 1164-1165.
- 2) 清島真理子. 血栓性静脈炎—紫斑, 血管炎: 渡辺晋一, 古川福実編集. 皮膚疾患最新の治療 2015-2016, 東京: 南江堂; 2015年: 66.
- 3) 清島真理子. 角化, 角化細胞, 角化不全, ナックルパッド, 胼胝腫, 毛孔性苔癬: 秋澤忠男他編集. 南山堂医学大辞典 第20版, 東京: 南山堂; 2015年: 343-344, 1811, 2260, 2433.
- 4) 清島真理子. 皮膚疾患—凍瘡(しもやけ) pernio, chilblains: 水口 雅, 市橋 光, 崎山 弘総編集. 今日の小児 治療指針第16版, 東京: 医学書院; 2015年: 836-837.
- 5) 清島真理子. 皮膚科医の基本—皮膚科の検査—皮膚科で行われる検査: 佐藤伸一, 藤本 学編集. 皮膚科研修ノート, 東京: 診断と治療社; 2016年: 88-90.
- 6) 清島真理子. 麻疹, 水痘, 風疹, 突発性発疹, 伝染性紅斑(リンゴ病): 田島知郎編集. ジェネラリストのための外来初療・処置ガイド, 東京: 医学書院; 2016年: 263-265.
- 7) 清島真理子. 内服薬—抗菌薬—どういふ場合が抗菌薬内服の適応か?: 宮地良樹編集. 皮膚科頻用薬のコツと落とし穴, 東京: 文光堂; 2016年: 214-216.
- 8) 清島真理子. 皮膚疾患の基礎知識—掌蹠膿疱症—どんな病気ですか?: 大谷道輝, 宮地良樹編集. マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術, 東京: メディカルレビュー社; 2016年: 298-301.
- 9) 清島真理子. ワーキング委員会—深部静脈血栓塞栓症予防用弾性ストッキング—間欠的空気圧迫装置: 日本褥瘡学会編集. ベストプラクティス医療関連機器圧迫創傷の予防と管理, 東京: 照林社; コーディネーターWG委員.
- 10) 清島真理子. 私はこう治療している—皮膚科疾患—掌蹠膿疱症: 福井次矢・高木 誠・小室一成総編集. 今日の治療指針 Today's Therapy 2017, 東京: 医学書院; 2017年: 1198-1199.
- 11) 清島真理子. 2. 血行性・物理的疾患: 14-23 うつ滞性症候群(皮膚炎, 潰瘍, 脂肪織炎): 猿田享男・北村惣一郎監修. 1336 専門家による私の治療 2017-18年度版, 東京: 日本医事新報社; 2017年: 977-978.
- 12) 清島真理子, 水谷陽子, 高橋智子, 松山かなこ, 渡邊恒夫, 松野寛子, 中山純里. しこりに潜むのは腫瘍だけじゃない! 一般外来から在宅まで: 清島真理子・渡邊恒夫編集. こんなに役立つ皮膚科エコー, 東京: メジカルビュー社; 2017年.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 清島真理子. C型肝炎と皮膚疾患—肥満症診療最前線: 宮崎 滋企画編集. Modern Physician, 新興医学出版社; 2015年; 2巻: 229.
- 2) 加納宏行. 高齢者褥瘡診療の特殊性, WOC Nursing; 2015年; 3巻: 35-42.
- 3) 加納宏行. 高齢者の皮膚特性を考慮した褥瘡診療, 日本褥瘡会誌; 2015年; 17巻: 92-98.
- 4) 加納宏行. 高齢者の皮膚特性を考慮した褥瘡診療, Seminaria Dermatologie; 2015年; 237巻: 4-9.
- 5) 高橋智子, 清島真理子. 実践—子どもの皮膚科外来—表皮母斑と表皮母斑症候群—, Monthly Book Derma; 2015年; 236号: 129-135.
- 6) 清島真理子. 難治性皮膚疾患における顆粒球・単球吸着療法の最適化, J Environ Dermatol Cutan Allergol; 2016年; 10巻: 6-11.
- 7) 清島真理子, 浅野裕子, 松川洋子. 非結核性抗酸菌皮膚感染症に対する抗菌薬選択法の検討, 岐阜県医師会医学雑誌; 2016年; 29巻: 49-53.
- 8) 清島真理子. GMA ドクターズインタビュー—膿疱性乾癬の新しい治療選択肢 GMA~外来治療で日常生活への影響を最小限に留める~, PS JAPAN; 2016年; 8巻: 12-13.
- 9) 清島真理子. 特集—高齢者の皮膚疾患—老年科医に知ってほしい“とっておき”の皮膚病変の診かた—悪性腫瘍でみられる皮膚病変: Geriatric Medicine; 2016年; 54巻: 1003-1007.
- 10) 加納宏行. 汗関連疾患診断治療のコツ—無汗症の診断・治療のコツ—新・皮膚科セミナー: 日本皮膚科学会雑誌; 2016年; 126巻: 1699-1707.
- 11) 加納宏行. 皮膚と老化—皮膚が老化するとどのような問題を生じるのか—, WOC Nursing; 2016年; 4巻: 50-58.
- 12) 清島真理子. 羅針盤—口腔粘膜の発する異常シグナルを見逃すな—: 清島真理子責任編集. Visual Dermatology, 東京: 秀潤社; 2017年; 16巻: 11.
- 13) 清島真理子. 総論—口腔粘膜のみかたをマスターしよう—: 清島真理子責任編集. Visual Dermatology, 東京: 秀潤社; 2017年; 16巻: 14-17.
- 14) 加納宏行, 丹羽宏文, 飯田一規, 小林一博. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな!—Part 3.炎症性疾患 Case 8.扁平苔癬: 清島真理子責任編集. Visual Dermatology, 東京: 秀潤社; 2017年; 16巻: 38-39.
- 15) 周 円. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな!—Part 1.自己免疫疾患 Case 1.粘膜型尋常性天疱瘡: 清島真理子責任編集. Visual Dermatology, 東京: 秀潤社; 2017年; 16巻: 18-20.

- 16) 水谷陽子. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな！—Part 3.炎症性疾患 Case 11.Behçet 病：清島真理子責任編集. *Visual Dermatology*, 東京：秀潤社；2017年；16巻：46—47.
- 17) 松山かなこ, 清島真理子. 形成外科医のための皮膚病理講座によるこそ一炎症性および変性疾患の病理組織診断—, *PEPARS*; 2017年；132巻：59—67.
- 18) 松山かなこ, 徳住正隆, 周 円, 加納宏行, 清島真理子. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな！—Part 2.薬剤性疾患 Case 6.Stevens-Johnson 症候群(SJS)/中毒性表皮壊死症(TEN)：清島真理子責任編集. *Visual Dermatology*, 東京：秀潤社；2017年；16巻：32—33
- 19) 高橋智子. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな！—Part 3.炎症性疾患 Case 10.開口部プラズマ細胞症：清島真理子責任編集. *Visual Dermatology*, 東京：秀潤社；2017年；16巻：44—45.
- 20) 守屋智枝, 周 円, 加納宏行, 清島真理子. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな！—Part 1.自己免疫疾患 Case 2.後天性表皮水疱症：清島真理子責任編集. *Visual Dermatology*, 東京：秀潤社；2017年；16巻：21—23.
- 21) 藤井麻美, 水谷陽子, 清島真理子, 石井文人, 橋本 隆. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな！—Part 1.自己免疫疾患 Case 3.抗 BP180 型粘膜類天疱瘡：清島真理子責任編集. *Visual Dermatology*, 東京：秀潤社；2017年；16巻：24—25.
- 22) 長谷川智仁, 中山麻美, 清島真理子. 口腔粘膜病変からわかる疾患 20—口腔内の異常シグナルを見逃すな！—Part 4.感染症 Case 15.ステロイド内服中の口腔粘膜カンジタ症：清島真理子責任編集. *Visual Dermatology*, 東京：秀潤社；2017年；16巻：54—55.
- 23) 坂野喜子, 清島真理子. スフィンゴ脂質代謝と癌の分子標的治療薬. *Journal of the Society of Japanese Women Scientists*, 東京：日本女性科学者の会；2017年；17巻：19—28.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 守屋智枝, 鈴木優香, 澁谷佳直, 周 円, 加納宏行, 清島真理子, 上村晋也. 中毒性表皮壊死症—重篤な消化管出血および腎前性腎不全を伴った症例, *皮膚病診療* 2015年；37巻：665—668.
- 2) 水野雄貴, 佐藤三佳, 周 円, 加納宏行, 黒部拓也, 濱口儒人, 清島真理子. 腸管囊胞様気腫症を合併した抗 U3 RNP 抗体陽性びまん性皮膚硬化型全身性強皮症の1例, *皮膚科の臨床* 2015年；57巻：11—14.
- 3) 伊藤 満, 加藤元一, 周 円, 加納宏行, 清島真理子. ハイドロキシウレア投与中に発症した皮膚潰瘍, *皮膚科の臨床* 2015年；57巻：537—541.
- 4) 伊藤 満, 加藤元一, 周 円, 加納宏行, 北川順一, 宮崎龍彦, 谷内江明宏, 清島真理子. $\gamma\delta$ T 細胞に EB ウイルスの感染がみられた種痘様水疱症, *皮膚科の臨床* 2015年；57巻：1931—1935.
- 5) 豊吉沙耶香, 奥村陽子, 北川順一, 宮崎龍彦, 清島真理子. 皮膚症状から診断に至った全身性アミロイドーシス, *皮膚科の臨床* 2015年；57巻：253—256.
- 6) 鳥澤祐子, 大瀧博文, 米玉利準, 宮崎 崇, 清島真理子. *Microsporum gypsum* による体部白癬の1例, *皮膚科の臨床* 2015年；57巻：1620—1621.
- 7) 花村拓哉, 奥村陽子, 周 円, 加納宏行, 清島真理子, 老田実可子, 森 一郎. サイトメガロウイルス感染症に伴った皮膚潰瘍の1例, *皮膚科の臨床* 2015年；57巻：394—397.
- 8) 小林一博, 藤澤智美, 酒々井夏子, 齊郷智恵美, 鬼頭勇輔, 廣瀬善信, 原 明, 清島真理子, 宮崎龍彦. Thymoma associated graft-versus-host like disease の1例, *診断病理* 2015年；32巻：18—21.
- 9) 松山かなこ, 徳住正隆, 加藤元一, 周 円, 加納宏行, 村上一晃, 宮崎龍彦, 清島真理子. In-transit metastasis を来した頭部皮膚有棘細胞癌の1例, *Skin Cancer* 2015年；30巻：198—202.
- 10) 守屋智枝, 周 円, 加納宏行, 小森聡子, 橋本 隆, 石井文人, 清島真理子. 糖尿病治療薬による類天疱瘡型薬疹を疑った症例, *皮膚病診療* 2016年；38巻：1003—1006.
- 11) 水野雄貴, 伊藤 満, 周 円, 中山麻美, 山内雅裕, 石井則久, 清島真理子. 滞日東ティモール人にみられた多菌型ハンセン病の1例, *皮膚科の臨床* 2016年；58巻：2027—2031.
- 12) 伊藤 満, 水谷陽子, 中山麻美, 米玉利 準, 太田浩敏, 清島真理子. 動物からの感染が考えられた体部白癬の4例, *皮膚科の臨床* 2016年；58巻：649—654.
- 13) 伊藤 満, 加藤元一, 周 円, 加納宏行, 清島真理子. 筋炎症状にガンマグロブリン大量静注療法が著効した混合性結合組織病の1例, *皮膚科の臨床* 2016年；58巻：1418—1422.
- 14) 伊藤 満, 安達由祐子, 周 円, 加納宏行, 清島真理子. 薬剤性過敏症候群 2例における TARC/CCL17 値の検討, *皮膚科の臨床* 2016年；58巻：321—326.
- 15) 伊藤 満, 小牧佳世, 清島真理子. 化学療法中に発症したヒトパルボウイルス B19 感染症, *皮膚病診療* 2016年；38巻：275—278.
- 16) 長谷川智仁, 高橋智子, 岡野智美, 加納宏行, 藤広満智子, 前田 学, 鹿野由紀子, 可知久代, 渡邊敦子, 角坂照貴, 清島真理子. 岐阜県内8医療機関で経験したマダニ刺咬症 94例の臨床的検討, *日本皮膚科学会雑誌* 2016年；126巻：2095—2102.
- 17) 長谷川智仁, 松山かなこ, 水野雄貴, 守屋智枝, 徳住正隆, 加藤元一, 周 円, 清島真理子. 岐阜大学皮膚科で治療した血管肉腫 15例の臨床的検討, *臨床皮膚科* 2016年；70巻：903—907.
- 18) 長谷川智仁, 水野雄貴, 守屋智枝, 松山かなこ, 徳住正隆, 岡野智美, 周 円, 清島真理子. 円形脱毛症に対するステロイドミニパルス療法の効果の検討, *皮膚科の臨床* 2016年；58巻：1969—1972.

- 19) 丹羽宏文, 水谷陽子, 佐藤三佳, 宮崎龍彦, 清島真理子. アロプリノールが著効した後天性反応性穿孔性膠原線維症の1例, 皮膚科の臨床 2016年; 58巻: 1989-1992.
- 20) 服部有希, 高橋智子, 大野康, 木村暁夫, 清島真理子. 多彩な神経症状を生じたサルコイドーシスの1例, 皮膚科の臨床 2016年; 58巻: 1993-1996.
- 21) 丹羽宏文, 高橋智子, 松山かなこ, 周円, 平川明弘, 川島啓佑, 宮崎龍彦, 清島真理子. 右手背に発症した mataplastic carcinoma (carcinosarcoma) の1例, Skin Cancer 2016年; 31巻: 261-267.
- 22) 松山かなこ, 周円, 加納宏行, 田中勝, 清島真理子. 長期間にわたり経過観察した爪部 Malignant melanoma in situ の1例, Skin Cancer 2016年; 31巻: 249-254.
- 23) 水野雄貴, 松山かなこ, 高橋智子, 周円, 菅野宏昭, 望月清文, 清島真理子. ニボルマブ投与中に間質性腎炎を合併した原発不明悪性黒色腫の1例, 皮膚科の臨床 2017年; 59巻: 1975-1978.
- 24) 伊藤満, 大橋優文, 高木肇, 守屋智枝, 松山かなこ, 周円, 清島真理子. 小児 Spitz 母斑 19例の臨的検討, 日本小児皮膚科学会誌 2017年; 36巻: 43-47.
- 25) 伊藤満, 松山かなこ, 周円, 加納宏行, 宮崎龍彦, 二宮空暢, 清島真理子. びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫を合併した Muir-Torre 症候群の1例, 皮膚科の臨床 2017年; 59巻: 487-491.
- 26) 伊藤満, 齋藤真理子, 奥村陽子, 清島真理子. ステロイドと DDS の併用が有効であった肉芽腫性口唇炎, 皮膚病診療 2017年; 39巻: 1085-1088.
- 27) 藤井麻美, 徳住正隆, 守屋智枝, 周円, 加納宏行, 宮崎龍彦, 福本瞳, 片野晴隆, 清島真理子. 有棘細胞癌の切除断端に発症した Merkel 細胞癌の1例, 臨床皮膚科 2017年; 71巻: 766-771.
- 28) 丹羽宏文, 松山かなこ, 高橋智子, 周円, 加納宏行, 宮崎龍彦, 大野康, 清島真理子. 皮膚症状から診断に至ったサルコイド血管炎の1例, 皮膚科の臨床 2017年; 59巻: 583-586.
- 29) 服部有希, 高橋智子, 田中領, 清島真理子. メトトレキサート内服後に生じた IgA 血管炎の1例, 皮膚科の臨床 2017年; 59巻: 545-548.

原著 (欧文)

- 1) Kanoh H, Shu E, Ichiki Y, Seishima M. Localized scleroderma presenting as port-wine stains: report of two cases and a literature review. Acta Derm Venereol. 2015;95:1003-1004. CS 1.58
- 2) Shu E, Kanoh H, Kito Y, Seishima M. A case of Felty's syndrome associated with skin ulcers and extranodal NK/T-cell lymphoma. Acta Derm Venereol. 2015;95:754-755. CS 1.58
- 3) Fujisawa T, Suzuki S, Mizutani Y, Doi T, Yoshida S, Ogura S, Seishima M. Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for generalized pustular psoriasis: therapeutic outcomes in three refractory patients. Ther Apher Dial. 2015;19:336-341. CS 1.34
- 4) Sato M, Mizuno Y, Matsuyama K, Shu E, Kanoh H, Suwa T, Seishima M. Drug-induced hypersensitivity syndrome followed by subacute thyroiditis. Case Rep Dermatol 2015;7:161-165. CS 0.82
- 5) Tokuzumi M, Fujisawa T, Shu E, Kanoh H, Saigo C, Miyazaki T, Hamaguchi Y, Seishima M. Anti-SRP antibody-positive myopathy with universal alopecia and multiple vitiligo. Acta Derm Venereol. 2015;95:497-498. CS 1.58
- 6) Adachi Y, Mizutani Y, Shu E, Kanoh H, Miyazaki T, Seishima M. Eosinophilic fasciitis associated with myositis. Case Rep Dermatol. 2015;7:79-83. CS 0.82
- 7) Takahashi T, Fujisawa T, Kimura M, Ohnishi H, Seishima M. Familial Mediterranean fever variant with repeated atypical skin eruptions. J Dermatol. 2015;42:903-905. CS 0.88
- 8) Mizuno Y, Kato G, Shu E, Ohnishi H, Fukao T, Ohara O, Fukumoto H, Katano H, Seishima M. Merkel cell polyomavirus-positive Merkel cell carcinoma in a patient with epidermodysplasia verruciformis. Acta Derm Venereol. 2015;95:98-99. CS 1.58
- 9) Okamura K, Abe Y, Fukai K, Tsuruta D, Suga Y, Nakamura M, Funasaka Y, Oka M, Suzuki N, Wataya-Kaneda M, Seishima M, Hozumi Y, Kawaguchi M, Suzuki T. Mutation analyses of patients with dyschromatosis symmetrica hereditaria: Ten novel mutations of the ADAR1 gene. J Dermatol Sci. 2015;79:88-90. CS 2.44
- 10) Tada S, Watanabe T, Suzuki C, Nohisa Y, Shinoda K, Furuta N, Ito H, Okumura Y, Shu E, Seishima M. Sonographic findings of subcutaneous sarcoidosis in 3 cases. J Ultrasound Med 2015;34:1485-1488. CS 1.59
- 11) Kanoh H, Banno Y, Nakamura M, Seishima M. Contact allergy to liquorice flavonoids: Analysis using liquid chromatography-mass spectrometry. Contact Dermatitis. 2016;74:191-192. CS 2.85
- 12) Kanno Y, Shu E, Kanoh H, Seishima M. The anti-fibrotic effect of α 2AP neutralization in systemic sclerosis dermal fibroblasts and mouse models of systemic sclerosis. J Invest Dermatol. 2016;136:762-769. CS 4.01
- 13) Matsuno H, Watanabe T, Tada S, Sekine A, Nohisa Y, Shinoda K, Furuta N, Ito H, Shu E, Seishima M. Sonographic detection of subcutaneous foreign bodies in 3 cases. Acta Dermatovenerol Croat. 2016;24:299-302. CS 0.47
- 14) Mizutani Y, Ito M, Fujisawa T, Takahashi T, Seishima M. Acquired palmoplantar keratoderma associated with hypothyroidism. J Dermatol. 2016;43:1246-1247. CS 0.88
- 15) Adachi Y, Moriya C, Fujisawa T, Shu E, Kanoh H, Nakayama A, Yonetamari J, Seishima M. Recurrent superficial cellulitis-like erythema associated with *Helicobacter cinaedi* bacteremia. J Dermatol. 2016;43:844-846. CS 0.88
- 16) Takahashi T, Hata M, Iwata H, Seishima M. Cutaneous B cell pseudolymphoma in a psoriatic patient

- treated with cyclosporine. *Acta Derm Venereol.* 2016;96:824-825. CS 1.58
- 17) Takahashi T, Mizutani Y, Ito M, Nakano H, Sawamura D, Seishima M. Dystrophic epidermolysis bullosa pruriginosa successfully treated with immunosuppressants. *J Dermatol.* 2016;43:1391-1392. CS 0.88
- 18) Kanno Y, Shu E, Kanoh H, Matsuda A, Seishima M. α 2AP regulates vascular alteration by inhibiting VEGF signaling in systemic sclerosis: the roles of α 2AP in vascular dysfunction in systemic sclerosis. *Arthritis Res Ther.* 2017;19:22. CS 3.65
- 19) Shu E, Kanoh H, Murakami A, Seishima M. Potential inhibition of development of rapidly progressive interstitial lung disease by prompt and sufficient immunosuppressive treatment in patients with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis. *J Dermatol.* 2017;44:e91-e92. CS 1.02
- 20) Mizutani Y, Okano T, Takahashi T, Ohnishi H, Ohara O, Sano A, Seishima M. Pyoderma gangrenosum, acne and suppurative hidradenitis syndrome treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresis. *Acta Derm Venereol.* 2017;97:275-276. CS 1.59
- 21) Matsuyama K, Mizutani Y, Takahashi T, Shu E, Kanoh H, Miyazaki T, Seishima M. Enhanced dendritic cells and regulatory T cells in the dermis of porokeratosis. *Arch Dermatol Res.* 2017;309:749-756. CS 2.37
- 22) Kanno H, Ishida K, Yamada W, Nishida T, Takahashi N, Mochizuki K, Mizuno Y, Matsuyama K, Takahashi T, Seishima M. Uveitis induced by programmed cell death protein 1 inhibitor therapy with nivolumab in metastatic melanoma patient. *J Infect Chemotherapy.* 2017;23:774-777. CS 1.73
- 23) Fujii A, Matsuyama K, Mizutani Y, Kanoh H, Nakano H, Seishima M. Multiple familial trichoepithelioma with a novel mutation of the CYLD gene. *J Dermatol.* 2017;44:e228-e229. CS 1.02
- 24) Fujii A, Mizutani Y, Hattori Y, Takahashi T, Ohnishi H, Yoshida S, Seishima M. Sweet's syndrome successfully treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresis. *Case Rep Dermatol.* 2017;22:13-18. CS 0.73
- 25) Hattori Y, Takahashi T, Seishima M. Bullous pemphigoid successfully treated with a combination therapy of plasmapheresis followed by intravenous high dose immunoglobulin. *Ther Apher Dial.* 2017; 21:421-423. CS 1.14
- 26) Hattori Y, Matsuyama K, Shu E, Kanoh H, Seishima M. Symmetrical drug-related intertriginous and flexural exanthema possibly due to thiamine disulfide. *J Dermatol.* 2017;44:e115-e116. CS 1.02

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表：清島真理子；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：悪性黒色腫における生理活性脂質の抗がん剤耐性調節機序の解明；平成 26 年度；650 千円
- 2) 研究代表：清島真理子；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：悪性黒色腫の抗がん剤耐性におけるスフィンゴ脂質代謝の関与と創薬研究；平成 27-29 年度；4,940 千円(2,470 千円；1,820 千円；650 千円)
- 3) 研究代表：清島真理子；科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」：ローヤルゼリータンパク質のアレルゲン性に関する基礎的研究；平成 27 年度；1,000 千円
- 4) 研究代表：加納宏行；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：炎症性皮膚疾患における新しい角層バリア機構の解明とその制御；平成 26-28 年度；4,940 千円(1,820 千円；1,820 千円；1,300 千円)
- 5) 研究代表：加納宏行；平成 27 年度岐阜大学大学院医学系研究科臨床研究推進支援経費：炎症性皮膚疾患における新しい角層バリア機構の解明とその制御；平成 27 年度；400 千円
- 6) 研究代表者：水谷陽子，共同研究者：藤澤智美；平成 27 年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」：掌蹠角化症における各層バリア機能異常の解明；平成 27 年度；1,000 千円
- 7) 研究代表：藤澤智美；文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)：好中球性皮膚症に対する顆粒球吸着療法の奏効機序の解明；平成 26 年度；1,170 千円
- 8) 研究代表：藤澤智美；平成 26 年度岐阜大学大学院医学系研究科長・医学部長裁量経費：乾癬における血管内皮増殖因子産生機序の解明；平成 26 年度；1,300 千円
- 9) 研究代表：藤澤智美；文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)：尋常性乾癬における角層バリア機能異常の解明とその制御；平成 27-29 年度；4,030 千円(2,080 千円；1,300 千円；650 千円)
- 10) 研究代表：藤澤智美；平成 27 年度岐阜大学大学院医学系研究科長・医学部長裁量経費：乾癬病態におけるアディポカインの役割；平成 27 年度；400 千円
- 11) 研究代表：清島真理子；ノバルティスファーマ研究助成：炎症性皮膚疾患における角層バリアとその制御機構の解明；平成 28 年度；500 千円

- 12) 研究代表：加納宏行；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：アトピー性皮膚炎の皮膚サイトカイン環境の網羅的解析；平成 29-31 年度；4,550 千円(平成 29 年度 2,340 千円)

2) 受託研究

- 1) 清島真理子：(特定使用成績調査(多発筋炎・皮膚筋炎))献血ヴェノグロブリン I H5% 静注：平成 23-28 年度；97,200 円：ベネシス
- 2) 清島真理子：(特定使用成績調査(全例))ステララ皮下注 45mg シリンジ：平成 23-28 年度；378,000 円：ヤンセンファーマ
- 3) 清島真理子：(第 3 相臨床試験) 中等症から重症の日本人乾癬患者を対象とした LY2439821 の有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検長期投与試験：平成 24-28 年度；880,170；日本イーライリリー
- 4) 清島真理子：(使用成績調査)アダカラム(膿疱性乾癬)(全数調査)：平成 24-28 年度；64,800 円：JIMRO
- 5) 清島真理子：(医療機器臨床試験)G-1 の関節症性乾癬患者を対象とした多施設共同試験：平成 26-27 年度；168,480 円：JIMRO
- 6) 清島真理子：(使用成績調査)サムチレール内用懸濁液 15% 使用成績調査(全例調査)：平成 25-29 年度；168 千円：グラクソ・スミスクライン
- 7) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬(尋常性乾癬及び関節症性乾癬を含む)患者を対象とした Tildrakizumab (SCH 900222/MK-3222) 皮下投与の有効性及び安全性/忍容性を評価する 64 週間、無作為化、プラセボ対照、並行群間、第Ⅲ相試験、及び長期安全性延長試験：平成 25-31 年度；1,768,200 円：MSD
- 8) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)KHK4827 臨床試験(局面型皮疹を有する乾癬(尋常性乾癬、関節症性乾癬)患者、膿疱性乾癬(汎発型)患者及び乾癬性紅皮症患者を対象とした継続長期投与試験)：平成 25-28 年度；454,896 円：協和発酵キリン
- 9) 清島真理子：(使用成績調査)エムラクリーム使用成績調査：平成 26-28 年度；304,709 円：佐藤製薬
- 10) 清島真理子：(特定使用成績調査)プログラフカプセル 0.5mg、1mg 多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎患者に対する長期特定使用成績調査：平成 26-30 年度；194,400 円：アステラス製薬
- 11) 清島真理子：(使用成績調査)オブジーボ点滴静注 使用成績調査(全例調査)；平成 26-30 年度；864 千円：小野薬品工業
- 12) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)等症から重症の局面型乾癬患者を対象とした CNTO1959 (Guselkumab)の有効性及び安全性を評価する多施設共同、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相試験：平成 26-30 年度；3,664,440 円：ヤンセンファーマ
- 13) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)膿疱性乾癬患者又は乾癬性紅皮症患者を対象とした CNTO 1959 (Guselkumab)の有効性及び安全性を評価する多施設共同、オープンラベル：平成 27-30 年；505,440 円：ヤンセンファーマ
- 14) 清島真理子：(使用成績調査)献血グロベニン-Ⅰ 静注用：平成 26-29 年度；21,600 円：日本製薬
- 15) 清島真理子：(使用成績調査)クレナフィン爪外用液 10%：平成 27-30 年度；172,800 円：科研製薬
- 16) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)中等症から重症のアトピー性皮膚炎成人患者に対する Dupilumab 単剤療法の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相検証的試験：平成 27 年度；777,600 円：サノフィ
- 17) 清島真理子：(特定使用成績調査(全例調査))ゼルボラフ錠 240mg：平成 27-31 年度；194,400 円：中外製薬
- 18) 清島真理子：(特定使用成績調査)ヒュミラ皮下注 40mg シリンジ 0.8mL 特定使用成績調査-賃金労働就労に従事する関節症性乾癬患者を対象とした WPAI 調査-：平成 27-28 年度；86,400 円：アヴィ合同
- 19) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)アトピー性皮膚炎患者を対象とした Dupilumab の非盲検試験：平成 27-29 年度；388,800 円：サノフィ
- 20) 清島真理子：(特定使用成績調査)ペグイントロン皮下注用特定使用成績調査(悪性黒色腫：長期使用の患者における調査)(全例調査)：平成 27-28 年度；162 千円：MSD
- 21) 清島真理子：(副作用報告)セレコックス錠 安全管理情報詳細調査：平成 27 年度；21,600 円：アステラス製薬
- 22) 清島真理子：(特定使用成績調査)ヤーボイ点滴静注液 50mg 特定使用成績調査(全例)根治切除不能な悪性黒色腫：平成 27-31 年度；324 千円：小野薬品工業
- 23) 清島真理子：(特定使用成績調査)インフリキシマブ BS 点滴静注用 100mg「NK」乾癬を対象とした長期の特定使用成績調査：平成 27-30 年度；172,800 円：日本化薬

- 24) 清島真理子：(副作用報告)レミケードの妊婦等への薬物暴露に関する調査票、および妊婦等への薬物暴露に関する調査票：平成 28 年度；43,200 円：田辺三菱製薬
- 25) 清島真理子：(使用成績調査)尋常性乾癬及び関節症性乾癬患者におけるコセンティクス皮下注投与時の長期安全性及び有効性を検討する特定使用成績調査：平成 28-29 年度；777,600 円：マルホ
- 26) 清島真理子：(使用成績調査)プラケニル錠 200mg 使用成績調査：平成 28-31 年度；540 千円：サノフィ
- 27) 清島真理子：(使用成績調査)献血グロベニン-I 静注用 水疱性類天疱瘡 使用成績調査：平成 28-30 年度；64,800 円：日本製薬
- 28) 加納宏行：(使用成績調査)トラクリア錠 62.5mg 特定使用成績調査：平成 28-32 年度；388,800 円：アクテリオン
- 29) 清島真理子：(第 2 相臨床試験)中等症から重症の局面型皮疹を対象とした LY3074828 の多施設共同無作為化並行群間プラセボ対照第 II 相試験：平成 28-31 年度；984,960 円：日本イーライリリー
- 30) 清島真理子：(第 2.3 相臨床試験)中等症～重症の慢性局面型乾癬日本人患者を対象とした BI 655066(risankizumab)とプラセボの比較試験：平成 28-31 年度；2,391,120 円：日本ベーリンガーインゲルハイム
- 31) 清島真理子：(第 2.3 相臨床試験)日本人乾癬患者を対象としたセルトリズマブ ペゴル(CDP870)の第 II/III 相試験：平成 28-31 年度；1,995,840 円：ユーシービージャパン
- 32) 清島真理子：(特定使用成績調査(全例))：タフィンラー®カプセル/メキニスト®錠特定使用成績調査：平成 28-32 年度；92,664 円：ノバルティスファーマ
- 33) 清島真理子：(特定使用成績調査(全例))：キイトルーダ点滴静注使用成績調査(悪性黒色腫)：平成 29 年度；172,800 円：MSD
- 34) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)レオファーマ株式会社によるアトピー性皮膚炎を対象とした tralokinumab の第 III 相臨床試験：平成 29-33 年度；216,000 円：レオファーマ
- 35) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)中等症から重症のアトピー性皮膚炎患者を対象としたバリシチニブの有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照第 III 相試験：平成 29-31 年度；216,000 円：日本イーライリリー
- 36) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)nemolizumab のアトピー性皮膚炎に対する第 III 相試験-比較/長期継続投与試験：平成 29-33 年度；216,000 円：マルホ
- 37) 清島真理子：(第 3 相臨床試験)アトピー性皮膚炎患者を対象としたバリシチニブの長期安全性及び有効性を評価する多施設共同二重盲検第 3 相試験：平成 29-31 年度；216,000 円：日本イーライリリー
- 38) 水谷陽子：ルミセフ皮下注 210mg シリンジ特定使用成績調査「長期使用に関する調査」：平成 28-32 年度；1,853,280 円：協和発酵キリン

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

清島真理子：

- 1) 日本医真菌学会評議員(～現在)
- 2) 日本研究皮膚科学会評議員(～現在)
- 3) 日本皮膚科学会中部支部評議員(～現在)
- 4) 日本皮膚科学会専門医資格認定委員会委員(～現在)
- 5) 日本乾癬学会評議員(～現在)
- 6) 日本皮膚悪性腫瘍学会評議員(～現在)
- 7) 日本皮膚免疫・アレルギー学会評議員(～現在)
- 8) 日本アフェレンス学会評議員(～現在)
- 9) 日本褥瘡学会評議員(平成 29 年 5 月～現在)

- 10) 日本褥瘡学会中部支部評議員(～現在)
- 11) 日本皮膚病理組織学会理事(～現在)
- 12) 日本皮膚科学会血管炎・血管障害ガイドライン委員会改訂委員(～現在)

加納宏行：

- 1) 日本研究皮膚科学会評議員(～現在)
- 2) 日本褥瘡学会評議員(～現在)
- 3) 日本皮膚科学会創傷・熱傷ガイドライン委員会改訂委員(～現在)
- 4) 日本褥瘡学会教育委員会ガイドライン策定作業部会ガイドライン改訂委員(～現在)

周 円：

- 1) 日本皮膚科学会東海地方会評議員(～平成 29 年 8 月)

水谷陽子：

- 1) 日本皮膚科学会東海地方会評議員(平成 29 年 9 月～現在)

2) 学会開催

清島真理子：

- 1) 第 272 回日本皮膚科学会東海地方会(平成 27 年 6 月, 名古屋)

3) 学術雑誌

加納宏行：

- 1) 日本褥瘡学会誌；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

清島真理子：

- 1) 第 114 回日本皮膚科学会総会(平成 27 年 5 月, 横浜, 教育講演「指導医講習会ー皮膚科専門医かくあるべし」パネリスト)
- 2) 第 114 回日本皮膚科学会総会(平成 27 年 5 月, 横浜, 教育講演「膿疱性乾癬の病態と治療における新展開ー膿疱性乾癬における顆粒球・単球吸着療法の新展開」演者)
- 3) 第 114 回日本皮膚科学会総会(平成 27 年 5 月, 横浜, 教育講演「汗関連疾患 診断治療のコツはあるか」座長)
- 4) 第 114 回日本皮膚科学会総会(平成 27 年 5 月, 横浜, ランチョンセミナー「難治性皮膚疾患治療の最新の知見ー今あらためて ODT を考える」演者)
- 5) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, シンポジウム「辞めない・あきらめない女性医師の育成・支援をめざして」演者)
- 6) 第 36 回日本アフェレシス学会(平成 27 年 10 月, 川越, シンポジウム「顆粒球・単球吸着法ー皮膚科領域におけるさらなる発展にむけて」座長 演者)
- 7) 第 66 回日本皮膚科学会中部支部学会(平成 27 年 10 月, 神戸, 教育講演「昨今のエリテマトーデス事情」演者)
- 8) 第 45 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会(平成 27 年 11 月, 松江, パネルディスカッション「皮膚科医が診る水疱症」パネリスト)
- 9) 第 115 回日本皮膚科学会総会(平成 28 年 6 月, 京都, 教育講演「粘膜病変から何を考えるかー感染症を考える」座長 演者)
- 10) 第 115 回日本皮膚科学会総会(平成 28 年 6 月, 京都, 教育講演「乾癬治療のピラミッド計画と GMA」座長)
- 11) 第 115 回日本皮膚科学会総会(平成 28 年 6 月, 京都, 教育講演「実践！皮膚病理道場(実技①および②)」チューター)
- 12) 第 31 回日本乾癬学会(平成 28 年 9 月, 宇都宮, ランチョンセミナー「膿疱性乾癬に対する GMA 治療の最適症例を考えるー治療反応性と遺伝的背景からの考察」座長)
- 13) The 20th Annual Meeting of Korean Society for Psoriasis and Asian Summit for Psoriasis (2016.09, Seoul, Korea, To make a new common survey protocol for the psoriasis database in Asia : the management of patient database of the Japanese society for psoriasis research; レク

チャー)

- 14) 第 67 回日本皮膚科学会中部支部学術大会(平成 28 年 10 月, 大阪, シンポジウム「迷わない! 皮膚感染症の診療 ウイルス発疹症—その多彩な症状」 演者)
- 15) 第 80 回日本皮膚科学会東部支部学術大会(平成 28 年 10 月, 浜松, イブニングセミナー「新たな局面を迎えた乾癬とその治療」 座長)
- 16) 第 27 回日本色素細胞学会(平成 28 年 11 月, 岐阜, ランチョンセミナー「メラノーマに対する T 細胞免疫療法の臨床と基礎 最新の話」 座長)
- 17) 第 37 回日本アフェレシス学会(平成 28 年 11 月, 横浜, シンポジウム「皮膚疾患のアフェレシス: 現状と展望 顆粒球・単球吸着療法—現状と問題点」 座長 演者)
- 18) 第 80 回日本皮膚科学会東京支部学会(平成 29 年 2 月, 横浜, モーニングセミナー「進化している乾癬治療—治療の流れに乗り遅れないために」 座長)
- 19) 第 279 回日本皮膚科学会東海地方会(平成 29 年 3 月, 津, イブニングセミナー「乾癬治療新アベノミクス!」 座長)
- 20) 第 116 回日本皮膚科学会総会(平成 29 年 6 月, 仙台, 教育講演「小児皮膚疾患 2017~common なものから rare なものまで~」 オーガナイザー)
- 21) 第 116 回日本皮膚科学会総会(平成 29 年 6 月, 仙台, 実技講演「実践! 皮膚病理道場」 チューター)
- 22) 第 41 回日本小児皮膚科学会(平成 29 年 7 月, 福井, シンポジウム「遺伝性皮膚疾患からみた炎症のメカニズム」 座長)
- 23) 第 81 回日本皮膚科学会東部支部学会(平成 29 年 9 月, 福島, シンポジウム「皮膚病をもっと好きになるために~雑誌「皮膚病診療」とのコラボ企画~皮膚病診療を、より面白くするには—皮膚病診療をもっと身近に」 演者)
- 24) 第 68 回日本皮膚科学会中部支部学会(平成 29 年 10 月, 京都, ランチョンセミナー「かゆみ治療の up to date」 座長)
- 25) 第 38 回日本アフェレシス学会(平成 29 年 10 月, 東京, シンポジウム「難治性皮膚疾患のアフェレシス治療」 座長)
- 26) 第 38 回日本アフェレシス学会(平成 29 年 10 月, 東京, シンポジウム「難治性皮膚疾患のアフェレシス治療 妊娠中発症の膿疱性乾癬に対する顆粒球・単球吸着療法」 演者)
- 27) 第 6 回奥伊勢 Forum(平成 29 年 10 月, 津, 教育講演「健康科学の基盤となる資源とその有効活用~皮膚と健康~皮膚疾患の基礎と臨床」 演者)
- 28) 第 69 回日本皮膚科学会西部支部学会(平成 29 年 10 月, 熊本, スポンサーセミナー「メラノーマ治療の変遷と今後の展望」 座長)
- 29) 第 21 回日本アフェレシス学会中部学術集会および技術講習会(平成 29 年 12 月, 名古屋, 教育講演「皮膚疾患に対するアフェレシス—最近の進歩」 演者)

加納宏行:

- 1) 第 114 回日本皮膚科学会総会(平成 27 年 5 月, 横浜, 教育講演「汗関連疾患 診断治療のコツはあるか—無汗症の診断・治療のこつ」 演者)
- 2) 第 18 回日本褥瘡学会(平成 28 年 9 月, 横浜, シンポジウム「褥瘡の細菌制御と感染対策~感染を伴う褥瘡の診断」 演者)
- 3) 第 116 回日本皮膚科学会総会(平成 29 年 6 月, 仙台, 教育講演「創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(第 2 版)について—講演を聞けば分かる第 1 版(2011 年)からの改正点ならびに変更点—創傷, 褥瘡, 熱傷の治療に共通する創傷一般の基礎知識」 演者)

水谷陽子:

- 1) 第 115 回日本皮膚科学会総会(平成 28 年 6 月, 京都, 教育講演「乾癬治療のピラミッド計画と GMA—膿疱性乾癬に対する顆粒球・単球吸着療法の実際」 演者)

高橋智子:

- 1) 第 66 回日本皮膚科学会中部支部学会(平成 27 年 10 月, 神戸, シンポジウム「非典型的な皮膚症状を繰り返した不完全型家族性地中海熱」 演者)
- 2) 第 116 回日本皮膚科学会総会(平成 29 年 6 月, 仙台, 教育講演「小児皮膚疾患 2017~common なものから rare なものまで~乳児血管腫~“wait and see” か積極的治療か~当院における小児科医との連携の試み」 演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 清島真理子：第116回日本皮膚科学会総会 優秀一般演題賞(平成29年度)

9. 社会活動

清島真理子：

- 1) 厚生労働省医師国家試験出題委員(～平成29年4月)
- 2) 厚生労働省医道審議会専門委員(医師分科会)(～平成29年4月)
- 3) 岐阜県医師会男女参画委員会副委員長(～現在)
- 4) 日本専門医機構基礎領域(皮膚科)専門医委員会委員(～平成27年5月)
- 5) 日本女性科学者の会理事(～現在)
- 6) 岐阜県公害審査会委員(～現在)
- 7) 「第30回日本医学会総会2019中部」展示委員会委員

加納宏行：

- 1) 岐阜県特定難病審査会委員(～現在)

周 円：

- 1) 日本臨床皮膚科医会・岐阜皮膚科医会「皮膚の日」市民講座(平成28年11月6日)

藤澤智美：

- 1) あいち乾癬患者友の会 学習懇談会 相談医(平成27年9月5日)
- 2) 日本臨床皮膚科医会・岐阜皮膚科医会「皮膚の日」市民講座(平成27年11月8日)

高橋智子：

- 1) 日本臨床皮膚科医会・岐阜皮膚科医会「皮膚の日」市民講座(平成29年11月5日)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 佐藤三佳：乳房外パジェット病「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2015年1月12日)
- 2) 清島真理子：正しく知りたい、アトピー性皮膚炎：「2月20日はアレルギーの日」：岐阜新聞(2015年2月20日)
- 3) 加納宏行：高齢者の皮膚特性を考慮した褥瘡診療：マルホ皮膚科セミナーラジオ NIKKEI(2015年3月5日放送)
- 4) 佐藤三佳：低温でも怖い やけど「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2015年3月16日)
- 5) 水谷陽子：紫外線対策 万全に「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2015年5月25日)
- 6) 水谷陽子：とびひ ひっかき、感染広がる「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2015年8月3日)
- 7) 清島真理子：日本医師会生涯教育協力講座「話題の医学」：「注意すべき皮膚の感染症」：テレビ東京(2015年9月13日)
- 8) 水谷陽子：ニキビの最新治療法「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2015年10月12日)
- 9) 水谷陽子：帯状疱疹 疲れてウイルス増殖「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2015年12月21日)
- 10) 清島真理子, 高木 肇：ほくろのような皮膚がん「悪性黒色腫(メラノーマ)」：朝日新聞(2015年12月25日)
- 11) 清島真理子, 永井美貴：じんましん正しく知ろう「2月20日はアレルギーの日」：岐阜新聞(2016年2月20日)
- 12) 水谷陽子：口腔アレルギー症候群 花粉症患者に合併症 果物や野菜食べた後、かゆみ「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2016年2月22日)
- 13) 水谷陽子：乾癬 生活に適した治療を 関節変形は早期治療で防止「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2016年4月25日)
- 14) 高橋智子：ウイルス性疣贅 DNA型で異なる症状 16型は子宮頸がん発症リスク「教えてホーム

- ドクター」：岐阜新聞(2016年6月27日)
- 15) 清島真理子：皮膚科医が診る水疱症：マルホ皮膚科セミナーラジオ NIKKEI(2016年6月30日放送)
 - 16) 高橋智子：毛染めによるかぶれ 感作期間経過で症状 酸化染毛剤の PPD 原因「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2016年8月29日)
 - 17) 高橋智子：女性に多い手荒れ 家事で潤い物質流出 予防が第一 こまめに保湿「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2016年10月31日)
 - 18) 周 円：皮膚筋炎の自己抗体調べる「研究室から：大学はいま」：岐阜新聞(2016年11月1日)
 - 19) 高橋智子：DDP-4 阻害薬－水膨れ発症の可能性 糖尿病治療で服用、関連を研究「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2017年1月16日)
 - 20) 清島真理子, 加納宏行：アトピー性皮膚炎を「克服」しよう「2月20日はアレルギーの日」：岐阜新聞(2017年2月20日)
 - 21) 高橋智子：スギ花粉皮膚炎 目の周り、頬にかかぶれ 皮膚のバリア機能を保ち予防「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2017年3月20日)
 - 22) 清島真理子：ウイルス発疹症－その多彩な症状：マルホ皮膚科セミナーラジオ NIKKEI(2017年5月4日放送)
 - 23) 高橋智子：女性に多い肝斑 紫外線影響、顔にシミ トラネキサム酸服用、色素増抑える「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2017年5月29日)
 - 24) 高橋智子：マダニ刺咬症 病原体に感染の恐れ 山林では肌の露出避ける「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2017年7月31日)
 - 25) 松山かなこ：日光角化症 長期の紫外線刺激 原因 がんの手前、皮膚病変時は受診を「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2017年10月2日)
 - 26) 清島真理子, 神谷秀喜, 松山かなこ：11月12日は「皮ふの日」 セルフチェック、早期受診で早期発見！日本人に多いほくろに似た皮膚がん 悪性黒色腫(メラノーマ)「岐阜の医療を考える－皮ふの日特集」：岐阜新聞(2017年11月12日)
 - 27) 松山かなこ：冬のかゆみ対策 皮脂減少や乾燥原因 適切に保湿剤塗り、刺激避ける「教えてホームドクター」：岐阜新聞(2017年12月18日)

12. 自己評価

評価

皮膚病態学内の各 subspecialty 分野で臨床研究、基礎研究ともに徐々に充実してきた。平成 27 年から 29 年の 3 年間に 3 件の科学研究費を獲得し、また、アトピー性皮膚炎における研究で平成 28 年和田知里先生が岐阜大学医学部の優秀研究論文に贈られる「藤原賞」を受賞した。研究費獲得、学会活動、論文作成とも一定の成果を得ることができたと評価している。

現状の問題点及びその対応策

人員不足と、診療および学生教育に費やす時間が増したために、研究活動に全力投球できる十分な研究環境が整えられていない点が大きな問題点である。学内の他分野あるいは他大学、他の研究施設との共同研究を積極的に推進することにより対応したい。

今後の展望

1) 乾癬治療におけるバイオマーカーの確立

最適な治療選択へのバイオマーカーの探索をさらに進めたい。

2) 皮膚悪性腫瘍の抗がん剤耐性に関する研究と新しい治療法の開発

抗がん剤耐性悪性黒色腫株に対する S1P 受容体の機能的アンタゴニストと抗がん剤との併用効果の詳細な機序について現在論文投稿中であり、さらに次のプロジェクトを検討したい。

3) アトピー性皮膚炎皮疹における非侵襲的方法によるサイトカインの網羅的解析

皮膚病変の簡便な診断ツールであるスキンプロテイングは基礎研究がほぼ終わっており、今後臨床的な応用を目指したい。

4) 強皮症における $\alpha 2$ アンチプラスミン($\alpha 2AP$)の組織蓄積機構の解明

研究を始めて少しずつデータが蓄積しつつある段階であり、さらに検討を続けたい。

5) 皮膚創傷治癒過程における自然免疫系アダプタータンパク質の関与の検討

皮膚潰瘍のモデルの再生過程での 1 型インターフェロン発現誘導性アダプタータンパク質の関与について

での基礎研究は現在投稿中であり、さらに治療の開発を推進していきたい。

(8) 泌尿器科学分野

1. 研究の概要

- 1) 尿路生殖器腫瘍の治療と予後に関する基礎的・臨床的研究
 - ①前立腺癌の抗癌剤耐性機序の基礎的研究
ホルモン療法耐性前立腺癌に対する抗癌剤治療の確立を目指し、培養細胞及び実験動物を用いた抗癌剤耐性に関連した遺伝子の同定と、その発現阻止についての基礎研究を行っている。
 - ②膀胱癌のアンドロゲン受容体の発現に関する基礎的研究
膀胱癌培養細胞を用いてアンドロゲン受容体の発現と細胞の増殖・浸潤能との関係と新規抗アンドロゲン剤による膀胱癌培養細胞の増殖抑制の効果に付いての基礎的検討を行っている。
 - ③Exosomeを用いたliquid biopsyの開発に関する基礎的研究
前立腺癌培養細胞と腎細胞癌培養細胞の培養上清に含まれるexosomeの単離を行い、その中に含まれる蛋白と遺伝子の解析を行うことにより、癌細胞の増殖能、ホルモン感受性、抗癌剤感受性などの情報を得ることを目的としたliquid biopsyの開発について基礎研究を行っている。
 - ④前立腺癌治療に関する臨床的研究
日本における前立腺癌に対するヨウ素125密封小線源永久挿入療法に関する前向きコホート研究および限局性前立腺癌に対するホルモン療法の有効性に関する観察研究を行っている。
- 2) 尿路感染症の基礎的・臨床的研究
 - ①大規模調査による起因菌の臨床的研究
関連施設を含めて毎年複雑性尿路感染症の起因菌を収集し、また、臨床背景や臨床病状との関連を研究している。さらに4年毎に女子急性単純性膀胱炎の総合調査を継続中である。
 - ②薬剤耐性菌の出現状況、耐性機序の解明
臨床例より得られた起因菌を用いて、突然変異などの遺伝子レベルでの薬剤耐性機序を研究している。また、抗菌剤の使用と遺伝子変異との関連も研究している。
 - ③尿路感染症に対する薬物療法についての臨床的研究
関連病院と協力し尿路感染症に対する各種抗菌剤の有効性について検討を行っている。
 - ④日本感染症学会、日本化学療法学会および日本臨床微生物学会による3学会合同抗菌薬感受性サーベイランス 急性単純性尿路感染症および複雑性尿路感染症に参加している。
- 3) 男子尿道炎の基礎的・臨床的研究
 - ①分子生物学的手法を用いた起炎菌の検出法の開発
現在までに解明されていない非淋菌性尿道炎の起炎菌の同定と、その診断法の開発、特に核酸増幅を用いた手法を研究している。
 - ②薬剤耐性菌淋菌の疫学研究
関連施設を含めて年次的に臨床分離株を収集し、それらの抗菌剤感受性を測定し、年次的な変移を研究している。一部データをWHO Western Pacific Region (WHO WPR)の淋菌薬剤耐性サーベイランスに提供している。
 - ③薬剤耐性 *Mycoplasma genitalium* の薬剤耐性機序の解明
非淋菌性尿道炎起炎菌として注目させている *M. genitalium* のマクロライド系およびキノロン系薬剤の耐性機序を遺伝子レベルで研究している。
 - ④薬剤耐性 *Mycoplasma genitalium* の全国サーベイランス
2017年に日本化学療法学会の助成金を受け、薬剤耐性 *Mycoplasma genitalium* の全国サーベイランスを実施した。
 - ⑤男子尿道炎に対する薬物療法についての臨床的研究
関連病院と協力し男子尿道炎に対する各種抗菌剤の有効性について検討を行っている。
 - ⑥男子淋菌性尿道炎に対する azithromycin 投与時の pharmacokinetics/pharmacodynamics 解析
Pharmacokinetics/pharmacodynamics 解析から男子淋菌性尿道炎に対する azithromycin 治療の細菌学的効果の予測についての基礎的および臨床的研究を行っている。
 - ⑦日本感染症学会、日本化学療法学会および日本臨床微生物学会による3学会合同抗菌薬感受性サーベイランス 淋菌性尿道炎およびクラミジア性尿道炎に参加している。
- 4) 腎移植における基礎的・臨床的研究
 - ①免疫抑制剤の適正化

免疫抑制剤のpharmacokinetics/pharmacodynamics解析を行うとともに、症例の個々の遺伝子解析を行って、遺伝子多型とpharmacokinetics/pharmacodynamicsとの関係についての基礎的・臨床的研究を行っている。

②免疫抑制剤の適正化

拒絶反応を防ぎ、日和見感染症を引き起こさない適正な免疫抑制剤の投与方法に関する臨床的研究を行っている。

③移植腎の病理学的研究

移植腎に対して定期的な生検を施行して、移植腎機能に及ぼす潜在的な拒絶反応、ウイルス感染を病理像から研究している。さらに、病理組織像から移植腎の長期生着を目指したテーラーメイドな免疫抑制療法を行っている。

④BK virus感染症に関する臨床的検討

腎移植患者の尿沈査にて観察されるdecoy細胞とBK virus感染症との関連を検討して、decoy細胞がBK virus腎症発症の予測の指標となるかの研究を行っている。

5) 鏡視下手術手技の開発研究

腹腔鏡下副腎摘出術、腹腔鏡下腎摘出術は、すでに標準術式となりつつある本手技を安全かつ確実に行うための手技および本術式を応用した新たな術式の開発、ならびに器具、器材の開発研究を行っている。

6) 排尿障害分野における基礎的・臨床的研究

①過活動膀胱に対する新規薬剤の開発の基礎的研究

新規ニューロキニン1受容体拮抗薬の膀胱の蓄尿機能に対する影響に関する動物を用いた基礎研究を行っている。

②男性前立腺肥大症患者の下部尿路症状に対する薬剤の効果についての臨床的研究

前立腺肥大症に伴う過活動膀胱症状、前立腺肥大症患者に合併する夜間頻尿、前立腺肥大症に対する治療抵抗性の不定愁訴に対する薬物療法を自覚的、他覚的に評価し、薬物の最適な選択と投与方法を検討している。

2. 名簿

教授：	出口 隆	Takashi Deguchi
准教授：	仲野正博	Masahiro Nakano
准教授：	横井繁明	Shigeaki Yokoi
講師：	安田 満	Mitsuru Yasuda
助教：	土屋朋大	Tomohiro Tsuchiya
助教：	水谷晃輔	Kosuke Mizutani
助教：	中根慶太	Keita Nakane
医員：	加藤 卓	Taku Kato
医員：	山田佳輝	Yoshiteru Yamada
医員：	堀江憲吾	Kengo Horie
医員：	前川由佳	Yuka Maekawa
医員：	飯沼光司	Koji Inuma
医員：	伊藤照久	Taruhisa Ito
医員：	竹内慎一	Shinichi Takeuchi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 出口 隆. 精巣上体炎, 精巣炎: 福井次矢, 高木 誠, 小室一成総編集. TODAY'S THERAPY 2015 今日の治療指針, 東京: 医学書院; 2015年: 1112-1113.
- 2) 後藤百万, 小川 修, 笈 善行, 出口 隆, 宮澤克人編集. EBM 泌尿器疾患の治療, 東京: 中外医学社; 2015年.
- 3) 出口 隆. 南山堂医学大事典, 東京: 南山堂; 2015年.
- 4) 安田 満. 膀胱炎, ガイドライン 外来診療 2015, 東京: 日経メディカル開発; 2015年: 373-382.
- 5) 安田 満. *Mycoplasma genitalium* による尿道炎の治療の第一選択は何か?: 後藤百万, 小川 修, 笈 善行, 出口 隆, 宮澤克人編集. EBM 泌尿器疾患の治療, 東京: 中外医学社; 2015年: 513-520.
- 6) 安田 満. 性感染症(男子): 水口 雅, 市橋 光, 崎山 弘総編集. 今日の小児治療指針 第16版, 東京: 医学書院; 2015年: 738-739.
- 7) 安田 満. 第3章 尿路性器感染症: 泌尿器科領域における周術期感染予防ガイドライン 2015 III. 尿路内視鏡手術, 日本泌尿器科学会 2015年 卒後教育テキスト(第20巻1号), 東京: 一般社団法人日本泌尿器科学会; 2015年: 73-77.
- 8) 安田 満. 第5章 尿路性器感染症: 尿路感染症の診断・治療・予防 II. 尿路感染症の診断, 日本泌尿器

科学会 2015年 卒後教育テキスト(第20巻2号), 東京: 一般社団法人日本泌尿器科学会; 2015年: 108-114.

- 9) 安田 満. 性感染症: 門脇 隆, 小室一成, 宮地良樹監修. 日常診療に活かす診療ガイドライン UP TO DATE 2016-2017, 東京: メディカルレビュー社; 2016年: 35-43.
- 10) 安田 満. 経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT): 日本泌尿器科学会編 泌尿器科領域における周術期感染予防ガイドライン 2015. 東京: メディカルレビュー社; 2016年: 32-35.
- 11) 安田 満. 上部尿路に対する経尿道的検査および手術(尿路結石に対する治療を除く): 日本泌尿器科学会編 泌尿器科領域における周術期感染予防ガイドライン 2015. 東京: メディカルレビュー社; 2016年: 41-44.
- 12) 安田 満. 臨床編 4. 泌尿器系マイコプラズマ感染症: 日本マイコプラズマ学会編 最新マイコプラズマ学, 東京: 近代出版; 2016年: 126-128.
- 13) 安田 満. 技術編 2. *Mycoplasma genitalium*, アルギニン分解性マイコプラズマ, ウレアプラズマなどの培地, 分離培養, 保存法: 日本マイコプラズマ学会編 最新マイコプラズマ学, 東京: 近代出版; 2016年: 176-178.
- 14) 安田 満. 無症候性細菌尿: 感染症最新の治療 2016-2018, 東京: 南江堂; 2016年: 236-237.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 仲野正博 監修. 前立がんのホルモン療法, 日経ドラッグインフォメーション 2015年; 2巻: 33-35.
- 2) 安田 満. 【感染対策上手になるチェックリストつき! 泌尿器科の感染対策をきわめる】 排泄(排尿)物の感染管理, 泌尿器ケア 2015年; 20巻: 955-959.
- 3) 出口 隆. 腎盂腎炎, 膀胱炎, 尿道炎, 増刊号 病気とくすり 2016, 基礎と実践 Expert's Guide, 薬局 2016年; 67巻: 1683-1686.
- 4) 出口 隆. 膀胱炎, 腎盂腎炎, 増刊号 産婦人科処方実践マニュアル, 産科と婦人科 2016年; 83巻(増刊号): 80-83.
- 5) 出口 隆. 泌尿器科領域のヘルペスウイルス感染症, 特集 多彩なヘルペスウイルス感染症 -その診断と治療 up to date として-, Modern Physician 2016年; 36巻: 1295-1298.
- 6) 出口 隆. 前立腺生検後感染, 特集 前立腺癌を取り巻くさまざまな薬物治療が一気にわかる!, 薬局 2016年; 67巻: 3077-3081.
- 7) 仲野正博, 出口 隆. 前立腺癌に対する放射線外照射併用ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法後, 内痔核に対し硬化療法を受けた2例 -尿道直腸瘻, 直腸潰瘍発症例: 前立腺放射線治療後の痔核治療に対する注意喚起-, 泌尿器外科 2016年; 29巻: 1759-1762.
- 8) 安田 満. 性感染症 性器ヘルペス, 尿路・性器の感染症, 臨床泌尿器科 2016年; 70巻: 42-44.
- 9) 安田 満. 性感染症 梅毒, 尿路・性器の感染症, 臨床泌尿器科 2016年; 70巻: 48-50.
- 10) 安田 満. 腎盂腎炎, 繰り返す泌尿器症状への治療アプローチ, 症状が持続する感染症への最新アプローチ, 感染と抗菌薬 2016年; 19巻: 163-168.
- 11) 安田 満. フルオロキノロン系抗菌薬と膀胱瘻は標準治療か? 急性細菌性前立腺炎の治療, 臨床泌尿器科 2016年; 70巻: 612-617.
- 12) 安田 満. 【腎と感染症】 尿路性器感染症治療の進歩, 腎と透析 2016年; 81巻: 483-487.
- 13) 荒川創一, 石川清仁, 清田 浩, 坂田 宏, 重村克巳, 高橋 聡, 濱砂良一, 速見浩士, 三嶋廣繁, 村谷哲郎, 安田 満, 山本新吾, 渡邊豊彦, 公益社団法人日本化学療法学会尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会. 尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン(第2版)ガイドラインの改訂にあたって, 日本化学療法学会雑誌 2016年; 64巻: 479-493.
- 14) 土屋朋大. 【他科の知識 1】 泌尿器科 血尿の鑑別 尿路悪性腫瘍までを念頭に、効率よく適正にスクリーニングする, Hospitalist 2016年; 4巻: 849-856.
- 15) 宇野裕巳, 斉藤昭弘, 出口 隆. 前立腺 Repeat biopsy を考える 前立腺 Repeat biopsy の適応と方法 今後の方向性について, 泌尿器外科 2016年; 29巻(臨時増刊): 795-797.
- 16) 仲野正博, 出口 隆. 前立腺癌の病期別治療法-1. TNM 分類 I 期の前立腺癌の治療法 TNM 分類 I 期前立腺癌治療法のポイント, 注意点について教えて下さい. 臨床泌尿器科 2016年; 68巻(増刊号): 220-224.
- 17) 出口 隆. 【後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30 2017】 疾患 尿路感染症(膀胱炎と腎盂腎炎), 前立腺炎, 精巣上体炎, 泌尿器外科 2017年; 30巻(特別号): 208-223.
- 18) 出口 隆. 病気とくすり 2017 基礎と実践 Expert's Guide】 病原微生物・悪性新生物とくすり 尿路感染症 腎盂腎炎, 膀胱炎, 尿道炎, 薬局 2017年; 68巻4号: 1867-1870.
- 19) 出口 隆, 伊藤 晋. 私の処方 非淋菌性尿道炎の抗菌化学療法, Modern Physician 2017年; 37巻: 1098.
- 20) 仲野正博, 出口 隆. 【新腎・泌尿器癌(上)-基礎・臨床研究の進歩-】 腎癌 腎腫瘍解剖学的特徴のスコアリングシステム, 日本臨床 2017年; 75巻(増刊6 新腎・泌尿器癌(上)): 422-428.
- 21) 仲野正博, 出口 隆. 【新腎・泌尿器癌(下)-基礎・臨床研究の進歩-】 膀胱癌 膀胱癌の治療 化学療法 転移性膀胱癌に対する化学療法 M-VAC, 日本臨床 2017年; 75巻(増刊7 新腎・泌尿器癌(下)): 277-284.

- 22) 横井繁明, 出口 隆. 【新腎・泌尿器癌(上)-基礎・臨床研究の進歩-】 腎盂尿管癌 腎盂尿管癌の治療 手術療法 腎尿管全摘除術, 日本臨床 2017年; 75巻(増刊6 新腎・泌尿器癌(上)): 487-489.
- 23) 横井繁明. 尿管結石, 手術を考慮する腹痛の鑑別診断, 成人病と生活習慣病 2017年; 47巻: 1576-1578.
- 24) 安田 満. 【高齢者の泌尿器疾患・病態に基づく診断・治療上の問題-】 高齢者泌尿器良性疾病の病態と治療, 尿路性器感染症, 日本臨床 2017年; 75巻: 558-566.
- 25) 安田 満. 【ESBL産生菌の最前線-知っておきたい診断・治療のすべて】 単剤 or 併用?ESBL産生菌感染症の診断・治療の実際 院内の尿路感染症 カテーテル関連尿路感染症・重症尿路感染症を中心に, 感染と抗菌薬 2017年; 20巻: 115-120.
- 26) 安田 満. 【まるごと 尿路感染症と性感染症ふらず炎症性疾患】 淋菌感染症, Uro-Lo: 泌尿器 Care & Cure 2017年; 22巻: 489-493.
- 27) 濱砂良一, 安田 満. 【非淋菌性尿道炎の診断・治療 淋菌と C.trachomatis の有無を確認し, 非淋菌性にはクラミジア性尿道炎に準ずる治療を, 日本医事新報 2017年; 4878巻: 62-63.
- 28) 安田 満. これだけは押さえておきたい 泌尿器科の薬 Up-to-Date】 尿路感染症 尿路性器感染症で注意すべき耐性菌は? 薬事 2017年; 59巻: 3107-3113.
- 29) 安田 満. 【性感染症における up to date】 淋菌感染症における up to date, 化学療法の領域 2017年; 33巻: 2301-2308.
- 30) 高井 学, 横井繁明, 仲野正博. 【まるごと 泌尿器科の術式別術前・術後管理】 前立腺 surgery 術前術後管理 ホルミウム・ヤグレーザー前立腺核出術(HoLEP)の術前・術後管理, Uro-Lo: 泌尿器 Care & Cure 2017年 22巻: 176-180.

総説 (欧文)

- 1) Yasuda M, Muratani T, Ishikawa K, Kiyota H, Sakata H, Shigemura K, Takahashi S, Hamasuna R, Hayami H, Mikamo H, Yamamoto S, Watanabe T, Arakawa S. Japanese guideline for clinical research of antimicrobial agents on urogenital infections: second edition. J Infect Chemother. 2016;22:651-661. CS 1.73
- 2) Yamamoto S, Shigemura K, Kiyota H, Wada K, Hayami H, Yasuda M, Takahashi S, Ishikawa K, Hamasuna R, Arakawa S, Matsumoto T; Japanese Research Group for UTI. Essential Japanese guidelines for the prevention of perioperative infections in the urological field: 2015 edition. Int J Urol. 2016;23:814-824. CS 1.15

原著 (和文)

- 1) 高木公暁, 高井 学, 河田 啓, 堀江憲吾, 菊地美奈, 加藤 卓, 水谷晃輔, 清家健作, 土屋朋大, 安田 満, 横井繁明, 仲野正博, 牛越博昭, 宮崎龍彦, 出口 隆. 転移性腎細胞癌に対してソラフェニブ内服治療中に心筋梗塞を発症した3例, 泌尿器科紀要 2015年; 61巻: 347-351.
- 2) 堀江憲吾, 土屋朋大, 高井 学, 横井繁明, 仲野正博, 出口 隆, 伊藤慎一. 腎移植維持期に発症した深部静脈血栓症の検討, 日本臨床腎移植学会雑誌 2015年; 3巻: 183-188.
- 3) 伊藤 晋, 安田 満, 伊藤貴子, 出口 隆. 尿道炎男性の性行動 無防備なオーラルセックスの実態, 日本性感染症学会誌 2015年; 26巻: 103-108.
- 4) 宇野裕巳, 齊藤昭弘, 仲野正博, 出口 隆. ハイリスク前立腺がん診断を目的とした高齢者における前立腺生検の適応, 泌尿器外科 2015年; 28巻: 1395-1396.
- 5) 久保田恵章, 仲野正博, 永井真吾, 松岡加恵, 荒川裕貴, 堀江憲吾, 出口 隆, 加藤久和. TIP(Paclitaxel, Ifosfamide, Cisplatin)療法が著効した鼠径リンパ節転移を有する陰茎癌の1例, 泌尿器科紀要 2015年; 61巻: 33-37.
- 6) 谷畑健生, 秋元義弘, 武島 仁, 五十嵐辰男, 安田 満, 種部恭子, 金山博臣, 荒川創一. 平成25年7モデル県の性感染症診察医療機関全数調査推計有病率と国立感染症研究所の定点報告推計有病率の比較 7県医療機関全数調査結果と定点調査報告結果の有病率はなぜ乖離したのか?, 日本性感染症学会誌 2015年; 26巻: 109-116.
- 7) 安田 満, 濱砂良一, 山本新吾, 南谷進市, 奥田恭行, 松本哲朗. 尿路感染症における pazufloxacin を対照薬とした levofloxacin 注射薬の第III相比較試験-注射薬から経口薬への切り替え療法による検討-, 日本化学療法学会雑誌 2016年; 64巻: 796-812.
- 8) 伊藤 晋, 伊藤貴子, 篠崎恭子, 安田 満, 高橋 聡, 出口 隆. 男子尿道炎診療における口腔・咽頭的重要性と問題点, 日本性感染症学会誌 2016年; 27巻: 29-41.
- 9) 堀江憲吾, 土屋朋大, 高井 学, 横井繁明, 出口 隆, 伊藤慎一. 酵素補充療法後に生体腎移植術を施行した Fabry 病の1例, 腎移植・血管外科 2016年; 26巻: 124-128.
- 10) 西野好則, 三輪好生, 守山洋司, 藤広 茂, 増栄孝子, 菊地美奈, 中井千愛, 出口 隆. オキシブチニン塩酸塩経皮吸収型製剤による貼付部位皮膚炎に対する対策の考察, 泌尿器外科 2016年; 29巻: 1673-1678.
- 11) 西野好則, 三輪好生, 守山洋司, 藤広 茂, 増栄孝子, 菊地美奈, 中井千愛, 出口 隆. 慢性骨盤痛症候群を併発するBPH患者に対する Tadalafil の有用性. 泌尿器科紀要. 2017年; 63巻:101-105.
- 12) 坂本次郎, 重原一慶, 中嶋一史, 川口昌平, 中嶋孝夫, 島村正喜, 安田 満, 長谷川徹, 小堀善友, 岡田 弘, 出口 隆, 並木幹夫, 溝上 敦. 陰茎癌における HPV 感染の役割と発癌のメカニズムについての検討, 日本性感染症学会誌 2017年; 28巻: 85-91.

- 13) 小森聡子, 加藤文博, 諏訪哲也, 水野正巳, 丹羽啓之, 橋本健一, 廣田卓男, 塩谷真由美, 飯塚勝美, 堀川幸男, 仲野正博, 酒々井夏子, 齊藤昭弘, 武田 純. 前立腺小細胞癌による異所性 ACTH 産生症候群の 1 例, 日本内分泌学会雑誌 2017 年; 93 卷(Suppl. Update): 49-51.
- 14) 高木公暁, 前川由佳, 養島謙一, 山羽正義, 加藤俊男, 横井繁明, 堀江正宣. 腹膜腔に発生した成人成熟奇形腫の 1 例, 泌尿器科紀要 2017 年; 63 卷 475-478.
- 15) 濱砂良一, 安田 満, 山本新吾, 伊東健治, 川原和也, 川原元司, 伊藤 晋, 原 章二, 南谷進市, 奥田恭行, 松本哲朗. 急性細菌性前立腺炎および急性精巣上体炎を対象とした levofloxacin 注射薬の第 III 相臨床試験注射薬から経口薬への切り替え療法による検討, 日本化学療法学会雑誌 2017 年; 65 卷: 484-490.
- 16) 土屋朋大, 高井 学, 堀江憲吾, 山田佳輝, 横井繁明, 仲野正博, 出口 隆, 伊藤慎一. 高齢ドナーからの心停止下腎提供で 2 腎同時移植を行った 1 例, 日本臨床腎移植学会雑誌 2017 年; 5 卷: 208-211.
- 17) 小沢直也, 牧野 靖, 中根慶太. 陰茎転移をきたした肺腺癌の 1 例, 肺癌 2017 年; 57 卷: 304-307.
- 18) 飯沼光司, 小島圭太郎, 柚原一哉. Sodium glucose cotransporter 2 阻害薬内服中に尿管結石症より急速に腎盂腎炎, 敗血症へと至った 1 例, 泌尿器外科 2017 年; 30 卷: 611-614.

原著 (欧文)

- 1) Mizutani K, Tomoda M, Ohno Y, Hayashi H, Fujita Y, Kawakami K, Kameyama K, Kato T, Sugiyama T, Itoh Y, Ito M, Deguchi T. Effects of Cabazitaxel in Renal Cell Carcinoma Cell Lines. *Anticancer Res.* 2015;35:6671-6677. CS 1.90
- 2) Nakano M, Yorozu A, Saito S, Sugawara A, Maruo S, Kojima S, Kikuchi T, Fukushima M, Dokiya T, Yamanaka H. Seed migration after transperineal interstitial prostate brachytherapy by using loose seeds: Japanese prostate cancer outcome study of permanent iodine-125 seed implantation (J-POPS) multi-institutional cohort study. *Radiat Oncol.* 2015;14:10:228. CS 2.65
- 3) Takagi K, Takai M, Kameyama K, Horie K, Kikuchi M, Kato T, Mizutani K, Seike K, Tsuchiya T, Yasuda M, Yokoi S, Suzui N, Nakano M, Deguchi T. ALK Gene Translocation in Inflammatory Myofibroblastic Tumor of the Urinary Bladder: A Case Report. *Urol Case Rep.* 2015;3:138-140. CS 0.23
- 4) Kato T, Mizutani K, Kameyama K, Kawakami K, Fujita Y, Nakane K, Kanimoto Y, Ehara H, Ito H, Seishima M, Deguchi T, Ito M. Serum exosomal P-glycoprotein is a potential marker to diagnose docetaxel-resistance and select a taxoid for prostate cancer patients. *Urologic Oncology: Seminars and Original Investigations.* 2015;33:385 e15-20. CS 2.22
- 5) Ishikawa K, Hamasuna R, Uehara S, Yasuda M, Yamamoto S, Hayami H, Takahashi S, Matsumoto T, Minamitani S, Kadota J, Iwata S, Kaku M, Watanabe A, Sunakawa K, Sato J, Hanaki H, Tsukamoto T, Kiyota H, Egawa S, Deguchi T, Matsumoto M, Tanaka K, Arakawa S, Fujisawa M, Kumon H, Kobayashi K, Matsubara A, Wakeda H, Amemoto Y, Onodera S, Goto H, Komeda H, Yamashita M, Takenaka T, Fujimoto Y, Tsugawa M, Takahashi Y, Maeda H, Onishi H, Ishitoya S, Nishimura K, Mitsumori K, Ito T, Togo Y, Nakamura I, Ito N, Kanamaru S, Hirose T, Muranaka T, Yamada D, Ishihara S, Oka H, Inatomi H, Matsui T, Kobuke M, Kunishima Y, Kimura T, Ichikawa T, Kagara I, Matsukawa M, Takahashi K, Mita K, Kato M, Okumura K, Kawanishi H, Hashimura T, Aoyama T, Shigeta M, Koda S, Taguchi K, Matsuda Y. Japanese nationwide surveillance in 2011 of antibacterial susceptibility patterns of clinical isolates from complicated urinary tract infection cases. *J Infect Chemother.* 2015;21:623-633. CS 1.73
- 6) Hattori S, Kikuchi A, Sawamura T, Daimaru O, Horie M, Deguchi T. Improved Target Cell Selection and Counting Method for UroVysion Fluorescence in Situ Hybridization. *Clin Lab.* 2015;61:637-42. CS 0.89
- 7) Fujita Y, Kojima T, Kawakami K, Mizutani K, Kato T, Deguchi T, Ito M. miR-130a activates apoptotic signaling through activation of caspase-8 in taxane-resistant prostate cancer cells. *Prostate.* 2015;75:1568-1578. CS 3.83
- 8) Kawakami K, Fujita Y, Kato T, Mizutani K, Kameyama K, Tsumoto H, Miura Y, Deguchi T, Ito M. Integrin $\beta 4$ and vinculin contained in exosomes are potential markers for progression of prostate cancer associated with taxane-resistance. *Int J Oncol.* 2015;47:384-390. CS 3.25
- 9) Deguchi T, Yasuda M, Horie K, Seike K, Kikuchi M, Mizutani K, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M, Hoshina S. Drug resistance-associated mutations in *Mycoplasma genitalium* in female sex workers, Japan. *Emerg Infect Dis.* 2015;21:1062-1064. CS 4.92
- 10) Deguchi T, Yasuda M, Ito S. Re: Adrian Pilatz, Hamid Hossain, Rolf Kaiser, et al. Acute epididymitis revisited: impact of molecular diagnostics on etiology and contemporary guideline recommendations. *Eur Urol.* 2015;68:428-435. CS 6.29
- 11) Izawa S, Yamaoka M, Deguchi T. Effect of urinary excretion on the bladder tissue distribution of fluoroquinolones in rats. *J Infect Chemother.* 2015;21:290-295. CS 1.73
- 12) Deguchi T, Shimada Y, Horie K, Mizutani K, Seike K, Tsuchiya T, Yokoi S, Yasuda M, Ito S. Bacterial loads of *Ureaplasma parvum* contribute to the development of inflammatory responses in the male urethra. *Int J STD AIDS.* 2015;26:1035-1039. CS 1.17
- 13) Matsuda K, Takahashi A, Middlebrooks CD, Obara W, Nasu Y, Inoue K, Tamura K, Yamasaki I, Naya Y, Tanikawa C, Cui R, Figueroa JD, Silverman DT, Rothman N, Namiki M, Tomita Y, Nishiyama H,

- Kohri K, Deguchi T, Nakagawa M, Yokoyama M, Miki T, Kumon H, Fujioka T, Prokunina-Olsson L, Kubo M, Nakamura Y, Shuin T. Genome-wide association study identified SNP on 15q24 associated with bladder cancer risk in Japanese population. *Hum Mol Genet.* 2015;24:1177-1784. CS 5.16
- 14) Deguchi T, Kikuchi M, Yasuda M, Ito S. Sitafloxacin: antimicrobial activity against ciprofloxacin-selected laboratory mutants of *Mycoplasma genitalium* and inhibitory activity against its DNA gyrase and topoisomerase IV. *J Infect Chemother.* 2015;21:74-75. CS 1.73
- 15) Takanashi M, Ito S, Kaneto H, Tanahashi Y, Kitanohara M, Yanagihara A, Nakazima H, Yasuda M. Development and clinical application of an InvaderPlus® assay for the detection of genital mycoplasmas. *J Infect Chemother.* 2015;21:516-519. CS 1.73
- 16) Hamasuna R, Yasuda M, Ishikawa K, Uehara S, Hayami H, Takahashi S, Matsumoto T, Yamamoto S, Minamitani S, Watanabe A, Iwata S, Kaku M, Kadota J, Sunakawa K, Sato J, Hanaki H, Tsukamoto T, Kiyota H, Egawa S, Tanaka K, Arakawa S, Fujisawa M, Kumon H, Kobayashi K, Matsubara A, Naito S, Kuroiwa K, Hirayama H, Narita H, Hosobe T, Ito S, Ito K, Kawai S, Ito M, Chokyu H, Matsumura M, Yoshioka M, Uno S, Monden K, Takayama K, Kaji S, Kawahara M, Sumii T, Kadena H, Yamaguchi T, Maeda S, Nishi S, Nishimura H, Shirane T, Yoh M, Akiyama K, Imai T, Kano M. The second nationwide surveillance of the antimicrobial susceptibility of *Neisseria gonorrhoeae* from male urethritis in Japan, 2012-2013. *J Infect Chemother.* 2015;21:340-345. CS 1.73
- 17) Inagaki I, Adachi M, Ito H, Yasuda M, Tsurumi H, Deguchi T, Seishima M. Atazanavir-induced urine crystals demonstrated by infrared spectroscopic analysis. *Urol Int.* 2015;94:121-124. CS 1.50
- 18) Deguchi T, Kikuchi M, Yasuda M, Ito S. Multidrug-Resistant *Mycoplasma genitalium* Is Increasing. *Clin Infect Dis.* 2016;62:405-406. CS 4.88
- 19) Deguchi T, Yasuda M, Hatazaki K, Kameyama K, Horie K, Kato T, Mizutani K, Seike K, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M, Yoh M. New Clinical Strain of *Neisseria gonorrhoeae* with Decreased Susceptibility to Ceftriaxone, Japan. *Emerg Infect Dis.* 2016;22:142-144. CS 4.92
- 20) Ito S, Hanaoka N, Shimuta K, Seike K, Tsuchiya T, Yasuda M, Yokoi S, Nakano M, Ohnishi M, Deguchi T. Male non-gonococcal urethritis: From microbiological etiologies to demographic and clinical features. *Int J Urol.* 2016;23:325-331. CS 1.15
- 21) Seike K, Yasuda M, Hatazaki K, Mizutani K, Yuhara K, Ito Y, Fujimoto Y, Ito S, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M, Deguchi T. Novel penA mutations identified in *Neisseria gonorrhoeae* with decreased susceptibility to ceftriaxone isolated between 2000 and 2014 in Japan. *J Antimicrob Chemother.* 2016;71:2466-2470. CS 4.21
- 22) Ito S, Yasuda M, Hatazaki K, Mizutani K, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M, Deguchi T. Microbiological efficacy and tolerability of a single-dose regimen of 1 g of ceftriaxone in men with gonococcal urethritis. *J Antimicrob Chemother.* 2016;71:2559-2562. CS 4.21
- 23) Kikuchi M, Kameyama K, Yasuda M, Yokoi S, Deguchi T, Miwa K. Postoperative infectious complications in patients undergoing holmium laser enucleation of the prostate: Risk factors and microbiological analysis. *Int J Urol.* 2016;23:791-796. CS 1.15
- 24) Yasuda M, Ito S, Hatazaki K, Deguchi T. Remarkable increase of *Neisseria gonorrhoeae* with decreased susceptibility of azithromycin and increase in the failure of azithromycin therapy in male gonococcal urethritis in Sendai in 2015. *J Infect Chemother.* 2016;22:841-843. CS 1.73
- 25) Takahashi S, Hamasuna R, Yasuda M, Ishikawa K, Hayami H, Uehara S, Yamamoto S, Minamitani S, Kadota J, Iwata S, Kaku M, Watanabe A, Sato J, Hanaki H, Masumori N, Kiyota H, Egawa S, Tanaka K, Arakawa S, Fujisawa M, Kumon H, Wada K, Kobayashi K, Matsubara A, Matsumoto T, Eto M, Tatsugami K, Kuroiwa K, Ito K, Hosobe T, Hirayama H, Narita H, Yamaguchi T, Ito S, Sumii T, Kawai S, Kanokogi M, Kawano H, Chokyu H, Uno S, Monden K, Kaji S, Kawahara M, Takayama K, Ito M, Yoshioka M, Kano M, Konishi T, Kadena H, Nishi S, Nishimura H, Yamauchi T, Maeda S, Horie M, Ihara H, Matsumura M, Shirane T, Takeyama K, Akiyama K, Takahashi K, Ikuyama T, Inatomi H, Yoh M: Nationwide surveillance of the antimicrobial susceptibility of *Chlamydia trachomatis* from male urethritis in Japan. *J Infect Chemother.* 2016;22:581-586. CS 1.73
- 26) Mizutani K, Horie K, Nagai S, Tsuchiya T, Saigo C, Kobayashi K, Miyazaki T, Deguchi T. Response to nivolumab in metastatic collecting duct carcinoma expressing PD-L1: A case report. *Mol Clin Oncol.* 2017;7:988-990.
- 27) Nakano M, Araki H, Ohtakara K, Tanaka H, Iinuma K, Deguchi T. Significance of total colonoscopy screening before definitive radiotherapy for prostate cancer on the detection of anorectocolonic disease requiring intervention in advance. *Int J Urol.* 2017 Nov 23. doi: 10.1111/iju.13494. CS 1.15
- 28) Kondo H, Ito S, Hatazaki K, Horie K, Nakane K, Mizutani K, Tsuchiya T, Yasuda M, Yokoi S, Nakano M, Deguchi T. GyrA and/or ParC alterations of Haemophilus influenzae strains isolated from the urethra of men with acute urethritis. *J Infect Chemother.* 2017 Nov 11. pii: S1341-321X(17)30246-5. doi: 10.1016/j.jiac.2017.10.013. CS 1.73
- 29) Deguchi T. Proposed treatment strategies for non-gonococcal urethritis. *Lancet Infect Dis.* 2017;17:1121-1122. CS 5.96
- 30) Soda M, Ito S, Matsumaru N, Nakamura S, Nagase I, Takahashi H, Ohno Y, Yasuda M, Yamamoto M, Tsukamoto K, Itoh Y, Deguchi T, Kitaichi K. Evaluation of the Microbiological Efficacy of a Single

- 2-Gram Dose of Extended-Release Azithromycin by Population Pharmacokinetics and Simulation in Japanese Patients with Gonococcal Urethritis. *Antimicrob Agents Chemother.* 2017 Dec 21;62. pii: e01409-17. CS 4.21
- 31) Horie K, Kawakami K, Fujita Y, Sugaya M, Kameyama K, Mizutani K, Deguchi T, Ito M. Exosomes expressing carbonic anhydrase 9 promote angiogenesis. *Biochem Biophys Res Commun.* 2017;492:356-361. CS 2.51
- 32) Soda M, Fujitani M, Michiuchi R, Shibayama A, Kanamori K, Yoshikuni S, Ohno Y, Tsuchiya T, Suzuki A, Horie K, Deguchi T, Itoh Y, Kitaichi K. Association Between Tacrolimus Pharmacokinetics and Cytochrome P450 3A5 and Multidrug Resistance Protein 1 Exon 21 Polymorphisms. *Transplant Proc.* 2017;49:1492-1498. CS 0.98
- 33) Deguchi T, Ito S, Hatazaki K, Horie K, Yasuda M, Nakane K, Mizutani K, Tsuchiya T, Yokoi S, Hanaoka N, Shimuta K, Ohnishi M, Muratani T, Nakano M. Antimicrobial susceptibility of *Haemophilus influenzae* strains isolated from the urethra of men with acute urethritis and/or epididymitis. *J Infect Chemother.* 2017;23:804-807. CS 1.73
- 34) Kawakami K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Horie K, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Mizutani K, Deguchi T, Ito M. Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a potential marker for prostate cancer. *BMC Cancer.* 2017;17(1):316. CS 3.56
- 35) Deguchi T, Ito S, Yasuda M, Kondo H, Yamada Y, Nakane K, Mizutani K, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M. Emergence of *Mycoplasma genitalium* with clinically significant fluoroquinolone resistance conferred by amino acid changes both in GyrA and ParC in Japan. *J Infect Chemother.* 2017;23:648-650. CS 1.73
- 36) Ito S, Yasuda M, Kondo H, Yamada Y, Nakane K, Mizutani K, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M, Deguchi T. Clinical courses of herpes simplex virus-induced urethritis in men. *J Infect Chemother.* 2017;23:717-719. CS 1.73
- 37) Ito S, Hatazaki K, Shimuta K, Kondo H, Mizutani K, Yasuda M, Nakane K, Tsuchiya T, Yokoi S, Nakano M, Ohnishi M, Deguchi T. *Haemophilus influenzae* Isolated From Men With Acute Urethritis: Its Pathogenic Roles, Responses to Antimicrobial Chemotherapies, and Antimicrobial Susceptibilities. *Sex Transm Dis.* 2017;44:205-210. CS 2.17
- 38) Tanioka A, Deguchi T. Effect of a Bicyclic Pyrimidine Derivative (KRP-103), a Novel Selective Tachykinin NK1 Receptor Antagonist, on Bladder Function in Guinea Pigs. *Drug Res (Stuttg).* 2017;67:302-307. CS 0.73
- 39) Kameyama K, Horie K, Mizutani K, Kato T, Fujita Y, Kawakami K, Kojima T, Miyazaki T, Deguchi T, Ito M. Enzalutamide inhibits proliferation of gemcitabine-resistant bladder cancer cells with increased androgen receptor expression. *Int J Oncol.* 2017;50:75-84. CS 3.25
- 40) Okihara K, Yorozu A, Saito S, Tanaka N, Koga H, Higashide S, Kikuchi T, Nakano M: Assessment of sexual function in Japanese men with prostate cancer undergoing permanent brachytherapy without androgen deprivation therapy: Analysis from the Japanese Prostate Cancer Outcome Study of Permanent Iodine-125 Seed Implantation database. *International Journal of Urology.* 2017;24: 518-524. CS 1.15
- 41) Ishiyama H, Nakano M, Toya K, Kota R, Kikuchi K, Yamaguchi T, Kono N, Kawakami S, Tsutsumi Y, Tanaka T, Eriguchi T, Ohga S, Yamaguchi T, Takakawa Y, Morita M, Katayama N, Ohashi T, Aoki M, Yorozu A, Saito S: Variability of treatment planning of seed implantation: A Japanese multicenter simulation study. *Brachytherapy.* 2017;16:1013-1020. CS 1.94
- 42) Yasuda M, Hatazaki K, Ito S, Kitano M, Yoh M, Kojima M, Narita H, Kido A, Miyata K, Deguchi T. Antimicrobial Susceptibility of *Neisseria gonorrhoeae* in Japan from 2000 to 2015. *Sex Transm Dis.* 2017;44:149-153. CS 2.17

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：出口 隆，研究分担者：安田 満；科学研究費補助金基盤研究(C)：男子尿道炎における病原体抗菌薬耐性サーベイランスの構築；平成 25-27 年度；5,070 千円(1,950：1,560：1,560 千円)
- 2) 研究代表者：安田 満，研究分担者：出口 隆；科学研究費補助金基盤研究(C)：淋菌咽頭感染の効果的な治療法；平成 26-28 年度；5,070 千円(1,430：1,430：2,210 千円)
- 3) 研究代表者：水谷晃輔；科学研究費若手研究(B)：前立腺癌由来エクソソームの解析；平成 26-27 年度；3,900 千円(1,950：1,950 千円)
- 4) 研究代表者：加藤 卓；科学研究費補助金基盤研究(C)：前立腺癌患者血清エクソソーム中 MDR 1 の測定；平成 26-28 年度；4,940 千円(1,690：1,690：1,560 千円)
- 5) 研究代表者：大西 真，研究分担者：安田 満，濱砂良一，小林寅吉，石井良和，荒川創一，三宅啓文，中西典子；日本医療研究開発機構研究費：薬剤耐性感染症の分子疫学解析手法の確立と薬剤耐性

- 化機構に関する研究；平成 27-29 年度；平成 27 年度；7,200 千円；平成 28 年度；60,000 千円；平成 29 年度；11,800 千円
- 6) 研究代表者：水谷晃輔；GSK 研究助成；尿路上皮由来のエクソソームを用いた、無症候性細菌尿と尿路感染を判別するための基礎的研究；平成 27 年度；2,000 千円
 - 7) 研究代表者：水谷晃輔；ノバルティスファーマ研究助成；腎癌関連エクソソームの解析；平成 27 年度；1,000 千円
 - 8) 研究代表者：土屋朋大，研究分担者：北市清幸，堀江憲吾；平成 27 年度 臨床研究推進支援経費(岐阜大学医学系研究科長・医学部長、岐阜薬科大学長、岐阜大学医学部附属病院長)：腎移植患者におけるタクロリムス投与量適正化を指向した遺伝子多型解析；600 千円
 - 9) 研究代表者：曾田 翠，研究分担者：出口 隆，伊藤 晋，安田 満；平成 27 年度臨床研究推進支援経費(岐阜大学医学系研究科長・医学部長、岐阜薬科大学長、岐阜大学医学部附属病院長)：男子淋菌性尿道炎に対する azithromycin SR の細菌学的効効を予測する pharmacokinetics-pharmacodynamics(PK-PD)パラメーターの検討；400 千円
 - 10) 研究代表者：伊藤 雅史、研究分担者；出口 隆、水谷晃輔、亀山紘司；科学研究費補助金基盤研究(B)：血液中エクソソームによる前立腺がんの去勢・薬剤抵抗性、悪性化の診断；平成 28-30 年度；28 年度分担金；1,700 千円, 29 年度；1,300 千円
 - 11) 研究代表者：水谷晃輔；ノバルティスファーマ研究助成；腎細胞癌に対するカバジタキセルと分子標的薬併用の抗腫瘍効果についての研究；平成 28 年度；500 千円
 - 12) 研究代表者：水谷晃輔；平成 29 年度研究科長・医学部長裁量経費による研究費；平成 29 年度；500 千円)
 - 13) 研究代表者：水谷晃輔；科学研究費補助金 若手研究(B)：腎癌由来エクソソーム解析と応用；平成 28-29 年度；3,000 千円(1,500：1,500 千円)。

2) 受託研究

- 1) 出口 隆：JIIJ-212082 第Ⅱ相試験；平成 24-27 年度；430,500 円：ヤンセンファーマ株式会社
- 2) 出口 隆：JIIJ-212082 第 3 相臨床試験；平成 24-30 年度；52,500 円：ヤンセンファーマ株式会社
- 3) 出口 隆：ランマーク皮下注 120mg 特定使用成績調査；平成 24-28 年度；472,500 円：第一三共株式会社
- 4) 出口 隆：JIIJ-212082 第 3 相臨床試験；平成 24-30 年度；1,281 千円：ヤンセンファーマ株式会社
- 5) 出口 隆：ゴナックス皮下注用 80mg；平成 25-28 年度；94,500 円：アステラス製薬株式会社
- 6) 出口 隆：リプレガル特定使用成績調査；平成 25-27 年度；63 千円：大日本住友製薬
- 7) 出口 隆：グラセプターカプセル 特定使用成績調査；平成 25-28 年度；252 千円：アステラス製薬株式会社
- 8) 出口 隆：グラセプターカプセル 特定使用成績調査；平成 25-28 年度；157,500 円：アステラス製薬株式会社
- 9) 出口 隆：「ジオン注」副作用・感染症調査；平成 26-27 年度；43,200 円：田辺三菱製薬株式会社
- 10) 出口 隆：JNJ-56021927 第 1 相臨床試験；平成 26-32 年度；1,002,240 円：ヤンセンファーマ株式会社
- 11) 出口 隆：サイモグロブリン点滴静注用 25mg の安全性及び有効性の検討(腎移植後の急性拒絶反応の治療)(前例調査)(特定使用成績調査)；平成 26-29 年度；97,200 円：サノフィ株式会社
- 12) 出口 隆：サーティカン錠維持期腎移植患者を対象とした特定使用成績調査；平成 27-30 年度；486 千円：ノバルティスファーマ株式会社
- 13) 出口 隆：グラセプターカプセル 特定使用成績調査；平成 25-28 年度；324 千円：アステラス製薬株式会社
- 14) 出口 隆：Epoetin beta pegol による移植腎後貧血の正常化と天然型ビタミン D3 の補充が移植腎機能に及ぼす影響を検討するランダム化比較試験；平成 26-30 年度；138,462 円：中外製薬株式会社
- 15) 出口 隆：イクスタンジカプセル 40mg 長期特定使用成績調査；平成 27-30 年度；97,200 円：アステラス製薬株式会社
- 16) 出口 隆：サーティカン錠維持期腎移植患者を対象とした特定使用成績調査；平成 27-30 年度；162

千円：ノバルティスファーマ株式会社

- 17) 出口 隆：グラセプターカプセル 1mg 安全管理情報詳細調査；平成 27-28 年度；21,600 円：アステラス製薬株式会社
- 18) 出口 隆：ジェブタナ点滴静注 60mg 使用成績調査(全例調査)；平成 27-31 年度；64,800 円：サノフィ株式会社
- 19) 出口 隆：ITK-1 第 3 相試験；平成 27-31 年度；870,480 円：FUJI フィルム株式会社
- 20) 出口 隆：S-649266 第 2 相臨床試験；平成 27-29 年度；421,200 円：塩野義製薬株式会社
- 21) 出口 隆：ザルティア錠副作用調査；平成 28-29 年度；21,600 円：日本新薬株式会社
- 22) 出口 隆：ゴナックス皮下注用 80mg；平成 25-28 年度；32,400 円：アステラス製薬株式会社
- 23) 出口 隆：ジェブタナ点滴静注副作用 感染症調査；平成 28-29 年度；21,600 円：サノフィ株式会社
- 24) 出口 隆：J1J-212082 第 3 相臨床試験；平成 26-31 年度；612,360 円：ヤンセンファーマ株式会社
- 25) 出口 隆：リツキサン注 10mg/mL(ABO 血液型不適合移植(腎移植)における交代関連型拒絶反応の抑制)使用成績調査；平成 28-33 年度；216,000 円：中外製薬株式会社
- 26) 出口 隆：オブジーボ根治切除不能または転移性の腎細胞癌全例調査；平成 28-31 年度；453,600 円：小野薬品工業株式会社
- 27) 出口 隆：ゴナックス皮下注用安全情報詳細調査；平成 29-30 年度；21,600 円：アステラス製薬株式会社
- 28) 出口 隆：オブジーボ副作用詳細調査(根治的切除不能または転移性の細胞癌)；平成 29 年度；21,600 円：小野薬品工業株式会社

3) 共同研究

- 1) 出口 隆：マイクロチップ PCR-電気泳動技術を用いた性感染症起炎菌の迅速検査システムの研究；平成 26-29 年度；2,000 千円：和光純薬工業株式会社
- 2) 出口 隆：臨床細菌尿中に存在する難培養菌と尿路感染症解明の為の共同研究；平成 27-30 年度；272,727 円：シスメックス株式会社

5. 発明・特許出願状況

- 1) 水谷晃輔：がんにおいてドセタキセル又はパクリタキセルに対する耐性を評価する方法、がんの悪性を評価する方法、及びそれら方法に用いられるキット；平成 28 年(特開 2016-211925)
- 2) 水谷晃輔：尿路感染症バイオマーカー及びその用途；平成 29 年(特願 2017-193870)

6. 学会活動

1) 学会役員

出口 隆：

- 1) 日本泌尿器科学会代議員(～現在)
- 2) 日本化学療法学会評議員(～現在)
- 3) 日本性感染症学会理事(～現在)
- 4) 日本感染症学会評議員(～現在)
- 5) 日本泌尿器内視鏡学会評議員(～平成 28 年 3 月)
- 6) 日本泌尿器科学会東海地方会会長(～平成 27 年 12 月)
- 7) 泌尿器科分子・細胞研究会世話人(～現在)
- 8) 東海ストーマリハビリテーション研究会世話人(～現在)
- 9) J-POPS 運営委員(～現在)
- 10) 日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会評議員(～現在)
- 11) 日本泌尿器科学会専門医制度審議会委員(平成 26 年 4 月～)
- 12) 日本性感染症学会学術奨励賞選考委員会委員(平成 28 年～)
- 13) 日本性感染症学会広報・ホームページ委員会委員長(平成 28 年～平成 29 年 12 月)
- 14) 日本泌尿器科学会東海地方会運営委員(平成 28 年 1 月～)

仲野正博：

- 1) 日本泌尿器内視鏡学会評議員(～平成 28 年 3 月)

- 2) 日本泌尿器科学会東海地方会運営委員(～現在)
- 3) 前立腺密封小線源永久挿入治療研究会プログラム委員(平成 26 年～)
- 4) J-POPS 研究会分担研究委員会委員(平成 22 年～)

横井繁明：

- 1) 日本泌尿器内視鏡学会評議員(～平成 28 年 3 月)
- 2) 泌尿器腹腔鏡技術認定医審査委員(～現在)

安田 満：

- 1) 日本化学療法学会評議員(～現在)
- 2) 日本化学療法学会幹事(平成 26 年 6 月～)
- 3) 日本感染症学会評議員(平成 26 年 10 月～)
- 4) 日本性感染症学会代議員(～現在)
- 5) 日本性感染症学会幹事(～平成 29 年 12 月)
- 6) 日本化学療法学会抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会委員(～現在)
- 7) 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス実務委員会調整委員(～現在)
- 8) JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会性感染症委員(～現在)
- 9) 日本泌尿器内視鏡学会尿路ステント部会委員(～現在)
- 10) 日本化学療法学会泌尿器感染症臨床評価法の改訂委員会委員(～平成 28 年)
- 11) 日本化学療法学会尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会委員(～平成 28 年)
- 12) 薬剤耐性菌感染症を対象とした抗菌薬臨床評価ガイドライン作成合同委員会委員 (平成 27 年～)
- 13) 日本性感染症学会利益相反委員会委員(平成 28 年～)
- 14) 日本性感染症学会会則検討委員会委員(平成 28 年～)
- 15) 日本性感染症学会広報・ホームページ委員会 委員(平成 28 年～)
- 16) 日本臨床微生物学会評議員(平成 28 年～)
- 17) 日本性感染症学会理事(平成 29 年 12 月～)

水谷晃輔：

- 1) 泌尿器分子・細胞研究会評議員(平成 26 年 4 月 1 日～現在)

2) 学会開催

出口 隆：

- 1) 第 269 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 27 年 9 月 名古屋)
- 2) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月 岐阜)
- 3) 第 276 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 29 年 12 月 名古屋)

3) 学術雑誌

出口 隆：

- 1) Journal of Infection and Chemotherapy ; Editorial Board(～現在)
- 2) International Journal of Urology ; Editorial Board(～現在)
- 3) 泌尿器科紀要；編集委員(～現在)
- 4) 日本性感染症学会；編集委員長(平成 25 年 12 月～平成 29 年 12 月)

安田 満：

- 1) 日本性感染症学会；編集委員(～平成 29 年 12 月)
- 2) 日本性感染症学会；編集委員長(平成 29 年 12 月～)
- 3) 日本化学療法学会誌；編集委員(平成 29 年 6 月～)
- 4) 日本感染症学会誌；編集委員(平成 29 年 6 月～)
- 5) Journal of Infection and Chemotherapy；編集委員(平成 29 年 6 月～)

水谷晃輔：

- 1) Medical Oncology: Editorial board(平成 27 年 1 月 1 日～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

出口 隆：

- 1) 第 103 回日本泌尿器科学会総会(平成 27 年 4 月, 金沢, 教育講演「泌尿器科領域における周術期感染-泌尿器科領域における antimicrobial stewardship」講師)
- 2) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, 会長講演「尿路性器感染症起炎菌の薬剤感受性の変遷」講師)
- 3) 第 104 回日本泌尿器科学会総会(平成 28 年 4 月, 仙台, The Power of Partnership (PP) 企画 7「オフィスウロロジー(臨床研究) 開業しながら続ける臨床研究」司会)
- 4) 第 104 回日本泌尿器科学会総会(平成 28 年 4 月, 仙台, The Spirit of Urology (SP) 企画 13「感染症・手術」司会)
- 5) 第 13 回日本癌治療学会(平成 28 年 7 月 31 日, 岐阜, 市民公開講座「女性に多いがん、男性に特有のがん 前立腺がんの検診から最新治療まで」講師)
- 6) 第 66 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 28 年 10 月, 四日市, 前立腺特別企画 2「前立腺炎の診断・治療」司会)
- 7) 第 66 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 28 年 10 月, 四日市, ランチョンセミナー「女性の過活動膀胱 ~Heterogeneous な病態への対応~」司会)
- 8) 第 30 回日本泌尿器内視鏡学会総会(平成 28 年 11 月, 大阪, 総会賞ポスター10「その他」審査員)
- 9) 日本性感染症学会第 29 回学術大会(平成 28 年 12 月, 岡山, 教育講演 1「淋菌の薬剤耐性化とそのメカニズム」司会)
- 10) 19th IUSTI Asia-Pacific conference(平成 28 年 12 月, 岡山, Symposium 10「Treatment strategies for *M. genitalium* infection-resistant status and new treatment」司会)
- 11) 第 8 回東海 STI 研究会(平成 29 年 9 月, 名古屋, 特別講演 2「性的マイノリティにおける性感染症」司会)
- 12) 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 29 年 11 月, 大阪, シンポジウム 5「尿路性器感染症 Up to date」司会)
- 13) 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 29 年 11 月, 大阪, ランチョンセミナー「Male LUTS の真髄に迫る~膀胱出口部閉塞と膀胱収縮力のバランスから見たタダラフィル first の可能性~」司会)
- 14) 日本性感染症学会第 30 回学術大会(平成 29 年 12 月, 札幌, イブニングセミナー「性感染症における *Mycoplasma genitalium* の病原的意義, そして治療」講師)
- 15) 日本性感染症学会第 30 回学術大会(平成 29 年 12 月, 札幌, ランチョンセミナー「男子尿道炎の多彩な原因微生物を如何に鑑別、治療するか」司会)

仲野正博：

- 1) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, イブニングセミナー「小線源永久挿入療法の現在地と未来 -Part 1 現在地-」講師)
- 2) JASTRO 第 19 回小線源治療部会 (平成 29 年 5 月 27 日 ランチョンセミナー 前立腺癌 中・高リスクに対する根治治療「中・高リスク前立腺癌に対する I-125 密封小線源永久挿入療法の有害事象対策-転ばぬ先の杖-」講師)

横井繁明：

- 1) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, シンポジウム「前立腺肥大症治療の外科的手術のコツ」座長)
- 2) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, シンポジウム「前立腺肥大症治療の外科的手術のコツ」シンポジスト)

安田 満：

- 1) 第 26 回日本臨床微生物学会総会・学術集会(平成 27 年 2 月, 東京, 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会報告「泌尿器科領域：2012 年における淋菌の薬剤サーベイランス」演者)
- 2) 第 103 回日本泌尿器科学会総会(平成 27 年 4 月, 金沢, 卒後教育プログラム「泌尿器科領域における周術期感染予防ガイドライン 2015 尿路内視鏡手術」講師)
- 3) 第 63 回日本化学療法学会総会(平成 27 年 6 月, 東京, シンポジウム「尿路感染症治療のベスト・プ

- ラクティスを提案する 急性腎盂腎炎治療のベスト・プラクティスは？」シンポジスト)
- 4) 第 80 回日本泌尿器科学会東部総会(平成 27 年 9 月, 東京, シンポジウム「感染症ガイドラインの正しい読み方 性感染症ガイドラインの正しい読み方」シンポジスト)
 - 5) 第 85 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第 58 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 27 年 10 月, 奈良, 教育講演「JAID/JSC 感染症治療ガイド 2014「尿路・性器感染症」の改訂のポイント」座長)
 - 6) 第 85 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第 58 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 27 年 10 月, 奈良, 委員会報告「泌尿器感染症臨床評価法の改訂委員会報告・尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会報告」演者)
 - 7) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, シンポジウム「ガイドライン 2015 から読み取る周術期感染予防 周術期感染予防ガイドライン 2015 について ～総論 適応・非適応症例とは～」シンポジスト)
 - 8) 第 67 回西日本泌尿器科学会(平成 27 年 11 月, 博多, 卒後教育プログラム「尿路感染症の診断・治療・予防 尿路感染症の診断」講師)
 - 9) 第 29 回日本泌尿器内視鏡学会総会(平成 27 年 11 月, 東京, シンポジウム「長期留置尿路ステントガイドライン 尿路ステント留置・交換時の感染症対策」シンポジスト)
 - 10) 平成 27 年度 全国保健師性感染症予防対策研修会(平成 28 年 1 月, 岐阜, 「岐阜県における性感染症の発生動向」講師)
 - 11) 第 90 回日本感染症学会総会(平成 28 年 4 月, 仙台, 委員会報告「三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス報告 尿道炎: クラミジア・トラコモナス」演者)
 - 12) 第 104 回日本泌尿器科学会総会(平成 28 年 4 月, 仙台, 卒後教育「性感染症ガイドライン」演者)
 - 13) 第 12 回思春期性教育・性感染症研究会(平成 28 年 4 月, 仙台, 特別講演「岐阜県における性感染症教育の取り組み～岐阜県性感染症教育研究会の活動について～」講師)
 - 14) 第 64 回日本化学療法学会総会(平成 28 年 6 月, 神戸, シンポジウム「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン～第 1 版の問題点と改訂について～」座長)
 - 15) 第 64 回日本化学療法学会総会(平成 28 年 6 月, 神戸, シンポジウム「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン 第 2 版 尿路感染症」シンポジスト)
 - 16) 第 66 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 28 年 10 月, 四日市, 特別企画「前立腺炎の診断・治療 慢性前立腺炎」演者)
 - 17) 日本性感染症学会第 29 回学術大会(平成 28 年 12 月, 岡山, シンポジウム「尿道炎原因菌に対する抗菌活性; 淋菌に対する抗菌活性」シンポジスト)
 - 18) 19th IUSTI Asia-Pacific conference (平成 28 年 12 月, 岡山, Symposium Newer trials for resistant gonorrhoeae 「Clinical trials for Gonococcal Urethritis by Azithromycin 2g Single Dose」シンポジスト)
 - 19) 第 18 回医師・臨床検査技師・薬剤師・看護師のための感染症学セミナー (平成 29 年 3 月, 東京, 「性感染症領域の耐性問題」講師)
 - 20) 第 91 回日本感染症学会総会・学術講演会, 第 65 回日本化学療法学会学術集会(平成 29 年 4 月, 東京, シンポジウム 12 性感染症の治療における Up to date 「淋菌性尿道炎および非淋菌性尿道炎; AZM2g・単回」シンポジスト)
 - 21) 第 105 回日本泌尿器科学会総会(平成 29 年 4 月, 鹿児島, Update 企画 21 尿路感染症・性感染症 - ゴールドスタンダードを考える- 「カテーテル関連尿路感染症治療のゴールドスタンダード」演者)
 - 22) 第 82 回日本泌尿器科学会東部総会(平成 29 年 9 月, 東京, ワークショップ 臨床現場で役立つ性感染症診療「淋菌性尿道炎の診療」演者)
 - 23) 第 8 回日本性感染症学会北陸支部学術集会(平成 29 年 10 月, 金沢, イブニングセミナー「尿道炎に関する最新の知見」講師)
 - 24) 第 66 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 64 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会(平成 29 年 11 月, 東京, シンポジウム 16 薬剤耐性淋菌の最新情報 - ゲノム情報から見えること- 「における薬剤耐性淋菌感染症の疫学」シンポジスト)
 - 25) 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 29 年 11 月, 大阪, シンポジウム 5 尿路性器感染症 Up to date 「性器感染症治療(尿道炎を含む)」シンポジスト)
 - 26) 日本性感染症学会第 30 回学術大会(平成 29 年 12 月, 札幌, 教育講演 1「わが国における薬剤耐性淋菌の疫学・治療」講師)

- 27) 第 272 回 ICD 講習会(平成 29 年 12 月, 札幌, 「性感染症における培養検査の意義と抗菌薬選択 - 尿道炎を中心に-」 講師)

土屋朋大 :

- 1) 第 49 回日本臨床腎移植学会 (平成 28 年 3 月, 米子, プレコングレスシンポジウム「岐阜大学における腎移植後プロトコール生検の検討～長期プロトコール生検は必要か～」 シンポジスト)
- 2) 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 29 年 11 月, 大阪, シンポジウム 2「腎移植後再発腎炎への対策」 シンポジスト)

堀江憲吾 :

- 1) 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 27 年 10 月, 岐阜, シンポジウム「外来で遭遇する小児科領域の尿路・性器感染症 ～STI を中心に～」 シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 安田 満 : 第 7 回 財団法人 性の健康医学財団賞 / 泌尿器科分野(平成 29 年度)

9. 社会活動

出口 隆 :

- 1) 岐阜県身体障害者医学的判定嘱託医師(～現在)
- 2) 岐阜県感染症予防対策エイズ対策部会委員(～現在)
- 3) 岐阜県ジン・アイバンク協会副理事長(～現在)

仲野正博 :

- 1) 身体障害福祉法第 15 条に基づく指定医(～現在)
- 2) 岐阜県難病指定医(～現在)
- 3) 岐阜県小児慢性特定疾病指定医(～現在)

10. 報告書

- 1) 谷畑健生, 荒川創一, 小野寺昭一, 岡部信彦, 秋元義弘, 武島 仁, 種部恭子, 伊藤晴夫, 五十嵐辰男, 佐藤武幸, 出口 隆, 安田 満, 金山博臣 : センチネルサーベイランスの施行について : 厚生労働科学研究費補助金 (新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)「性感染症の関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」平成 26 年度 総括・分担研究報告書 : 30-84(平成 27 年 3 月)
- 2) 谷畑健生, 荒川創一, 小野寺昭一, 岡部信彦, 秋元義弘, 武島 仁, 種部恭子, 伊藤晴夫, 五十嵐辰男, 佐藤武幸, 出口 隆, 安田 満, 金山博臣 : 7 県医療機関全数調査の 3 年間 (2012 年から 2014 年) の比較 : 厚生労働科学研究費補助金 (新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)「性感染症の関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」平成 24～26 年度 総合研究報告書 : 36-41(平成 27 年 3 月)
- 3) 谷畑健生, 荒川創一, 伊藤晴夫, 五十嵐辰男, 三嶋廣繁, 安田 満, 金山博臣 : センチネルサーベイランスの施行について : 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「性感染症の関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」平成 27 年度 総括・分担研究報告書 : 45-76(平成 28 年 3 月)
- 4) 谷畑健生, 伊藤晴夫, 五十嵐辰男, 三嶋廣繁, 安田 満, 金山博臣 : センチネルサーベイランスの施行について : 厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「性感染症の関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」平成 28 年度 総括・分担研究報告書 : 113-170(平成 29 年 3 月)

11. 報道

- 1) 安田 満 : 「感染症 TODAY」セファロsporin 耐性淋菌の現状と問題点 : ラジオ NIKKEI(2017 年 2 月 8 日)
- 2) 仲野正博 : 「大学はいま 研究室から」前立腺癌治療選択、熟考を : 岐阜新聞(2017 年 2 月 14 日)

12. 自己評価

評価

感染症領域、特に男子性感染症においては、起炎菌の探索、淋菌や *Mycoplasma genitalium* の薬剤耐性の疫学および薬剤耐性機序の解明などに関する研究成果に対しては国際的に高い評価を受けてきた。淋菌の臨床分離株の収集による薬剤感受性サーベイランスでは国内最大規模を誇り、平成10年からは、WHO Western Pacific Region (WHO WPR) の淋菌薬剤耐性サーベイランスの施設として登録された。癌領域では、東京都健康長寿医療センター研究所老化機構研究チームとの共同研究により、去勢抵抗性前立腺癌の抗癌剤耐性機序の解明、さらに癌細胞より分泌される exosome 内に含まれるタンパク質および遺伝子の解析を行う liquid biopsy の開発とその臨床応用に関する研究を行って成果を得た。他の研究課題においては着実に研究が進行しているものの、顕著な成果としては現れておらずより一層の努力を要する。

現状の問題点及びその対応策

最大の問題点は関連施設も含めた人員不足である。さらに、臨床活動のウェイトが増したことに伴って、益々研究に割ける員数と時間に影響が出ている。また、研究費の面でも、外部資金の獲得が厳しくなっている。即効性のある対応策はなく、また、当分野だけの問題ではないと考えている。当分野としては、以前にも増して本学医学部生及び他大学の学生に積極的にアピールし、留学生や学外企業からの社会人大学院生の積極的な受入を行なう。研究面の発展のために、学内の他分野、さらに他大学および他の研究施設との共同研究を積極的に展開する。また、研究成果を積極的に発表して外部資金の獲得に一層の努力を行う。

今後の展望

- 1) 前立腺癌の薬剤耐性機構の分子生物学的研究
タキサン系抗癌剤耐性に関する遺伝子の検索をさらに推し進める。
- 2) 去勢抵抗性前立腺癌の新規薬剤の効果の指標となる新規マーカーの探索研究
アピラテロン、エンザルタミドなど去勢抵抗性前立腺癌の新たな薬剤が臨床で使用可能となり、東京都健康長寿医療センター研究所老化機構研究チームとの共同研究により、新規薬剤の効果を予測する新規マーカーの検索を目指す。
- 3) Liquid biopsy の開発
坦癌患者の体液中の exosome を単離し、その内に含まれるタンパク質および遺伝子の解析を行い、予後、薬剤感受性などの予測が可能な liquid biopsy の開発を進める。
- 4) 尿路感染症の基礎的・臨床的研究
現在の研究を進め、また、遺伝子解析による薬剤感受性判定法の開発を目指す。これらの基礎的研究成果と pharmacokinetics/pharmacodynamics 理論に基づいた適正な抗菌化学療法の確立を目指す。
- 5) 男子尿道炎の基礎的・臨床的研究
岐阜薬科大学 薬物動態学研究室との共同研究を行い、pharmacokinetics/pharmacodynamics 理論に基づいた尿道炎に対する適正な抗菌化学療法の確立を目指す。抗菌化学療法の治療効果の向上と抗菌薬耐性菌の選択の抑制のために、尿道炎の起炎菌および耐性機序の検出を含めた point-of-care testing の開発を進める。
- 6) 腎移植における臨床的研究
岐阜薬科大学 薬物動態学研究室および本学附属病院薬剤部との共同研究により、免疫抑制剤の pharmacokinetics/pharmacodynamics 理論に基づいた適正使用の確立を目指し、その成果として移植腎の長期機能維持を目指す。
- 7) 鏡視下手術手技の開発研究
新たな技術および器具、器材の開発により、鏡視下手術の適応の拡大を目指す。

(9) 麻酔・疼痛制御学分野

1. 研究の概要

麻酔・疼痛制御学分野の主な研究課題は、周術期管理の問題点解明・安全性確立と術後痛を含む難治性疼痛治療の開発とを主眼に置いた研究である。脳脊髄の微小循環から周術期の脳脊髄保護に関する知見の収集（中枢神経系モニタリングを含む）や、酸化ストレスによる血管内皮障害に伴う病態・防御機構の解明、麻酔関連領域におけるシグナル伝達機能とその制御、難治性疼痛の対策を究明する研究を行っており、以下のようにまとめることができる。

- 1) 脳・脊髄循環に対する麻酔及びその関連薬に関する研究
- 2) 麻酔関連領域における（中枢神経系等）におけるシグナル伝達機能を含む研究
- 3) 酸化ストレス障害等による血管内皮障害および血管保護に関する研究
- 4) 遷延性術後痛を含む難治性疼痛制御に関する研究
- 5) 血小板凝集機能と周術期管理に関する研究
- 6) 骨芽細胞の活性化と鎮痛薬からみる機能性腰痛の機序ならびに鎮痛法の解明
- 7) 末梢神経ブロック（パルス療法を含む）による難治性疼痛治療

過去 10 年間以上にわたり科学研究費の配分を受け、頭蓋内及び脊髄腔内有窓法を用いて脳および脊髄の微小循環に対する麻酔薬・麻酔関連薬や生理学的刺激に対する反応の作用機序に関する活発な研究を行い、最近では脳脊髄保護の基礎的研究まで仕事の幅を広げてきた。臨床医から見た臨床現場での疑問・問題点をより詳細に解明すべく血管保護・神経保護等のシグナル分子機構への作用も検討し臨床応用の可能性を示した。また、周術期管理における血小板凝集亢進と抑制に関する問題点とメカニズムを解析している。さらに、近年注目されている遷延性術後痛に関する予防・治療法に関する研究を進めている。これらに加えて、機能性腰痛における骨芽細胞の活性化と各種鎮痛薬の関係を検討すること、またエコーガイド下に行う末梢神経へのインターベンション治療による難治性疼痛治療の治療戦略を分析している。

2. 名簿

教授：	飯田宏樹	Hiroki Iida
准教授：	田辺久美子	Kumiko Tanabe
講師：	熊澤昌彦	Masahiko Kumazawa
臨床講師：	山口 忍	Yamaguchi Shinobu
臨床講師：	福岡尚和	Fukuoka Naokazu
臨床講師：	吉村文貴	Yoshimura Noritaka
助教：	山田裕子	Yamada Yuko
助教：	鬼頭和裕	Kito Kazuhiro

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 山田裕子, 福岡尚和. 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 肝膿瘍: 高崎眞弓, 河本昌志, 木内恵子, 白神豪太郎, 萩平 哲編. まれな疾患の麻酔 AtoZ 東京: 文光堂; 2015 年: 493-494.
- 2) 飯田宏樹, 飯田祐子. オピオイド鎮静薬に関する用語: 細川豊史編. 慢性疼痛治療～現場で役立つオピオイド鎮静薬の必須知識～ 大阪: 医薬ジャーナル社; 2015 年: 16-19.
- 3) 飯田宏樹. 下垂体腫瘍: 内野博之, 川口昌彦編. 神経麻酔, 東京: 克誠堂出版; 2016 年: 231-235.
- 4) 鬼頭和裕, 飯田宏樹. 座位の手術: 内野博之, 川口昌彦編. 神経麻酔, 東京: 克誠堂出版; 2016 年: 236-242.
- 5) 田辺久美子, 飯田宏樹. 実験的治療-カルシウム拮抗薬, グルタミン酸受容体拮抗薬, フリーラディカルスカベンジャー, β ブロッカーなど: 牛島一男編. 虚血性中枢神経障害の基礎と臨床, 東京: 真興交易; 2016 年: 56-77.
- 6) 酒井規広. 局所麻酔薬が早く作用する神経線維はどれか: 稲田井英一編. 新・麻酔科研究の素朴な疑問に答えます, 東京: メディカルサイエンスインターナショナル; 2016 年: 245-248.
- 7) 酒井規広. 内転筋管ブロック: 森本康裕編. 超音波ガイド下末梢神経ブロック第 2 巻実践 25 症例, 東京: メディカルサイエンスインターナショナル; 2016 年: 113-117.
- 8) 酒井規広. 人工膝関節置換術 2: 森本康裕編. 超音波ガイド下末梢神経ブロック第 2 巻実践 25 症例, 東京: メディカルサイエンスインターナショナル; 2016 年: 133-139.
- 9) 酒井規広. 大腿神経ブロックと抗凝固・抗血栓療法. 抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン: ワーキンググループ編. 東京: 日本ペインクリニック学会・日本麻酔科学会・日本区域麻酔学会合同抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン; 2016 年: 56-58.
- 10) 南 公人. 心拍量②(その他)D)バイオインピーダンス法・バイオリアクタンス法: 国沢卓之編. 麻酔科医

として必ず知っておきたい周術期の循環管理, 東京: 羊土社; 2016年: 208-211.

- 11) 山田裕子, 飯田宏樹. ターニケット麻痺症候群: 高崎真弓, 河本昌志, 白神豪太郎, 萩平哲編. 麻酔偶発症 A to Z, 東京: 文光堂; 2017年: 156.
- 12) 飯田宏樹. 遷延性術後痛: 高崎真弓, 河本昌志, 白神豪太郎, 萩平哲編. 麻酔偶発症 A to Z, 東京: 文光堂; 2017年: 197-198.
- 13) 吉村文貴, 飯田宏樹. 変形性膝関節症: 山口重樹編. 痛み診療におけるオピオイド治療: プレノルフィン貼付剤の可能性, 東京: 真興交易; 2017年: 137-141.

著書 (欧文)

- 1) Minami K, Yoshitani K, Ohnishi Y. Anesthesia for adult brain arteriovenous malformations and moyamoya disease. In: Uchino H, Ushijima K, Ikeda Y, ed. Neuroanesthesia and cerebrospinal protection, New York: springer; 2015:331-342.
- 2) Iida H. Anesthesia for pituitary surgery: Uchino H, Ushijima K, Ikeda Y, ed. Neuroanesthesia and cerebrospinal protection, New York: springer; 2015:437-447.

総説 (和文)

- 1) 福岡尚和, 飯田宏樹, 榎本由貴子, 矢野大仁. 脳神経外科における MAC, 麻酔 2015年; 64巻: 275-284.
- 2) 福岡尚和. 整形外科領域での MEP と SEP, 麻酔 2015年; 64巻: 515-523.
- 3) 吉村文貴, 飯田宏樹. 亜急性期痛の実際-2)肺がん: 開胸術後急性期と亜急性期の痛み-, ペインクリニック 2015年; 36巻: 1619-1630.
- 4) 山口 忍, 飯田宏樹. プレガバリン, ガバペンチン. ペインクリニック. 2016年; 37巻: 561-572.
- 5) 飯田宏樹. 痛みをどうやって評価するか?. 医学のあゆみ. 2016年; 258巻: 1159-1167.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 山田忠則, 粕谷由子. 頸椎椎弓形成および後方固定術後に呼吸不全を発生した 1 症例, 日臨麻会誌 2015年; 35巻: 27-31.
- 2) 山口 忍, 飯田宏樹. 緊張型頭痛の分類, 診断, ペインクリニック 2015年; 36巻: S225-S233.
- 3) 山口 忍, 吉村文貴, 松本茂美, 竹中元康, 飯田宏樹. 疼痛患者の睡眠障害に与えるミルタザピンの影響, ペインクリニック 2015年; 36巻: 1215-1219.
- 4) 増江達彦, 中村好美, 横田 愛, 飯田美紀, 榎原いづみ, 下中浩之, 飯田宏樹, 伊原正幸, 柚木一馬. 新生児・乳児に対してのエアウェイスコープを用いた気管挿管の所要時間: 挿入法の違いによる比較, 日本小児麻酔学会誌 2015年; 21巻: 167-171.
- 5) 吉村文貴, 山口 忍, 杉山陽子, 田辺久美子, 飯田宏樹. トリガーポイント注射における局所麻酔剤の注入時痛の検討-ジブカイン配合薬(ネオビタカイン注®)とメピバカイン注射薬(カルボカイン注®)の比較-. ペインクリニック. 2016年; 37巻: 957-959.
- 6) 山本拓巳, 熊澤昌彦, 山田裕子, 玉木久美子, 操 奈美, 飯田宏樹. 岐阜大学附属病院麻酔科疼痛治療科における術前診察の現状について. 日臨麻会誌. 2016年; 36巻: 584-589.
- 7) 増江達彦, 飯田美紀, 中村好美, 位田 優, 柚木一馬, 伊原正幸. 新生児期手術適応の先天性心疾患患児の消化管穿孔の 3 症例-開腹人工肛門増設手術と開心術とのタイミング. 日本心臓血管麻酔学会誌. 2016年; 20巻: 69-73.
- 8) 小島明子, 田中亜季, 松波紀行, 花立史香, 春日井敏夫, 松波英寿. 右房進展した再発肝癌に対する周術期管理の経験. 臨床麻酔. 2016年; 40巻: 793-795.
- 9) 田中亜季, 春日井敏夫, 小島明子, 南 悦子, 丹羽 崇, 伊原 昇, 北澤 健, 花立史香, 小林建司, 松波英寿, 斉藤雄史. 肺癌術後癒性膿胸の繰り返す肺動脈出血に対する肺動脈塞栓術. 胸部外科. 2016年; 69巻: 95-98.
- 10) 田中亜里沙, 井上康弘, 三好利治, 山田裕子, 田辺久美子, 飯田宏樹. 硬膜外カテーテルの素材による X 線, CT 所見の違いの検討. 麻酔. 2017年; 66巻: 196-200.
- 11) 林慶州, 寺林伸夫, 松本茂美, 田辺久美子, 飯田宏樹. 鏡視下肩関節手術後痛に対する持続フェンタニル投与あるいはトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の有効性の検討. 麻酔. 2017年; 66巻: 744-747

原著 (欧文)

- 1) Iida Y, Doi T, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Tsujimoto M, Kuroyanagi G, Yamamoto N, Enomoto Y, Tanabe K, Otsuka T, Iwama T, Ogura S, Kozawa O, Iida H. Rho-kinase regulates human platelet activation induced by thromboxane A2 independently of p38 MAP kinase. Prostaglandin Leukot Essent Fatty Acids. 2015;94:73-81. CS 2.54
- 2) Tanabe K, Takahashi H, Iida H. Safe use of rocuronium for a post-polio syndrome patient. J Anesth. 2015;29:316. CS 1.20
- 3) Tanabe K, Matsumoto S, Nakanishi M, Iida H. The concentration for loss of consciousness by propofol does not differ between morning and afternoon. Int J Anesthetic Anesthesiol. 2015;2:1-2.
- 4) Nakanishi M, Tanabe K, Takenaka M, Iida H. Effect of lithotomy position on peripheral vascular

- resistance during spinal anesthesia. *Anesthesia and Resuscitation*. *Anesthesia and Resuscitation*. 2015;51:9-11.
- 5) Tokuda H, Kuroyanagi G, Tsujimoto M, Enomoto Y, Matsushima-Nishiwaki R, Onuma T, Kojima A, Doi T, Tanabe K, Akamatsu S, Iida H, Ogura S, Otsuka Ta, Iwama T, Tanikawa T, Ishikawa K, Kojima K, Kozawa O. Release of phosphorylated HSP27(HSPB1) from platelets is accompanied with the acceleration of aggregation in diabetic patients. *PLoS One*. 2015;10:e0128977. CS 3.54
 - 6) Matsumoto S, Matsumoto K, Iida H. Transdermal fentanyl patch improves post-operative pain relief and promotes early functional recovery in patients undergoing primary total knee arthroplasty: a prospective, randomised, controlled trial. *Arch Orthop trauma Surg*. 2015;135:1291-1297. CS 1.86
 - 7) Minami K, Yoshitani K, Inatomi Y, Sugiyama Y, Iida H, Ohnishi Y. A retrospective examination of the efficacy of paravertebral block for patients requiring intraoperative high-dose unfractionated heparin administration during thoracoabdominal aortic aneurysm repair. *J Cardiothorac Vasc Anesth*. 2015;29:937-941. CS 1.26
 - 8) Iida M, Tanabe K, Dohi S, Iida H. Airway management for patients with ossification of the anterior longitudinal ligament of the cervical spine. *JA Clinical Reports*. 2015;1:11.
 - 9) Yoshimura N, Iida H, Takenaka M, Tanabe K, Yamaguchi S, Kitoh K, Shirahashi K, Iwata H. Effect of postoperative administration of pregabalin for post-thoracotomy pain: A randomized study. *J Cardiothorac Vasc Anesth*. 2015;29:1567-72. CS 1.26
 - 10) Tanabe K, Kozawa O, Iida H. cAMP/PKA enhances interleukin-1 β -induced interleukin-6 synthesis through STAT3 in glial cells. *Cell Signal*. 2016;28:19-24.
 - 11) Sakata K, Fukuoka N, Tanabe K, Takenaka M, Iida H. Anaphylactic shock due to intravesical administration of pirarubicin hydrochloride for the fifth time. *J Clinical Anesth*. 2016;28:2-3. CS 0.85
 - 12) Yamada Y, Yamamoto T, Tanabe K, Fukuoka N, Takenaka M, Iida H. A case of anaphylaxis apparently induced by sugammadex and rocuronium in successive surgeries. *J Clinical Anesth*. 2016;32:30-32. CS 0.85
 - 13) Masue T, Iida M, Murakami T, Iida H. Regression analysis of tracheal intubation time to the decline in peripherally measured oxygen saturation for infants and neonates: comparison among cases with different categories of cardiac diseases. *Clinical Pediatric Anesthesia*. 2016;22:198-204.
 - 14) Tsujimoto M, Tokuda H, Kuroyanagi G, Yamamoto N, Kainuma S, Matsushima-Nishiwaki R, Onuma T, Iida Y, Kojima A, Sawada S, Doi T, Enomoto Y, Tanabe K, Akamatsu S, Iida H, Ogura S, Otsuka T, Kozawa O, Iwama T. AICAR reduces collagen-stimulated secretion of PDGF-AB and release of soluble CD40 ligand from human platelets: suppression of HSP27 phosphorylation via p44/p42 MAP kinase. *Exp Ther Med*. 2016;12:1107-1112. CS 1.50
 - 15) Tsujimoto M, Kuroyanagi G, Matsushima-Nishiwaki R, Kito Y, Enomoto Y, Iida H, Ogura S, Otsuka T, Tokuda H, Kozawa O, Iwama T. Factor Xa inhibitor suppresses the release of phosphorylated HSP27 from collagen-stimulated human platelets: inhibition of HSP27 phosphorylation via p44/p42 MAP kinase. *PLoS One* 2016;11:e0149077. CS 3.32
 - 16) Tokuda H, Kuroyanagi G, Tsujimoto M, Matsushima-Nishiwaki R, Akamatsu S, Enomoto Y, Iida H, Otsuka T, Ogura S, Iwama T, Kojima K, Kozawa O. Thrombin receptor-activating protein (TRAP)-activated Akt is involved in the release of phosphorylated-HSP27 (HSPB1) from platelets in DM patients. *Int J Mol Sci*. 2016;17:737. CS 1.26
 - 17) Sakata K, Yoshimura N, Tanabe K, Kito K, Nagase K, Iida H. Prediction of hypotension during spinal anesthesia for elective cesarean section by altered heart rate variability induced by postural change. *Inr J Obstet Anesth*. 2017;29:34-38. CS 1.13
 - 18) Minami K, Sugiyama Y, Iida H. A retrospective observational cohort study investigating the association between acute kidney injury and all-cause mortality among patients undergoing endovascular repair of abdominal aortic aneurysms. *J Anesth*. 2017;31:686-691. CS 1.13
 - 19) Onuma T, Tanabe K, Kito Y, Tsujimoto M, Uematsu K, Enomoto Y, Matsushima-Nishiwaki R, Doi T, Nagase K, Akamatsu S, Tokuda H, Ogura S, Iwama T, Kozawa O, Iida H. Sphingosine 1-phosphate (S1P) suppresses the collagen-induced activation of human platelets S1P4 receptor. *Thromb Res*. 2017;156:91-100. CS 2.28

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：飯田美紀；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：全身麻酔薬が術後創傷治療に与える影響－血管平滑筋細胞の遊走・増殖能から見た検討－；平成 26－27 年度；1,300 千円(600：700 千円)
- 2) 研究代表者：杉山陽子，研究分担者：飯田宏樹，田辺久美子；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：気道炎症の収束機転における GABAB 受容体の役割；平成 26－28 年度；2,900 千円(1,100：1,000：800 千円)
- 3) 研究代表者：長瀬 清；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：周術期ビッグデータを活用した体温

管理の可視化と手術患者アウトカムの知識探索型分析；26－28年度；1,400千円(600：500：300千円)

- 4) 研究代表者：田辺久美子，研究分担者；小澤 修：学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：血液－脳関門の機能維持からみた中枢神経保護の分子解析；平成 26－28 年度；3,800 千円(1,500：1,500：800 千円)
- 5) 研究代表者：飯田宏樹，研究分担者；田辺久美子，飯田真美：学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：脳血管内皮機能からみた周術期高血糖管理法－脳血管障害防御のための戦略－；平成 27－30 年度；3,700 千円(1,200：1,200：1,300 千円)
- 6) 研究代表者：鬼頭祐子；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：周術期における血小板機能に関する研究－抗血小板薬休薬と禁煙の影響の検討；平成 28－30 年度；2,200 千円(700：700：800 千円)
- 7) 研究代表者：田辺久美子，研究分担者：飯田宏樹；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：麻酔薬が脳代謝に与える影響から見た脳保護作用の分子基盤；平成 29－31 年度；1,900 千円(1,000：800：100)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 北市清幸，杉山陽子，山口 忍：オピオイドによる疼痛制御と脳移行制御型トランスポーターの関連に関する研究；平成 28 年度；1,000 千円：岐阜薬科大学薬物動態学研究室

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

飯田宏樹：

- 1) 日本麻酔学会代議員(～現在)
- 2) 日本ペインクリニック学会評議員(～現在)
- 3) 日本臨床麻酔学会評議員(～現在)
- 4) 日本疼痛学会評議員(～現在)
- 5) 日本疼痛学会理事(～現在)
- 6) 日本神経麻酔集中治療研究会評議員(～現在)
- 7) 日本神経麻酔集中治療研究会理事(～現在)
- 8) 日本区域麻酔学会評議員(～現在)
- 9) 日本蘇生学会評議員(～現在)
- 10) 日本脳神経モニタリング学会理事(～現在)
- 11) 日本慢性疼痛学会評議員(～現在)

田辺久美子：

- 1) 日本神経麻酔集中治療学会評議員(～現在)

山口 忍：

- 1) 日本ペインクリニック学会評議員(～現在)

2) 学会開催

飯田宏樹：

- 1) 日本神経麻酔集中治療学会第 19 回大会(平成 27 年 4 月，岐阜)
- 2) 日本ペインクリニック学会第 51 回大会(平成 29 年 7 月，岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

飯田宏樹

- 1) 日本麻酔科学会第 62 回学術集会(平成 27 年 5 月, 神戸, シンポジウム「中枢神経保護の最前線ー基礎研究の臨床応用への可能性を求めて; 現状と課題ー」座長)
- 2) 第 37 回日本疼痛学会(平成 27 年 7 月, 熊本, ランチョンセミナー「腎機能に配慮した鎮痛薬洗濯」座長)
- 3) 日本ペインクリニック学会第 49 回大会(平成 27 年 7 月, 大阪, ランチョンセミナー「硬膜外神経癒着剥離術(Racz 原法による)カテーテル手技の実際」座長)
- 4) 日本ペインクリニック学会第 49 回大会(平成 27 年 7 月, 大阪, 招聘講演「Neuroscopy up to date」座長)
- 5) 日本ペインクリニック学会第 49 回大会(平成 27 年 7 月, 大阪, 教育講演「遷延性術後痛: 機序から診療まで」座長)
- 6) 日本ペインクリニック学会第 49 回大会(平成 27 年 7 月, 大阪, シンポジウム「遷延性術後痛への対応」座長)
- 7) 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 13 回学術集会(平成 27 年 9 月, 名古屋, 周術期セミナー「麻酔後のケア」演者)
- 8) 日本臨床麻酔学会第 35 回大会(平成 27 年 10 月, 神戸, 招請講演「高齢化と術後認知機能障害」座長)
- 9) 日本蘇生学会第 34 回大会(平成 27 年 11 月, ランチョンセミナー「救急蘇生領域におけるエアウェイスコープの活用」座長)
- 10) 日本麻酔科学会第 63 回学術集会(平成 28 年 5 月, 福岡, ランチョンセミナー「周術期医学における臨床データの活用方法」座長)
- 11) 日本ペインクリニック学会第 50 回大会(平成 28 年 7 月, 横浜, リフレッシュャーコース「慢性疼痛に対する非オピオイド性鎮痛薬の使用方法」座長)
- 12) 日本ペインクリニック学会第 50 回大会(平成 28 年 7 月, 横浜, ランチョンセミナー「脳イメージングから見た慢性疼痛の病態と精神的アプローチ」座長)
- 13) 第 20 回日本神経麻酔集中治療学会(平成 28 年 7 月, 札幌, 特別講演「クマの冬眠と繁殖の生理・内分泌メカニズム」座長)
- 14) 日本臨床麻酔学会第 36 回大会(平成 28 年 11 月, 高知, 招請講演「情動を動かす臭覚: 匂いによる情動、感情、痛み管理の可能性」座長)
- 15) 日本区域麻酔学会第 3 回学術集会(平成 28 年 4 月, 弘前, シンポジウム「遷延性術後痛の therapeutic window を考える」シンポジスト)
- 16) 日本麻酔科学会第 63 回学術集会(平成 28 年 5 月, 福岡, シンポジウム「周術期禁煙ガイドラインー手術直前の禁煙の意義と teachable momentー」シンポジスト)
- 17) 第 21 回日本緩和医療学会学術大会(平成 28 年 6 月, 京都, シンポジウム「がん治療に関連する痛み対策のポイント」シンポジスト)
- 18) 日本ペインクリニック学会第 50 回大会(平成 28 年 7 月, 横浜, シンポジウム「遷延性術後痛の対策ー治療のターゲットー」シンポジスト)
- 19) 日本ペインクリニック学会第 51 回大会(平成 29 年 7 月, 岐阜, 会長講演「痛み治療におけるサイエンスと技の伝承」シンポジスト)

田辺久美子:

- 1) 第 19 回日本神経麻酔集中治療学会(平成 27 年 4 月, 岐阜, シンポジウム「Topics of neuroscience in anesthesiology」座長)
- 2) 日本麻酔科学会第 62 回学術集会(平成 27 年 5 月, 神戸, シンポジウム「脳の中の heat shock protein」シンポジスト)

山本拓巳:

- 1) 日本臨床麻酔学会第 35 回大会(平成 27 年 10 月, 横浜, シンポジウム「岐阜大学医学部附属病院麻酔科疼痛治療科における術前診察の現状について」シンポジスト)

杉山陽子：

- 1) 日本臨床麻酔学会第 35 回大会(平成 27 年 10 月, 横浜, シンポジウム「痛みの機序から考える鎮痛補助薬」シンポジスト)
- 2) 日本ペインクリニック学会第 51 回大会(平成 29 年 7 月, 岐阜, シンポジウム「遷延性術後痛の疫学とメカニズム」シンポジスト)

山口 忍：

- 1) 日本臨床麻酔学会第 35 回大会(平成 27 年 10 月, 横浜, シンポジウム「慢性痛患者(オピオイド使用中含む)の周術期管理」シンポジスト)

長瀬 清

- 1) 日本麻酔科学会第 63 回学術集会(平成 28 年 5 月, 福岡, シンポジウム「周術期医療の可視化と質向上への取り組み」シンポジスト)

福岡尚和

- 1) 第 19 回日本神経麻酔集中治療学会(平成 27 年 4 月, 岐阜, シンポジウム「デスフルランと神経モニタリング」シンポジスト)
- 2) 日本臨床麻酔学会第 35 回大会(平成 27 年 10 月, 横浜, シンポジウム「吸入麻酔と神経モニタリング」シンポジスト)
- 3) 日本臨床麻酔学会第 36 回大会(平成 28 年 11 月, 高知, シンポジウム「Monitored Anesthesia care とデクスメドミジン」シンポジスト)

吉村文貴

- 1) 日本ペインクリニック学会第 51 回大会(平成 29 年 7 月, 岐阜, シンポジウム「がんサバイバーの慢性痛治療 オピオイドの使用法および注意点」シンポジスト)
- 2) 日本ペインクリニック学会第 51 回大会(平成 29 年 7 月, 岐阜, シンポジウム「パルス療法の適応：末梢神経」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

- 1) 飯田宏樹, 竹中元康, 飯田真美：NO 吸入療法による周術期中枢神経保護法の確立に向けて：平成 24 年－平成 26 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)研究成果報告書(平成 27 年 3 月 1-6；2015)
- 2) 福岡尚和：アトロピンの脳血管内皮機能への作用：平成 25 年－平成 26 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究(B)研究成果報告書(平成 27 年 3 月 1-4；2015)
- 3) 杉山陽子, 飯田宏樹, 田辺久美子：気道炎症の収束機転における GABAB 受容体の役割：平成 26－28 年度学術研究助成基金助成金基盤研究(C)研究成果報告書(平成 29 年 3 月)
- 4) 長瀬 清：周術期ビックデータを活用した体温管理の可視化と手術患者のアウトカムの知識探索型分析：平成 26－28 年度学術研究助成基金助成金基盤研究(C)研究成果報告書(平成 29 年 3 月)
- 5) 田辺久美子, 小澤 修：血液－脳関門の機能維持からみた中枢神経保護の分子基盤：平成 26－28 年度学術研究助成基金助成金基盤研究(C)研究成果報告書(平成 29 年 3 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

大学病院はもとより関連病院の麻酔科の業務の増加などによるマンパワー不足に伴い、基礎研究に避ける時間が減ったことが制限因子となっているが、できるだけ臨床面を科学的に捉える臨床研究を進めることによって、アメリカ麻酔学会・ヨーロッパ麻酔学会・世界麻酔学会議等の外国および国際学会での発表、そして日本麻酔科学会・日本臨床麻酔学会・日本ペインクリニック学会への発表を通して、医局員のリサーチマインドの維持は出来ていると評価している。また、日本ペインクリニック学会第51回大会を昨年岐阜で開催し、全国から2,200名を超える疼痛治療の専門家が訪れ、痛み治療に関して多面的な検討を行った。当講座からも多くの講演者・シンポジスト等をだし、全国的にも先頭に立って、難治性疼痛の機序解明・治療戦略開発を行っている。

現状の問題点及びその対応策

医学部および病院の全面移転から10年以上を経て診療体制並びに研究体制も整備されてきた。しかし、地方大学での麻酔科医のマンパワーの確保の困難さは当施設でも明らかである現状の中で附属病院の収入増加のためには手術数の増加が必要であり、また地域救急体制の中心として、またがん拠点病院としての機能から当病院で手術が必要となる患者数が増えることは必然であった。それを中央部門として支える麻酔科医としての臨床業務の負担が増加するために、研究業務に割ける人員・時間が限られていることが研究を遂行している上での最も重要な実質的な問題である。現在研究を希望して大学院に入学している医師にも学費を払いながら、臨床業務を義務化して遂行せざるを得ない。抜本的な改革は今後の問題として残されている。研究費は幸いにも科学研究費の配分を受け、研究室の整備も段階的に進めてきたので当面は円滑な研究活動が期待できる。麻酔科医に占める女性医師の割合は年々増加しており、その活動の活性化は必要なポイントである。昨年、寄附講座として「周術期女性医師活躍支援講座」を立ち上げ、その活用によって更なる発展を進めている。

今後の展望

現在進めている研究を少ない研究人員・時間でどのように発展させていくかが今後も続く課題である。地域医療の中心である当病院の社会的使命として優れた臨床医を関連する地域医療機関に派遣するという仕事があるだけに、当面は著明なマンパワーの増加は期待できないので、現在も行っている他の基礎部門との共同研究によって、より効率的に研究を遂行することが必要であると考えている。現在、グリア細胞におけるシグナル伝達を中心に成果も上がっているため、この分野での活発な成果が期待される。また、脳脊髄血管の研究においても、血管の反応性の研究を超えて組織保護に繋がるシグナル伝達を含めたメカニズムに迫る分野へ発展させていく予定である。さらに、より一層基礎分野との研究協力を活性化することを考慮している。

研究室での研究遂行の遂行に十分な人員・時間が割けないところは周術期管理において日々の臨床活動の中で、臨床研究を進め、臨床の安全性の検討を図るべき研究プロジェクトを推進している。また、遷延性術後痛や疼痛外来での患者治療を行いながら、X線透視下やエコーガイド下にインターベンションを積極的に行うことによって、難治性疼痛の制御に関する方法の解明を通じて臨床研究を維持し、社会のニーズに応えると共にリサーチマインドの維持に努め、科学的な思考のできる臨床医を育てていくことを目標に掲げている。全国レベルの学会で多くの講座メンバーが講演者・シンポジストとして招聘されるようになってきており、今後ますます活躍が期待できる。

(10) 口腔病態学分野

1. 研究の概要

臨床研究：最近の分子生物学の発展により、多くの疾患において分子生物学的機序が明らかとされて来ている。また、近年の再生医療研究の発展も著しく、口腔医療への応用も様々な面で進展して来ている。この現状を鑑み、当分野では、口腔病変（口腔がん、白板症、扁平苔癬、その他歯原性腫瘍など）の解析と、再生医療の臨床展開に軸足を置き以下の研究課題に取り組んでいる。

- 1) 口腔病変の分子疫学的解析
- 2) 口腔機能再建（移植・再生医療）
- 3) 口腔乾燥症の病態と治療
- 4) 口腔がんの集学的治療
- 5) ヒト歯胚・歯髄からの幹細胞採取と iPS 細胞化・バンク化事業

基礎研究：口腔がんの次世代治療法開発を目指し、発がん・悪性化進展プロセスにおける epigenetic 因子の関与とその制御の可能性および顎・口腔機能の改善・再生に対する細胞工学的検討を視野に以下の検討を行なっている。

- 1) がん悪性化進展機序における DNA メチル化異常の解析
- 2) 再生医療の新技术開発
- 3) 口腔がん化学予防法の開発
- 4) ヒト歯胚・歯髄からの幹細胞採取と iPS 細胞化・バンク化事業

2. 名簿

教授：	柴田敏之	Toshiyuki Shibata
講師：	牧田浩樹	Hiroki Makita
講師：	加藤恵三	Keizo Kato
講師：	畠山大二郎	Daijiro Hatakeyama
助教：	米本和弘	Kazuhiro Yonemoto
助教：	飯田一規	Kazuki Iida
助教：	中島教行	Takayuki Nakashima
助教：	杉山 健	Ken Sugiyama
医員：	川口知子	Tomoko Kawaguchi
医員：	武内勝章	Katsuaki Bunai
医員：	井上敬介	Keisuke Inoue
医員：	波野公香	Kimika Hano
医員：	石田和久	Kazuhisa Ishida

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 川口真矢, 加藤博基, 兼松雅之, 畠山大二郎, 玉置也剛, 柴田敏之, 鬼頭勇輔. 高齢者に発生した下顎骨類腫線維腫(desmoplastic fibroma)の1例, 臨床放射線, 2015年; 60巻9号: 1167-1173.
- 2) 菅原由美子, 神部芳則, 笹野高嗣, 草間幹夫, 森 良之, 北川善政, 高橋 哲, 杉山芳樹, 福田雅幸, 川俣均, 柴田敏之, 植野高章, 岸本裕充, 飯田征二, 中村典史, 杉浦 剛. 口腔扁平苔癬に対する Cephathine の臨床効果に関する後方視的多施設共同研究, 日本口腔内科学会雑誌, 2016年; 22巻2号: 59-67.
- 3) 加藤博基, 松尾政之, 水田啓介, 青木光広, 久世文也, 柴田敏之, 牧田浩樹, 加藤恵三. 頸部リンパ節転移

- の治療前画像診断のポイント・問題点, 頭頸部癌, 2016年; 42巻3号: 290-293.
- 4) 川口真矢, 加藤博基, 松尾政之, 青木光弘, 水田啓介, 加藤恵三, 柴田敏之, 小林一博. Multi-Organ Disease への核医学的アプローチ 頭頸部腫瘍性疾患, 臨床放射線, 2016年; 61巻11号: 1363-1368.
 - 5) 井上敬介, 山下知巳, 林 樹, 吉田浩明, 土井田 誠, 柴田敏之. 上顎臼歯部歯肉に発生した周辺性エナメル上皮腫の1例, 日本口腔診断学会雑誌, 2017年; 30巻1号: 47-51.
 - 6) 畠山大二郎, 井上敬介, 吉田浩明, 牧田浩樹, 柴田敏之. 歯肉に生じたメソトレキセート関連リンパ増殖性疾患の2例, 日本口腔診断学会雑誌, 2017年; 30巻2号: 216-222.
 - 7) 林 樹, 山下知巳, 土井田 誠, 柴田敏之. 舌に発生した髄外性形質細胞腫の1例, 日本口腔外科学会雑誌, 2017年; 63巻7号: 374-377.
 - 8) 加藤博基, 加藤恵三, 牧田浩樹, 畠山大二郎, 柴田敏之, 水田啓介, 青木光弘, 松尾政之. 【歯・顎・口腔の画像診断】扁平上皮癌以外の悪性腫瘍, 画像診断, 2017年; 37巻7号: 699-711.
 - 9) 加納宏之, 丹羽宏文, 飯田一規, 小林一博. 扁平苔癬, J Visual Dermatol, 2017年; 16巻: 38-39.
 - 10) 久保宗平, 安田聡, 近藤英仁, 中島教行, 市原秀記. 咬筋内に発生した静脈奇形, 日本口腔診断学会雑誌, 2017年; 30巻1号: 56-59.
 - 11) 久保宗平, 安田聡, 近藤英仁, 中島教行, 市原秀記. 緩和ケア病棟における周術期高機能管理の臨床的検討-アンケート調査による解析, 日本口腔診断学会雑誌, 2017年; 30巻3号: 237-242.

原著 (欧文)

- 1) Naito E, Kudo D, Sekine SI, Watanabe K, Kobatake Y, Tamaoki N, Inden M, Iida K, Ito Y, Hozumi I, Shibata T, Maeda S, Kamishina H. Characterization of canine dental pulp cells and their neuroregenerative potential. *In Vitro Cell Dev Biol Anim.* 2015;51:1012-1022. CS 1.32
- 2) Kudo D, Inden M, Sekine S, Tamaoki N, Iida K, Naito E, Watanabe K, Kamishina H, Shibata T, Hozumi I. Conditioned medium of dental pulp cells stimulated by Chinese propolis show neuroprotection and neurite extension in vitro. *Neurosci Lett.* 2015;4:589:92-97. CS 2.21
- 3) Otsuka H, Ozeki M, Kanda K, Hori T, Kawamoto N, Saigo C, Kato H, Makita H, Shibata T, Fukao T. Complete bone regeneration in hemophilic pseudotumor of the mandible. *Pediatr Int.* 2016;58(5):406-408. CS 0.96
- 4) Hino M, Kamo M, Saito D, Kyakumoto S, Shibata T, Mizuki H, Ishisaki A. Transforming growth factor- β 1 induces invasion ability of HSC-4 human oral squamous cell carcinoma cells through the Slug/Wnt-5b/MMP-10 signalling axis. *J Biochem.* 2016 Jun;159(6):631-640. CS 2.37
- 5) Komatsu Y, Ibi M, Chosa N, Kyakumoto S, Kamo M, Shibata T, Sugiyama Y, Ishisaki A. Zoledronic acid suppresses transforming growth factor- β -induced fibrogenesis by human gingival fibroblasts. *Int J Mol Med.* 2016 Jul;38(1):139-147. CS 2.40
- 6) Chiba T, Ishisaki A, Kyakumoto S, Shibata T, Yamada H, Kamo M. Transforming growth factor- β 1 suppresses bone morphogenetic protein-2-induced mesenchymal-epithelial transition in HSC-4 human oral squamous cell carcinoma cells via Smad1/5/9 pathway suppression. *Oncol Rep.* 2017 Feb;37(2):713-720. CS 2.73
- 7) Nagashima K, Miwa T, Soumiya H, Ushiro D, Takeda-Kawaguchi T, Tamaoki N, Ishiguro S, Sato Y, Miyamoto K, Ohno T, Osawa M, Kunisada T, Shibata T, Tezuka K, Furukawa S, Fukumitsu H. Priming with FGF2 stimulates human dental pulp cells to promote axonal regeneration and locomotor function recovery after spinal cord injury. *Sci Rep.* 2017 Oct 18;7(1):13500. CS 4.63
- 8) Hiroki Makita, Daijiro Hatakeyama, Kazuhiro Yonemoto, Keizo Kato, Hiroki Kato, Toshiyuki Shibata. A case of desmoplastic fibroma occurring at the mandible: Serial observations suggesting the successful effects of antihistamine agent and interaction of estrogen hormone. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.* 2017 29(3):275-280. CS 0.22
- 9) Ishida K, Tomita H, Nakashima T, Hirata A, Tanaka T, Shibata T, Hara A. Current mouse models of oral squamous cell carcinoma: Genetic and chemically induced models. *Oral Oncol.* 2017 Oct;73:16-20. CS 3.81
- 10) Nakashima T, Tomita H, Hirata A, Ishida K, Hisamatsu K, Hatano Y, Kanayama T, Niwa A, Noguchi K, Kato K, Miyazaki T, Tanaka T, Shibata T, Hara A. Promotion of cell proliferation by the proto-oncogene DEK enhances oral squamous cell carcinogenesis through field cancerization. *Cancer Med.* 2017 Oct;6(10):2424-2439. CS 2.45
- 11) Kawaguchi M, Kato H, Kito Y, Mizuta K, Aoki M, Kato K, Goshima S, Matsuo M. Imaging findings of primary immunoglobulin G4-related cervical lymphadenopathy. *Neuroradiology.* 2017 Nov;59(11):1111-1119. CS 2.35

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 米本和弘, 研究分担者: 牧田浩樹, 柴田敏之; 科学研究費補助金基盤研究(C): 4NQO 誘発ラット舌癌モデルにおける micro RNA の解析; 平成 25-27 年度; 3,900 千円(1,300 : 1,430 : 1,170 千円)
- 2) 研究代表者: 加藤恵三, 研究分担者: 原 明, 田中卓二, 玉置也剛, 柴田敏之; 科学研究費補助金基

- 盤研究(C)：環境因子による口腔粘膜メチル化異常の経時的解析と脱メチル化による影響の解析；平成 25-27 年度；4,680 千円(650：2,340：1,690 千円)
- 3) 研究代表者：畠山大二郎，研究分担者：川口知子，玉置也剛，飯田一規，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)：ヒト歯髄細胞における iPS 細胞誘導効率の促進因子の解析；平成 26-28 年度；4,680 千円(1,560：1,560：1,560 千円)
 - 4) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：飯田一規，玉置也剛，川口知子，畠山大二郎，石崎 明；科学研究費補助金基盤研究(B)：ヒト歯髄幹細胞からの iPS 細胞誘導の効率化・良質化の検討；平成 26-30 年度；15,730 千円(3,510：3,250：2,990：2,990：2,990 千円)
 - 5) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：牧田浩樹，加藤恵三，米本和弘，安彦善裕；科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査：東南アジアの噛みタバコ習慣と口腔粘膜 DNA メチル化異常の擦過標本における検討；平成 26-30 年度；15,990 千円(3,510：3,120：3,120：3,120：3,120 千円)
 - 6) 研究代表者：川口知子，研究分担者：柴田敏之，畠山大二郎，飯田一規，玉置也剛；科学研究費補助金基盤研究(C)：動物因子不含ヒト歯髄由来幹細胞を用いた脊髄損傷治療モデルの作成；平成 26-28 年度；4,680 千円(1,560：1,560：1,560 千円)
 - 7) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：飯田一規，玉置也剛，川口知子；科学研究費補助金挑戦的萌芽研究：ヒト iPS 細胞からのがん幹細胞誘導の試み；平成 26-27 年度；3,380 千円(1,690：1,690 千円)
 - 8) 研究代表者：飯田一規；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：高齢者のヒト歯髄細胞の分化能と iPS 細胞樹立効率を向上させるための基礎的検討；平成 27-30 年度；3,510 千円(780：910：910：910 千円)
 - 9) 研究代表者：玉置也剛；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：DLX4 によるヒト体細胞の初期化促進効果のメカニズム解明；平成 27-29 年度；3,770 千円(1,430：1,170：1,170 千円)
 - 10) 研究代表者：牧田浩樹，研究分担者：米本和弘，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)：分子イメージングにおける非侵襲的口腔診断システム確立のための基礎的研究；平成 27-29 年度；3,640 千円(1,300：1,430：910 千円)
 - 11) 研究代表者：米本和弘，研究分担者：牧田浩樹，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)：4NQO 舌癌ラットモデルにおける PD-1/PD-L1 経路の解析；平成 28-30 年度；3,640 千円(1,300：1,300：1,040 千円)
 - 12) 研究代表者：川口知子，研究分担者：飯田一規，柴田敏之，畠山大二郎；科学研究費補助金基盤研究(C)：HLA ハプロタイプホモ歯髄細胞および iPS 細胞由来エクソソームの解析；平成 29-31 年度；4,290 千円(1,430：1,430：1,430 千円)
 - 13) 研究代表者：杉山 健；研究活動スタート支援：ヒト歯髄細胞のドナー個体差を利用した脊髄損傷治療の研究；平成 29-30 年度；2,730 千円(1,430：1,300 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 柴田敏之，牧田浩樹：口腔扁平苔癬治療におけるセファランチン投与例に対する臨床効果および有害事象の多施設・後方視的共同研究；平成 26-27 年；300 千円：化研生薬(株)

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

柴田敏之：

- 1) 日本口腔外科学会代議員(平成 24 年 10 月～現在)
- 2) 日本口腔外科学会中部支部総務理事(平成 24 年 10 月～現在)
- 3) 日本口腔科学会評議員(～現在)
- 4) 日本口腔腫瘍学会評議員(～現在)
- 5) 日本口腔顔面外傷学会理事(～現在)
- 6) 日本口腔外科学会理事(～現在)

- 7) 日本口腔外科学会倫理委員会委員長(～現在)
- 8) 日本口腔外科学会医療安全委員会委員長(～現在)
- 9) 日本口腔外科学会専門医制度委員会委員(～現在)

牧田浩樹：

- 1) 日本口腔外科学会代議員(平成 24 年 10 月～現在)

2) 学会開催

柴田敏之：

- 1) 第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会(平成 27 年 10 月, 名古屋)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

柴田敏之：

- 1) 第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会(平成 27 年 10 月, 名古屋, 教育講演 I・II「認知症の理解と対応」「術後せん妄対策...何が起きているのか」座長)
- 2) 第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会(平成 27 年 10 月, 名古屋, シンポジウム II iPS 細胞・再生医療「今と今後」座長)
- 3) 第 61 回日本口腔外科学会総会・学術大会(平成 28 年 11 月, 千葉, 国際シンポジウム 3「Modern Research Regeneration」座長)
- 4) 第 16 回再生医療学会総会(平成 29 年 3 月, 仙台市, シンポジウム 16「ヒト歯髄細胞の再生医療への活用」シンポジスト)
- 5) 第 42 回(公社)日本口腔外科学会中部支部学術集会(平成 29 年 5 月, 静岡, 教育講演「日本発のがん免疫療法, 免疫チェックポイント阻害剤とは何か?」座長)
- 6) 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会(平成 29 年 10 月, 京都, 海外招聘講演 2「Oral and Maxillofacial Surgery in Germany: Trends and Developments」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

柴田敏之：

- 1) 日本学術振興会特別研究員審査会専門委員(平成 24 年度～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

12. 自己評価

評価

口腔病態学分野の総合的評価として、概ね目標を達成していると考えている。

現状の問題点及びその対応策

活動を推進するために最も必要である資金面は、継続して科学研究費の獲得目標を達成している。また、それに伴う研究成果も経時的に積み重ねられている。さらに、学内外の研究室との連携も重要と考え、研究分担についての協議を重ねている。これらの研究面においては、このままの努力を継続することにより成果が得られると考える。現在においては、人材の確保・育成が重要な課題であり、新しい人材にとって魅力的な施設であるための育成カリキュラムの構築とアピールが必要と考える。

今後の展望

現在、ヒト歯胚・歯髄からの組織幹細胞の集積・バンク化と iPS 細胞化を展開中であり、有望な結果を示しつつある。これを成長エンジンの柱のひとつとして加え、脊髄損傷修復などの関連分野との発展を模索している。さらに、我々の教室のもうひとつのテーマであるヒト口腔がんの遺伝子解析は、iPS 細胞の細胞初期化と深く関わっており、両者は相乗効果をもたらすものと期待している。